日本建築協会 発行

復刻版

建築と社会

第78巻

第26集第１号～第26集第７号（昭和18年１月～７月）

不二出版

復刻にあたって

一、原本の誌名は次のように変遷している。
　『関西建築協会雑誌』（大正６年９月～７年12月）
　『日本建築協会雑誌』（大正８年１月～８年12月）
　『建築と社会』（大正９年１月以降）

一、表紙を若干縮小して収録した場合がある。また、原本が断裁されているため、不完全なものがある。

一、断裁による不完全な文字は組み直したものがある。

一、表紙の刷色は一色に統一したため原本とは異なる。

一、口絵はカラーの頁も全て黒一色で印刷した。

一、「会報」の通頁には乱れがあるが、原本のままとした。

一、各集ごとの「総目録」は、発見できたものに限り、該当集の第一号の前に収録した。

一、裏表紙は、『第一集第一号』に限り収録した。

一、目次の発行日は、奥付に記されたものを採用した。

一、前付広告の一部及び後付広告は収録しなかった。「広告見出」「広告目次」および「掲載広告一覧」（復刻に際し新たに組み、付け加えた）を参照して頂きたい。
　また、広告頁には独自の頁が付けられているため、本復刻版の広告頁の頁は一貫していない。

一、本復刻版は日本建築協会所蔵の原本を使用した。

（不二出版）

【第78巻目次】

第26集第１号　昭和18(1943)年１月１日発行
第26集第２号　昭和18(1943)年２月１日発行
第26集第３号　昭和18(1943)年３月15日発行
第26集第４号　昭和18(1943)年４月15日発行
第26集第５号　昭和18(1943)年５月20日発行
第26集第６号　昭和18(1943)年６月20日発行
第26集第７号　昭和18(1943)年７月15日発行

大正6年9月14日　第3種郵便物認可・昭和18年5月15日印刷納本・昭和18年5月20日發行（毎月1回1日發行）

建築と社會

第26輯　第5號
昭和18年5月1日

5

社團法人 日本建築協會

株式會社 大林組

大阪市東區京橋三丁目七五
電話東(94)八六〇(6)五四〇四(6)

支　店　東京、名古屋、福岡、京城、北京

營業所　廣島、仙臺、札幌、臺北、天津
青島、張家口、上海

工作所　大　阪、　東　京

特許專賣

ロータス

セメント防水劑



ロータス防水工法責任施行

關城化學工業株式會社 大阪營業所

大阪市西區京町堀一丁目　(電)土佐堀(44)825 3825

東京營業所　東京市渋谷區金王町五　(電)青山 3810
広島營業所　広島市數寄屋町一八　(電)中(2)1344
滿洲國總代理店　株式會社 大信洋行建材部

本社　東京市京橋區銀座三丁目
電話京橋(代表)六一五一番
六一五九番

大倉土木株式會社

大阪出張所　大阪市東區釣鐘町二丁目二九
代表者兼取締役所長　王丸源次郎
電話東(國)二一〇六・三一一一―三一二五(國)六二五〇・六二五一

出張所
橫濱市中區海岸通一ノ一
名古屋市中區大津通一(千代田ビルヂング内)
福岡市天神町二(千代田ビルヂング内)
札幌市通四五丁目二(日本徵兵ビルヂング内)
京城府大和町一ノ四
臺北市本町二ノ六
北京北池子四四
上海北四川路狄思威路六六



所名變更謹告

昭和十八年五月廿七日の海軍記念日の吉日を選び開設以來の弊所所名オリエンタル製造所を

東洋被覆鋼鈑製造所

と變更致す事と相成候間御高承の上倍舊の御引立賜度先は右御披露迄如斯御座候

東洋被覆鋼鈑製造所
所長　津村芳三

本社及工場　尼崎市大物北口(阪國電停前)電尼七六・二四六番
電報略符(ト)又ハ(トヒ)
東京出張所　東京市日本橋區通二(大同生命館内)
東京工場　埼玉縣蕨町　蕨驛前
廣島出張所　廣島市袋町六番地(富國館内)
北京出張所　北京內四區西四北小拐棒胡同廿四號
滿洲販賣店　大連市　株式會社 福昌公司

建築と社會

第26輯　第5號　　昭和18年5月發行

五月號

目　次

隣組共同施設を中心とした
「女性と住生活」展覽會・報告……建築工藝技術研究所・日本建築協會…(1)
「女性と住生活」展感想
協同施設の理論と實際……石川純一郎…(17)
「女性と住生活」展について……小田島兵吉…(23)
「女性と住生活」展を觀て……中野順次郎…(26)
「女性と住生活」展を觀て……竹内さく…(27)
先斗町組合榮養共同炊事見學の記……編輯幹事會…(28)
逆瀨川爆彈投下演習に於ける各種供試體の被害狀況…演習本部調査班…(34)
合力線のトラス解法への應用（2）……寺門四志猪…(43)

☆紫　烟　室☆

すてんしよ……辰巳孝雄…(51)
續7坪半の建築家……青山正義…(53)
ローマの回想……津田鑿…(54)

☆寫　眞　欄☆

菖蒲池厚生住宅展圖譜……
會　　報……(57)

三星印
三星印岩綿製品
防音・保温・耐火裝置
三星岩綿ブロック（パザール）構成の防音裝置は爆音に耐へる吸音率を有す
設計　大阪市北区中之島五ノ三〇　大阪田島應用化工株式會社　電話土佐堀(44)1323.5682.6221.7294
施工　東京市神田區岩本町三番地　三星産業株式會社　電話浪花㊞0072番

會　　告

六　月　例　會

五月例會は京都會勢幹事會援助の下に盛會裡に終了仕候處此度六月例會として神戸會勢幹事會の協力を得下記の通り東播の靈刹國寶太山寺見學を催し候若し健脚の士行程數里の往き還りを一枚を伴とし徒歩すれば野趣に富める驛路々々の自然の風光と新綠氣分を滿喫するを得併せて厚生運動と共に詩嚢を充たすに絶好ならん乎奮而御申込あらん事を

1.時　　6月20日（日）11時集合　時雨不論　午後3時解散豫定

1.集　合　所　太山寺境內　安養寺（兵庫縣明石郡伊川谷村前開）

順路（晴天の時）神戸市內板宿より市バス利用終點車にて下車夫より徒歩約1里半（バス始發6時30分より1時間毎、8錢）

（雨天の時）省線明石驛前神姫バス利用終點太山寺門前下車（午前7時.9時.12時發片道35錢）

1.祈　　願　本堂にて祈願す

1.見　　學　太山寺塔中安養院主山村如水師の案內及說明の下に次記見學す

仁王門　特別保護建造物

本　堂　國寶今を去る千二百年靈龜二年建造

三重塔、常行堂外三堂、不動明王童子像外國寶多數特別開扉

1.中　　食　12時安養院主の配慮になる田舍料理の中食をなす（但各人米約1合當日御持參願上候）

1.會　　費　金參圓也（振替口座大阪39975）其他にて必ず前納の事（但交通費は自辨の事）

1.有志懇親晩餐會　金拾圓也　明石市內にて5時開會、會場未定出席者に後報す（但7時解散の豫定）

1.申込及締切　ハガキにて直に申込の事　豫定人員に達したる時先着順締切申候

○參加者は本會々員に限る。會員章佩用のこと。代人は御斷り。

○申込後缺席の場合にも會費負擔願上候

○境內に閼伽井水とて古より名高き眼病に卓効ありと云ふ湧水あり希望の向は容器持參ありたし

○出席者には參加通知と共に名簿及當日の注意事項等更に通知す

見學地概說

太山寺は往古より皇族、武將の信仰厚く堂塔繁榮を極めしも今は衰微に傾き支坊減じ諸堂甚しく毀損するも當日の見るべき物大要次の如し

○本　尊　藥師如來秘佛往古明石の海中より出現の尊像と云ふ。

○本　堂　光正天皇勅願所にして藤原鎌足公祈願に基き長男定惠和尙開基四十一支坊ありし所、御堂造丸柱桧型組立內外共薩摩杉

○常行堂　御堂內は組天井國寶阿彌陀如來安置

○仁王門　本堂と同年建築大和造入妻松白木造桧型仕組の古代式

○觀世音の大塔　寛永年中構造と云ふ入妻造十二本柱白木造

○釋迦堂　○羅漢堂　○護摩堂　○觀音堂　○鈎鐘堂　○十王堂等

國寶　童子像、曼陀羅圖面等多くを藏するも博物館に移管せるもの又數からざるも現存品につき當日は特に安養院主の紹介により開扉閱覽に供す。

國寶十五點、登錄狀下附十點、繪畫古文書、書籍類五十餘點

尙、周圍は峨々たる山峯屹立して雲漢を衝き遠く塵界を隔て俗氣絶へ古杉老樹繁茂し、高峯觀音堂に至れば雲煙縹渺の中に紀泉を望み脚下に明石の浦や淡路島を一瞰し仙境に在る心地す、附近溪澗に瀑布奇岩あり風致亦佳絶更に山中より清泉湧出するあり閼伽井水と稱する靈泉なり、之を用ふれば眼病に効驗不少分析の結果含鐵炭酸水と說き今尙堂籠して治療する人多し、堂に掲ぐる御咏歌に曰く『限なく深山にこぼるゝ法の水暗にまどへる人を救はん』とあり、奇なる哉又里人が傳へ云ふ石童丸出生の遺跡と呼ぶ開發村も程近にあり其他一日の見學に充分なり詳しくは當日の說明に讓る

昭和18年5月

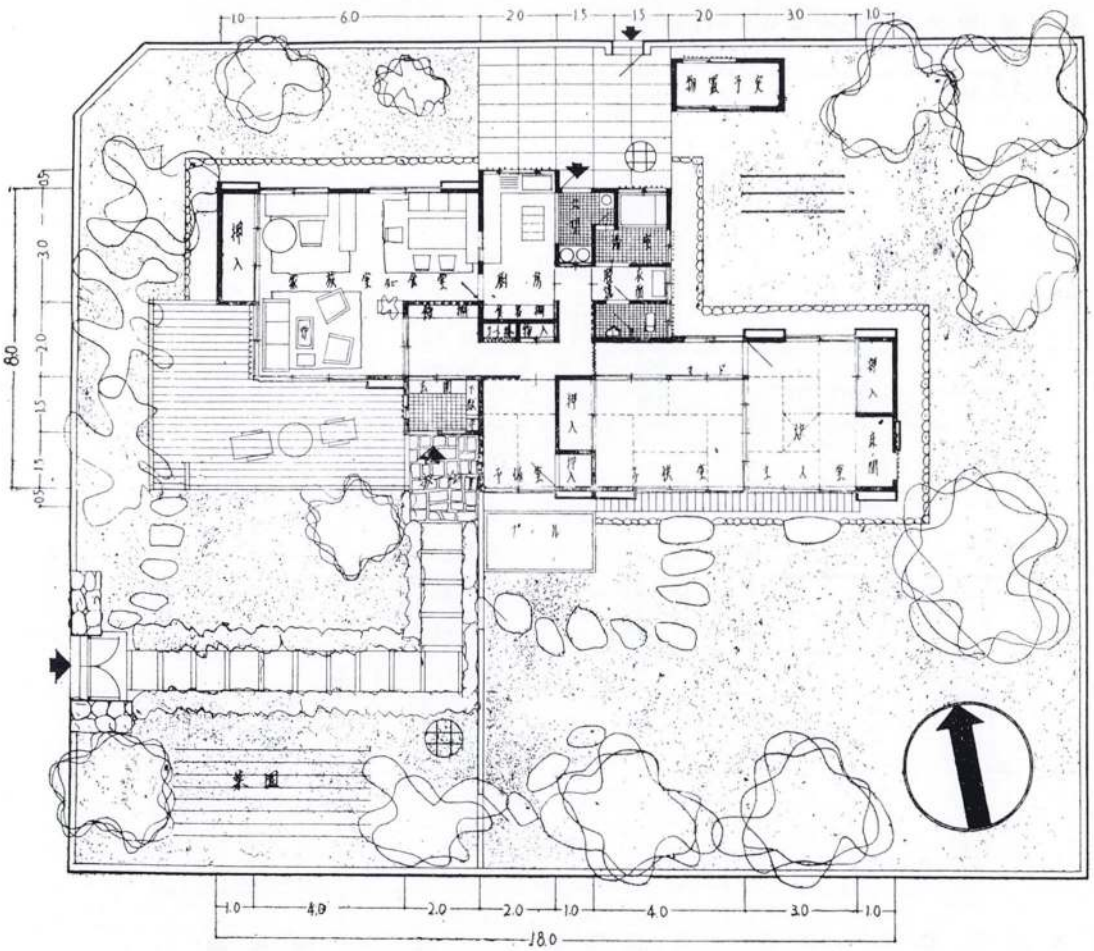
社團法人　**日本建築協會**

本菖蒲會 創立厚生25年記念展 事業譜



西及び南側外觀

平面圖（縮尺 1：200）・・建坪・30,226 坪

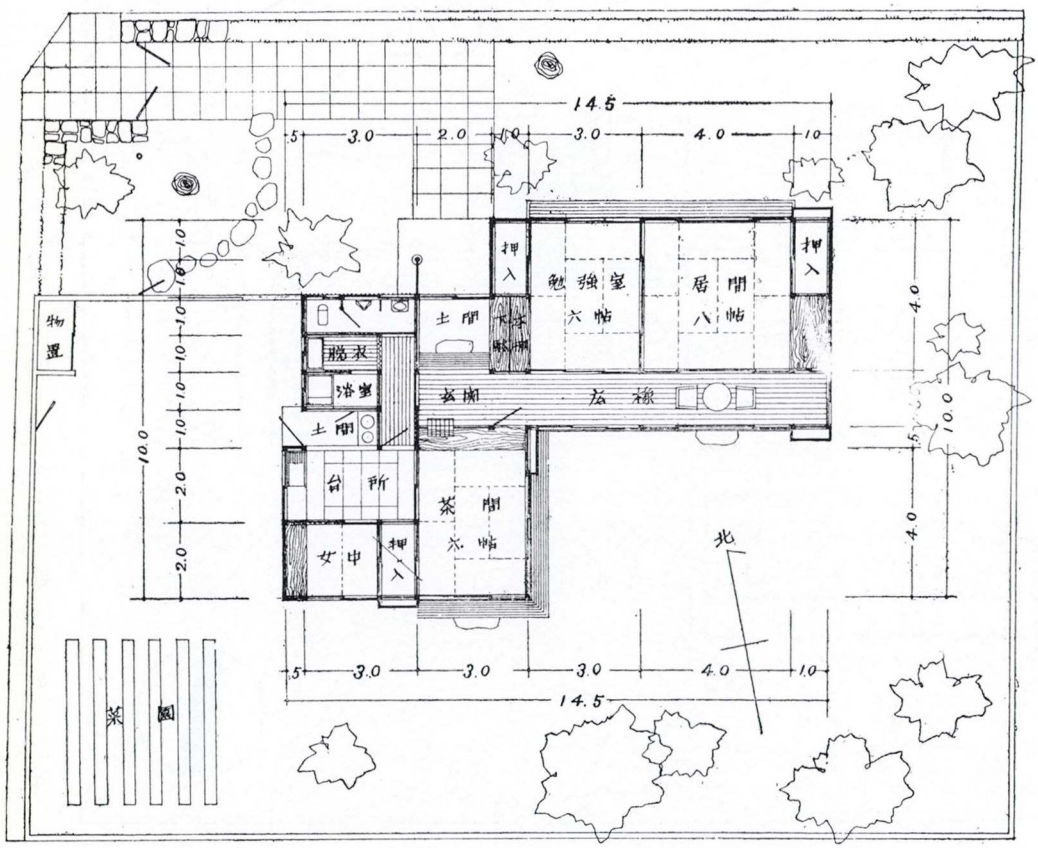


懸賞設計圖案・入賞・大木千鶴子・・施工・竹中工務店

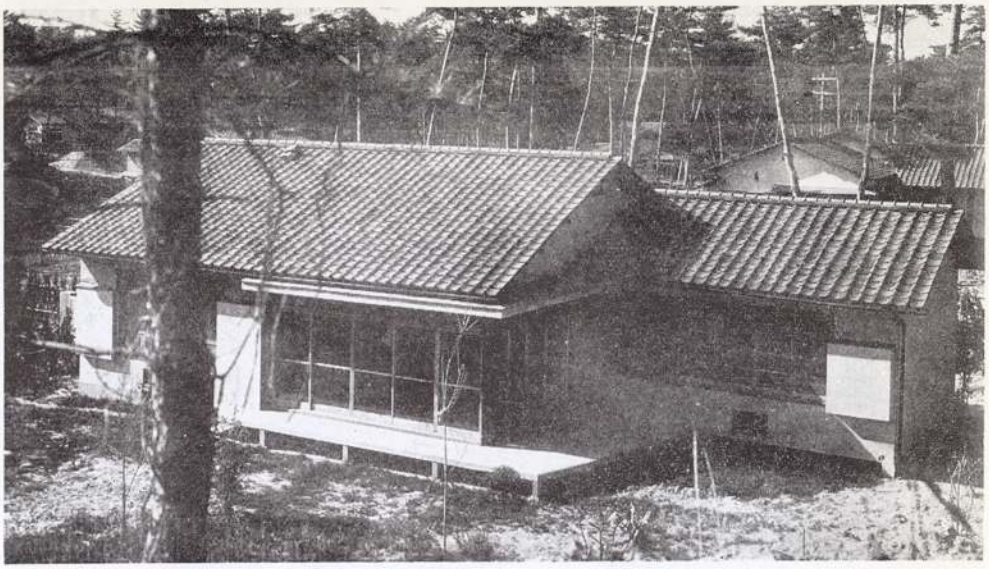


北及び西側外觀

平面圖（縮尺 1：200）・建坪・・28.58 坪



懸賞設計圖案・佳作・廣瀨初夫・・施工・双星社

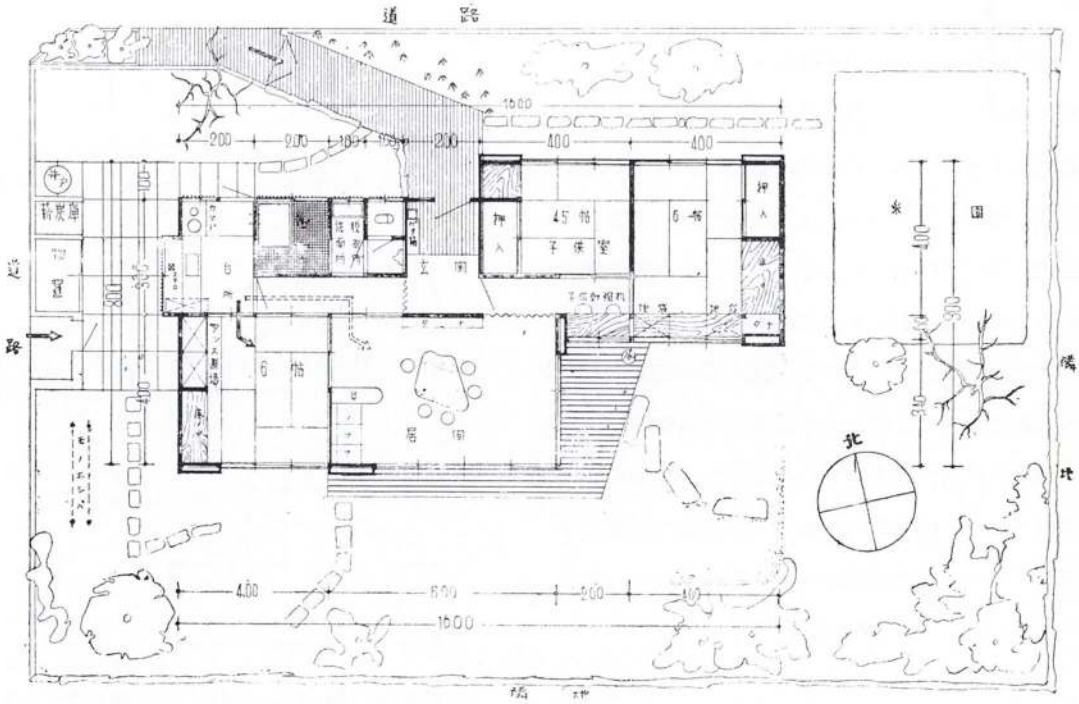


南及び東側外觀

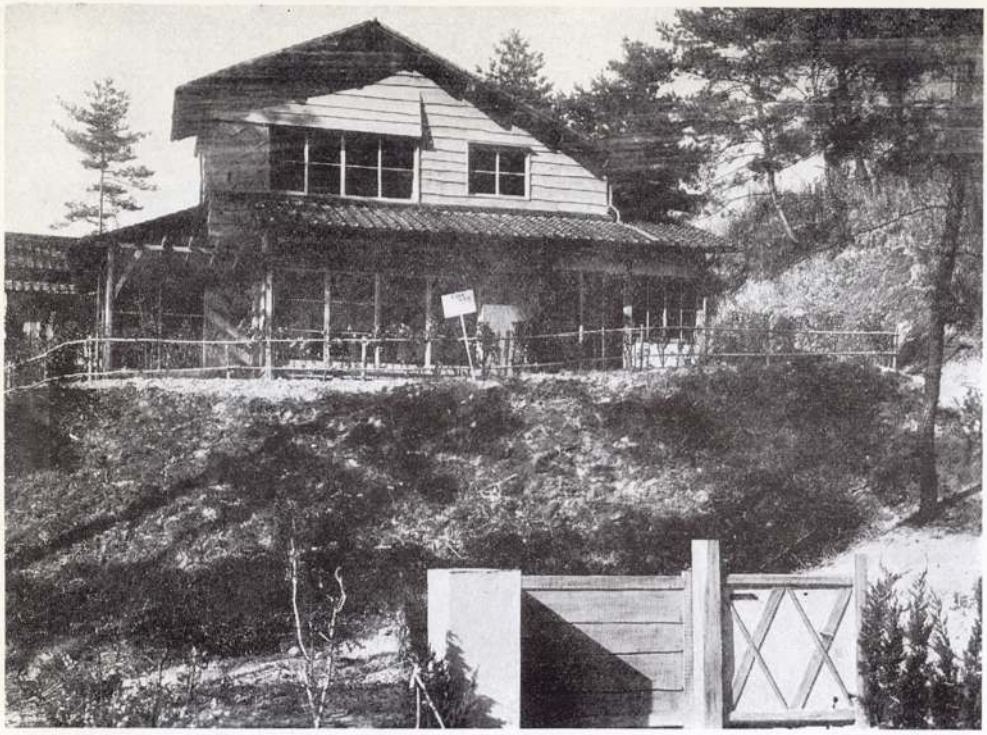
本　會　創　立　25　年　記　念　事　業

菖　蒲　池　厚　生　住　宅　展　圖　譜　・　2

平面圖（縮尺 1：200）・建坪・・30.05 坪



懸賞設計圖案・佳作・中井一民・・施工・木村組

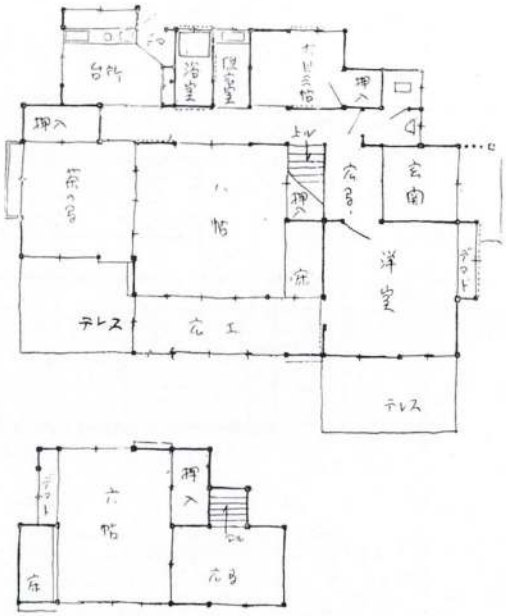


南側外觀

設計施工・双星社

本會創立廿五年記念事業の一として、昨年12月號に發表しました菖蒲池厚生住宅（關急奈良線菖蒲池驛下車南へ約5丁松林池邊）は、當時展覽會開催中建設未完もあり、各位に充分其の全貌を御高覽に供し不得遺憾に存じて居りました處今般寫眞の如く全住宅並に庭園植樹等完成、初夏新綠の古都近き山麓池畔に木の香も高き新機構による厚生建築美を競つて居ります。就ては其等竣功住宅中には展覽會當時未完成のため、現在未契約分も尚若干あり、時局統制下此後入手困難な之等住宅御希望の向は至急當協會まで御申込下さい。

（尚又次號にても殘餘の住宅を紹介する豫定です）

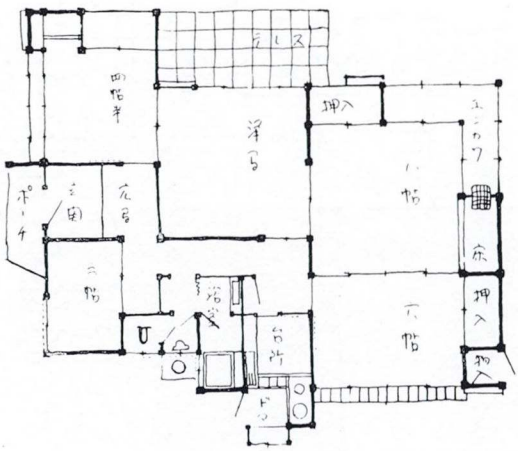


平面圖（縮尺 1：200）　第1階・・23.57坪
第2階・・ 6.66坪



南側外觀

設計施工・藤木工務店

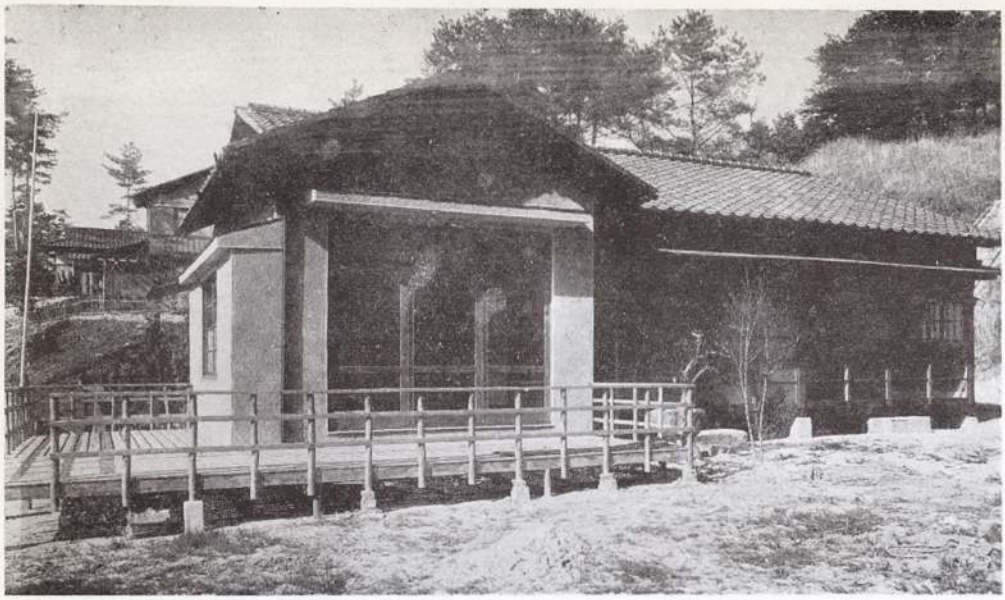


平面圖（縮尺 1：200）

建坪・・・・30,205 坪

この住宅は、本住宅地の西端の池にのぞんだ景勝の地に建てられてをり、南側にある道路から敷地は寫眞に見る様に少しあがつてゐる。西及び北側は池にのぞんでゐて眺めがすぐれてゐるので、居住室は眺望をとり入れることを主にし採光を第二義的に考へて、池に面してとられてゐる。即ち、廻り緣のついた8疊と洋間を西向きにし、何れの室からも眺めをよくしてゐる。ただこの廻り緣が兩方1間づつなので室の中から見て視野が少々狹められる欠點がある。この8疊に續く6疊も、北に池が眺められるのであるが、押入を設けたい關係か、ふさいでしまつてゐる。惜しい氣がする。洋間は8疊大で8疊とも又、西の4疊半ともつづいてゐるので便利に使へる。臺所・浴室・便所あたりは簡潔にまとまつてゐる。

全體に見て通路部分の少いよい間取である。

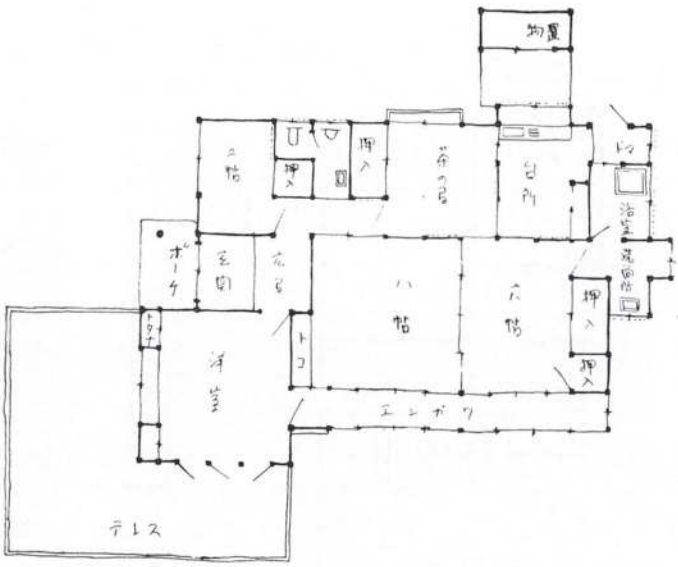


南側外觀

設計施工・竹中工務店

この住宅は、8疊・6疊の二間つづきを主にして、北は臺所茶の間と中廊下をやめてこれらに結びつけ、西方玄關に續いて洋室をとり、玄關北には3疊（本中室）・便所があると云つた、極めて常識的なプランである。通路部の節約から6疊から洗面所・浴室に出入りする樣になつてゐるが、これなど6疊が總ての交通の要路にあたり、住み方の上で多少不便を感ずるかも知れない。（かゝる別莊めいた住宅であれば氣にすることもなからうが。）

洋室には廣い板張のテレスを設け、お天氣のよい時には、家具を外に持ち出してさんさんたる陽を浴びながら新鮮な空氣を思ふ存分吸わうと云ふ意圖にあり、まことに以つて厚生的住居である。

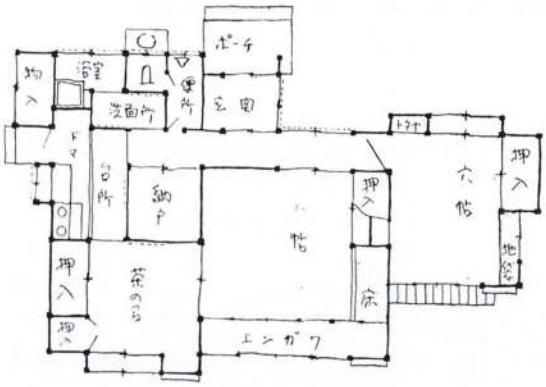


平面圖（縮尺 1：200）　　建坪・30,238 坪



北側外觀

設計施工・藤木工務店



平面圖（縮尺 1：200）

建坪・・・・24,00 坪

これは、8 疊を中心に東に 6 疊、西に茶の間 4 疊半を連結し、臺所・浴室其他の作業部も西北隅に使ひよく配置せられてゐる。坪數は 240 坪にして他のに比べて少いが、女中なしの 5 人家族位なれば樂に住めるであらう。

押入の多いのもよいが、8 疊西の納戸 2 疊は一寸つけたりの觀がある。プラニングの際仕方なしに出來たと云ふ處であらう。

臺所は 3 疊より少し廣いが、その半分は土間になつてをり、且又浴室の焚口を凹所に設けたのはよい。

外觀は撓板張であるが、目板をペンキ塗にして風變りな趣向をこらし、効果をあげてゐる。



南側外觀

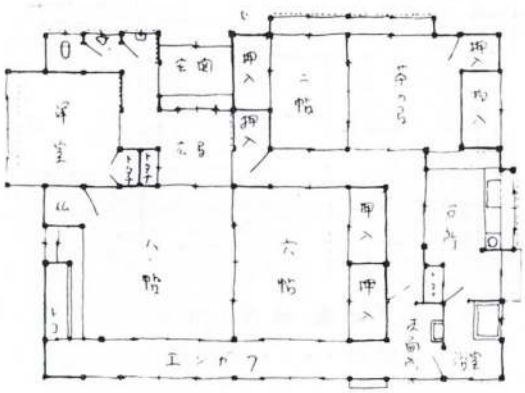
設計施工・岡本工務店

8疊・6疊の2室つづきを主にして、東南に臺所・浴室、北に茶の間・3疊、玄關脇に洋室を配るなど全體コムパクトにとりまとめてあるが、少々新味が缺けてある。

東南隅の浴室・洗面所は位置としてよすぎるが北方の眺めよく、又、南に急な崖が迫つて來てある地勢にてはやむを得ぬことであらう。

臺所附近にて洗面所だけに廊下をつけたのも一考を要することにして、この場合6疊或ひは臺所から出入りして少しも差支ないから、このあたり改良をする必要がある。

外觀は錣葺、大屋根を急勾配にして屋根裏を利用しようと云ふ意圖にある。この利用法もよく、又變つた容貌をて示してある。



平面圖（縮尺 1：200）　建坪・30,00 坪



隣組共同施設を中心とした「女性と住生活」展覽會・報告

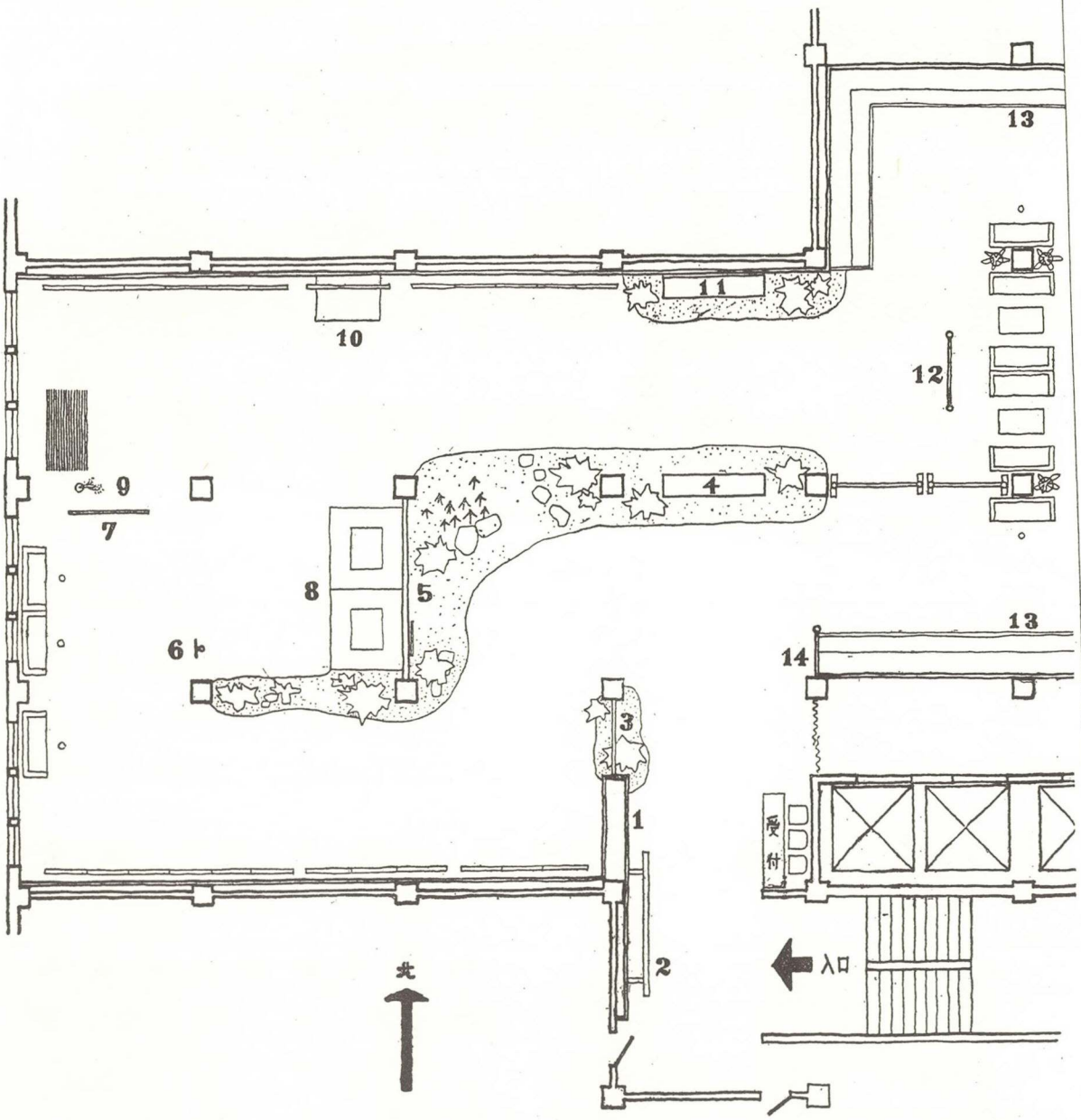
建築工藝技術研究所
日本建築協會

擔當所員
企畫構成　宇賀一郎　小川正　小林清　酒井清一　宮田秀穂　豊口克平

展示計畫　廣瀨初夫
制作指導　河合喜三部　福中駒吉　星廣文
協働　附屬婦人建築研究部研究生　株式會社大丸企畫部

昭和18年3月16日→3月21日・於 大阪心齋橋大丸

「女性と住生活」展覽會・展示計畫圖

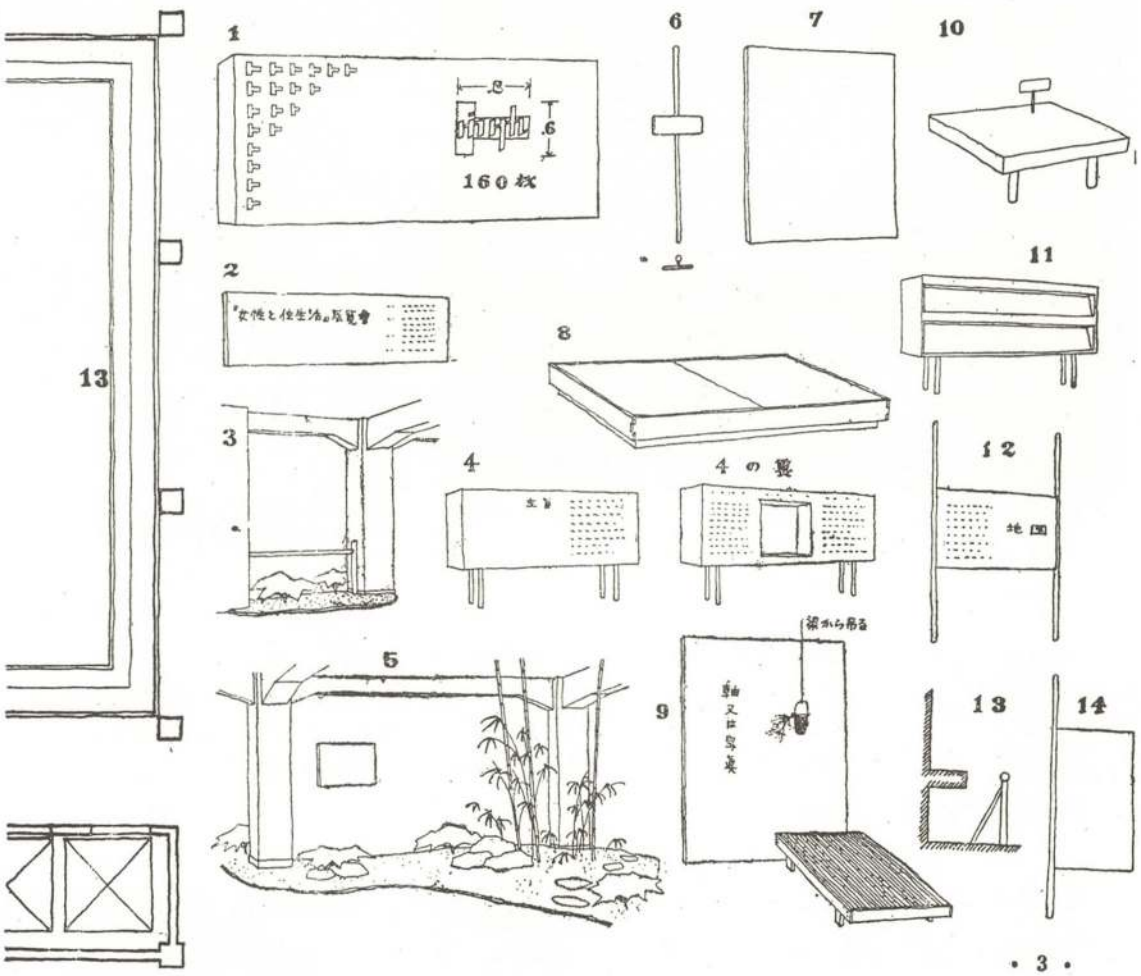


序

決戰段階に對處する生産增强の原動力こそは吾々國民生活力の發動の如何にある。

支那事變以來この生活への反省と關心とは自己自家本位の舊態家族生活より隣保制度の確立となつた。そして吾が國土の果々まで連る力强い生活協向體制の歩みは再び我國古來よりの良俗たる近隣相扶の協同作業の素朴なる美風を農村より漁村より呼びもどしつつある。

しかし眞の協同化の創造は眞實なる吾が國風に徹した大らかな精神と、正しい適確な計畫と創意と逞しい實踐力に俟たねばならない。



・3・

本所附屬婦人建築研究部、專攻科生徒に課せる卒業計畫主題たる「協同施設をもつ隣組住區計畫」もひとへにこの主旨より若き女性の生活の中より住への關心を集中して協働制作により彼女等が各戸の主婦として形成する隣保住區の理想案を集約したものである。

新しい日本の協同生活の確立の爲の一里塚にもと未熟、不整備をも省みず展示の企畫を進めた。はからずも日本建築協會に於ては共同主催たる力強き協力を得、又協賛後援各位の理解ある御援助に對し、貴名を列記し重ねて敬意を表す次第である。

共同主催	社團法人 日本建築協會
協賛	大政翼賛會大阪府支部
	大政翼賛會大阪市支部
後援	大阪市
	商工省工藝指導所關西支所
	朝日新聞社 大阪本社



・4・

支那事變以前の住居の變遷を個人の邸宅を除外して社會的經濟的に大別すれば一つは商品化された資本主義的企業の對稱としてであり他一つは社會問題の救濟事業の對稱として取扱はれた。

事變後、生産擴充計畫に平行して必然的に人口の都市集中の結果極度の住居難となつた。政府は關係組織、公共團體に勞務者住宅群の建築供給を助長させ昭和16年にはこれを一大國策として住宅營團の設立を見たのである。しかも量的解決に對應して數種型式に限定し、資材節約多量生産、單價切下の對策を以て處せられつゝあるのである。

しかし、い型より特別級7.5坪に到る迄の各戸の生活核態は依然たる戸別家族本位のものであつた。たとひそれが量に處する應急對策であつたにせよ……。とまれこの大きな住居の變遷こそは國家の歩みと共に絶對的な現實である。

生活の簡素化協同化とは何も生活を殺風景なものにすることでない。今迄の因習と見榮の殻を捨てゝ無駄を省いた新しい生活に入ることである。

お互の力を協せて作業を一つにすればもつと生活の無駄がなくなり能率も上り主婦の時間と勞力は節減され同時に隣保相扶の美風も助長されやう。そして主婦はこゝで得た餘力を生活充實と戰力增强に振り向ける事が出來るであらう。

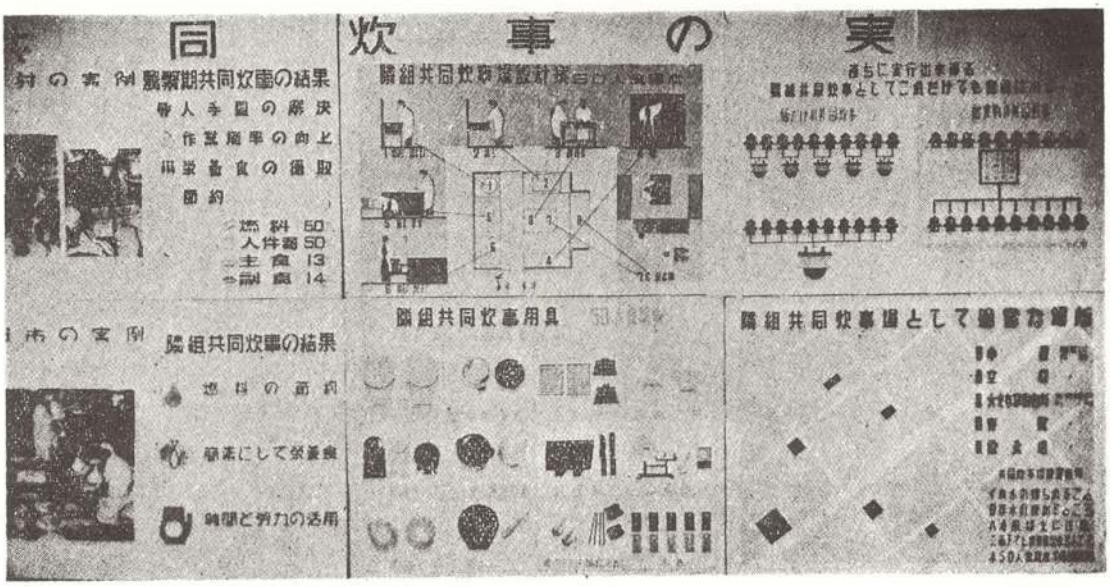
唯近頃は仕事が多い忙しいと云ふ主婦達の聲は各自が舊態の生活に斷ち切れず、其の上に隣保制度によつて形式的の精神のない協力を過重とするのではなからうか。

要は決戰生活に徹することこそ先づ第一の努めである。

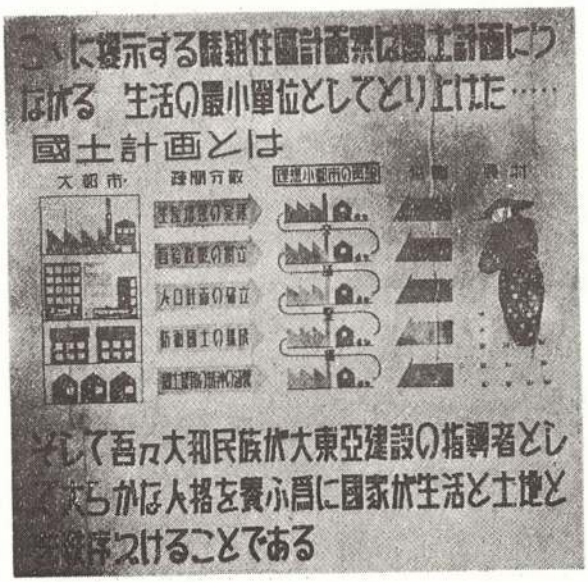
住居の樣想は『個々』の形態から『集團』の形態へ
すまひのすがたはひとつひとつのかたちからあつまつたかたちへ

・5・





一方かゝる住の變遷の中にあつても在來の住居では、農村都會を擧げて隣保制度を中心とした協同作業化はそれぞれの工夫、創意とその機能を最高度に發揮した數々の實例として擧げる事が出來る。共同炊事に付いても現在有り合せの用具資材を以て又隣同志の2軒でも、主食物又は副食物のみでも直ちに實行出來る事ではなからうか。又都市にある既成施設を利用するのも一法であらう。



小屋及は倉庫　（簡單に改造して）
空　屋　（　同　）
大邸宅の厨房　（現存施設のまゝ）
寺院の庫裏　（　同　）
飲食店　（　同　）

結果としては明らかなる如く

農村では　人手數の解決
作業能率の向上
榮養食の攝取

又　燃料　60%
人件費　50%
主食物　13%
副食物　14%の節約となる。

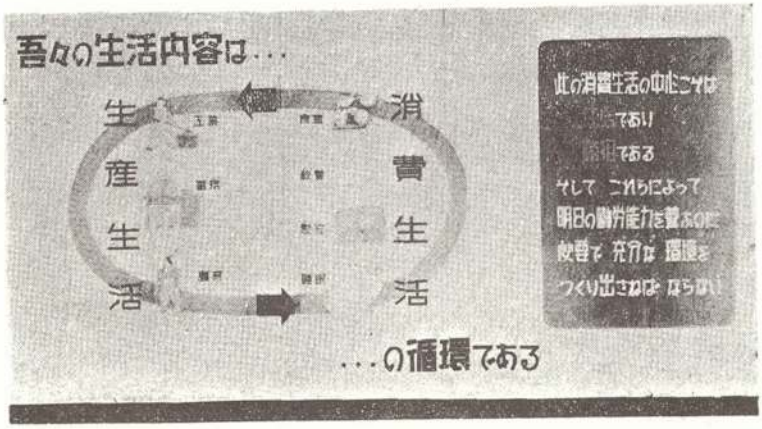
都市では　光熱料の節約
榮養食の攝取
時間と勞力の節約轉換等

しかし要は協働各員の精神の徹底により親和協調の實踐によらねば俗間に聞く勞力過重の原因となる恐れはある。數字の羅列、算式のみの解決は危險を伴ふものと思はれる。

共同施設をもつ隣組住宅計畫案

この制作に掛る前にどんな心構と指導をなしたか、その過程を示す二つの壁面を用意した。

一はこの計畫の大東亞共榮圈國土計畫との關聯性及びそれの展開である。



・8・

他の一つは吾々の生活内容に對する經濟的見地よりの分類にあつた。

この二つの問題にしても尨大なものでこれを僅か一個づつの壁面にまとめる事はむしろ無謀に近い事でもありこの展示を複雑化するおそれもあつた。しかし平易化した圖案を以てあく迄その過程を明示した。すなはち國土計畫の進展により或る地方理想小都市が建設される曉の最小單位としてこの隣組住區が存在すること及び國土計畫の概念の圖解を試みたものである。

【生活內容分類】

生産生活……商工、農業等之を以て吾々の生計を確保する

消費生活……職場を開放されてよりの生存、慰安、敎養、消費を云ふ。

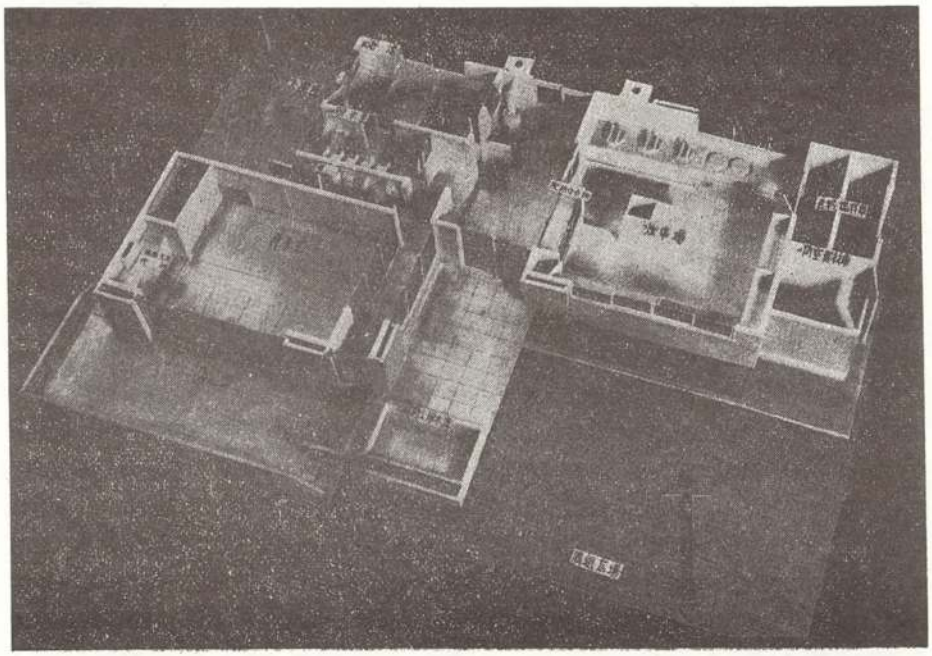
そしてこの職場と住居の圓滑なる循環によつてこそ生産力增强は確立される。

この循環の中には國土計畫に關聯すべき交通問題等も當然なる要素となつて居るのである。

吾々の住居は、吾々の隣組はこの消費生活面の中心であり、生産生活面の精神的の基地なのであり、その環境を重視する所以である。

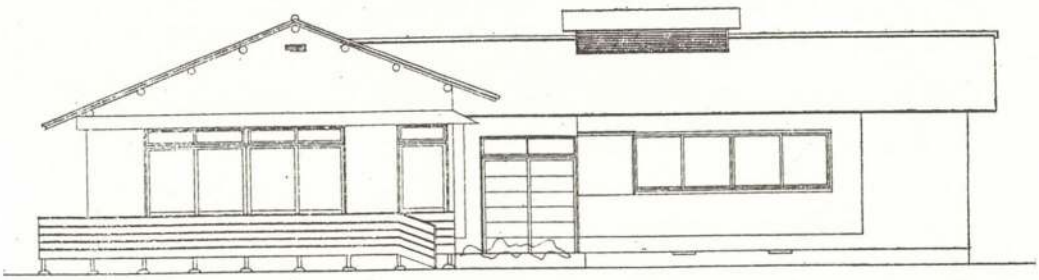
【計 畫 要 旨】

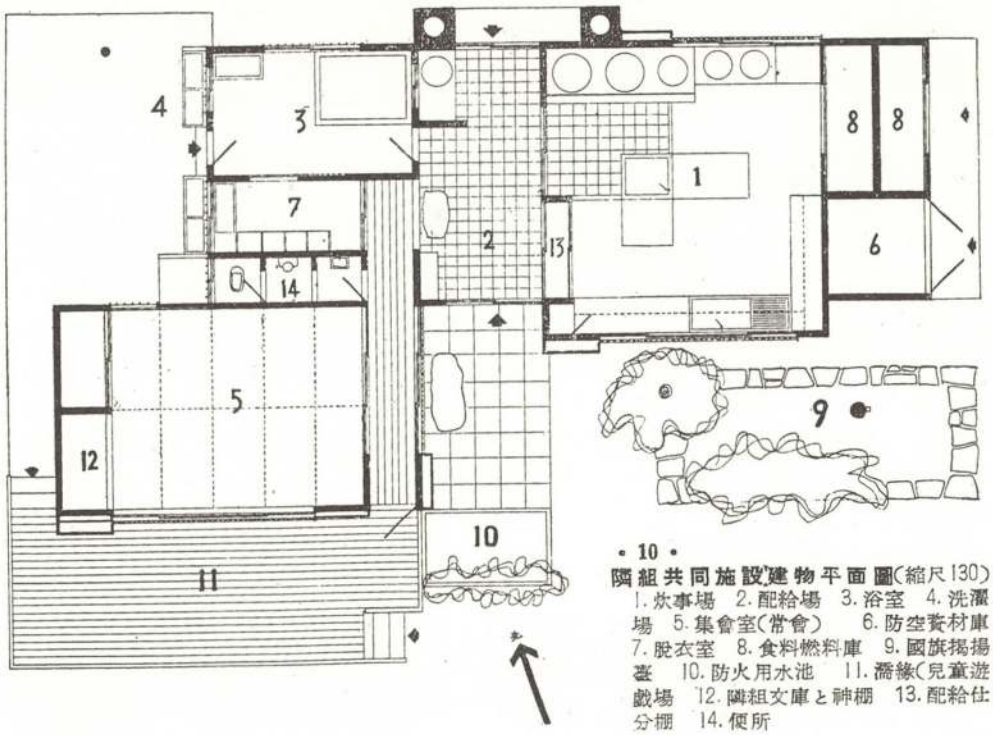
位　　置	理想地方小都市住居地域
單位隣組住區面積	約8360平方米
構成住戸數	20戸
一戸當り敷地面積	約 200平方米



・9・

隣組共同施設
建物・模型





・10・
隣組共同施設建物平面圖(縮尺130)
1.炊事場 2.配給場 3.浴室 4.洗濯場 5.集會室(常會) 6.防空資材庫 7.脫衣室 8.食料燃料庫 9.國旗掲揚臺 10.防火用水池 11.濡縁(兒童遊戲場 12.隣組文庫と神棚 13.配給仕分棚 14.便所

單位住居面積	50～60平方米
戸建型式	1戸建及び2戸建
共同施設面積	100平方米
家族構成	4人～5人(夫婦、小幼老人)
隣組總員	約100名

以上要旨は模型協同制作を主要目的とせる爲、その制作効果をも加味せる數値である。しかし防空、防火條件よりすればこの程度の分散型式を確保したい。

模型中建型式は兩型式とも生徒設計の單位住居の中の代表作を型式別に選出し、それに同型の共同施設を配置せるものである。

構成條件は各型式共略同一にした。

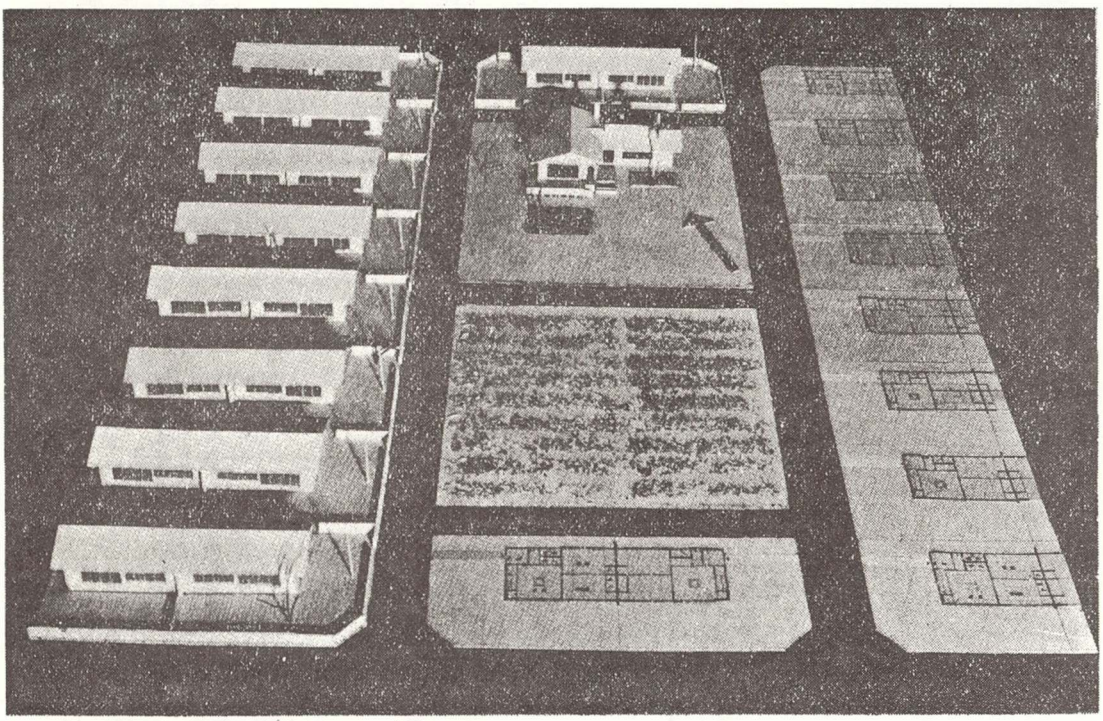
【共同施設內容】

共同施設建物100m²に含まれる各施設機能の解說である。

1.炊事場 飯釜2基、菜釜1基、揚物、燒物臺、流し2基、調理臺、冷藏庫、仕分臺食器棚、調理用具、調味料入、朝夕2回、作業にて1日固定食延200食。

2.配給場 共同施設廣間土間を利用す。配給食は各戸別容器に仕分配給棚に並べる。其他配給所より配給品は當番によりまとめて搬入せられ此所にて各戸別容器に人員に應じて仕別られる。簡易秤を設置する。

3.浴場 休日を除き毎日沸すも男女別に



・11・ 隣組住宅（2戸連案）計畫・模型

隔日に使用する學齢以下の小兒は適宜入浴が出來るものとする殘湯は翌日洗濯に利用する。

4.洗　濯　場　屋外洗濯槽と浴場内洗場を兼用する。

5.集　會　室　廣間より椽側をへだてゝ疊敷とする、南側物見遊戲場に當てる濡椽に建續する、これは又隣組精神的中心となるべく神殿、隣組文庫を設置す。こゝに於て、常會、教養會、慰安會幼兒遊戲及び托兒等に兼用する。

6.防空資材庫　隣組共有防空資材、ポンプ、擔架、ホース等を格納する。

7.對空監視臺　本共同施設最高屋根上に設置すべく、防空監視連絡に資する。

8.倉　　庫　食料、燃料庫に別れ共同施設消費用の格納をする

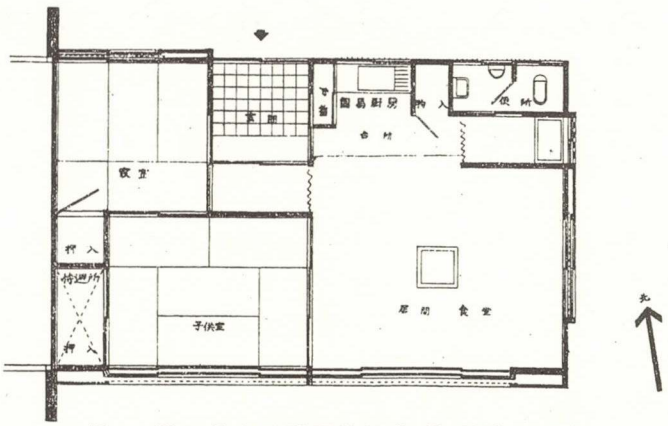
9.國旗揭揚廣場　本施設前面廣場にて建物南面に國旗揭揚臺を設け隣組野外集會式場となし隣組の國家へのつながりの中心としたく毎朝の嚴肅なる揭揚式を行ふ。其の前面廣場にては厚生體操各種野外集會を實施する。

10.菜園飼育場　食料自給の一助と協同生活の美風涵養の爲に充分の敷地を取りたり。

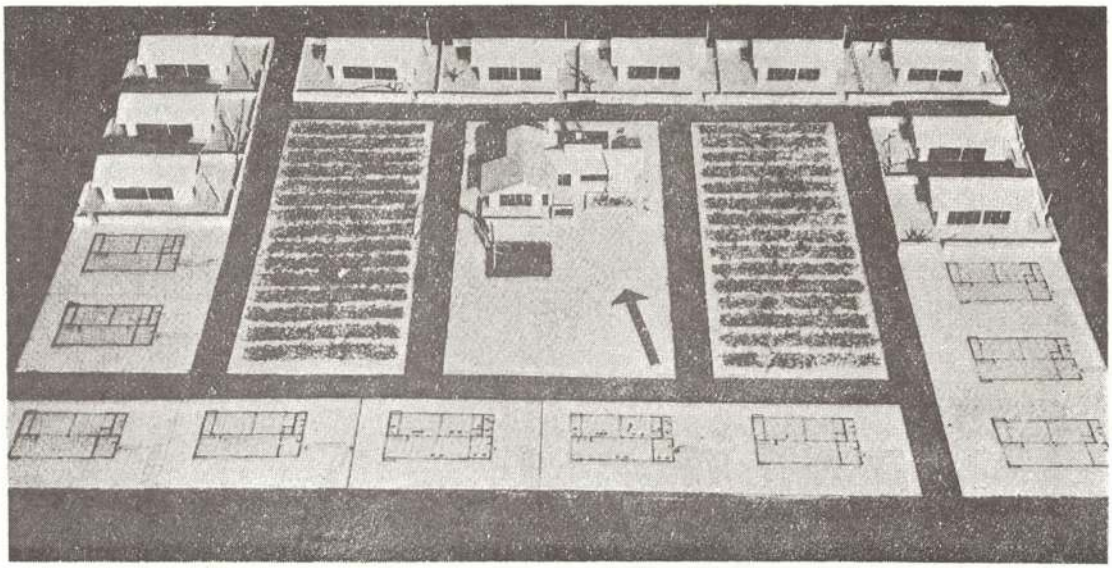
11.兒童遊戲場　砂場、スベリ臺、ブランコ等危險ならざる器具を設け日常の遊び場とする

【住　居　内　容】

こゝに於て共同施設を利用する各單位住居の計畫目標（主として住居の質の規定）としての條件



・12・ 隣組住宅計畫單位住宅（2戸建）平面圖



隣組住宅（1戸建案）計畫・模型　・13・

を抽出した。

1、建築的合理性

建設過程に付いて――安價に迅速、資材節減の爲に各部材の規格化より工場大量生産化に向けられる。

維持に付いて――安易、快適、しかも經濟的に維持費の輕減が約束されねばならない。

2、建築的安全性

天災、火災に對する構造的、材料的配置計畫に於て堅固なる事。

3、生活樣式の適合性

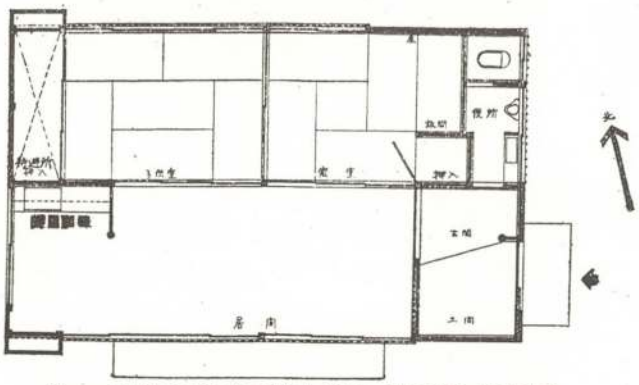
いはゆる吾々の生産生活に對應する消費生活（明日の活動力培養の基地として　の中心として健全なる生活環境の確立はその住居自體より滲み出る樣な構想と創意によつて之大きな問題を精神的な部面と共に如何にもして解決せねばならない。共同施設を活用する事による住居作業部の縮少簡素化は論をまたず――浴室、洗濯場の不要、廚房の簡易化、又これ等作業部連絡部の供出により平面計畫を一新する結果となる見なれない奇を好む住居平面ではなく、共同施設を活用する事による必然的結果である。7,5坪の特別型住宅の作業部構成はどうであらうか吾々は新しい住居の創造へ挺身する。

共同施設建設に當つては20戸の隣組各戸より5平方米の作業部面積を供出して20戸を以て100平方米約30坪のこの施設を建設する

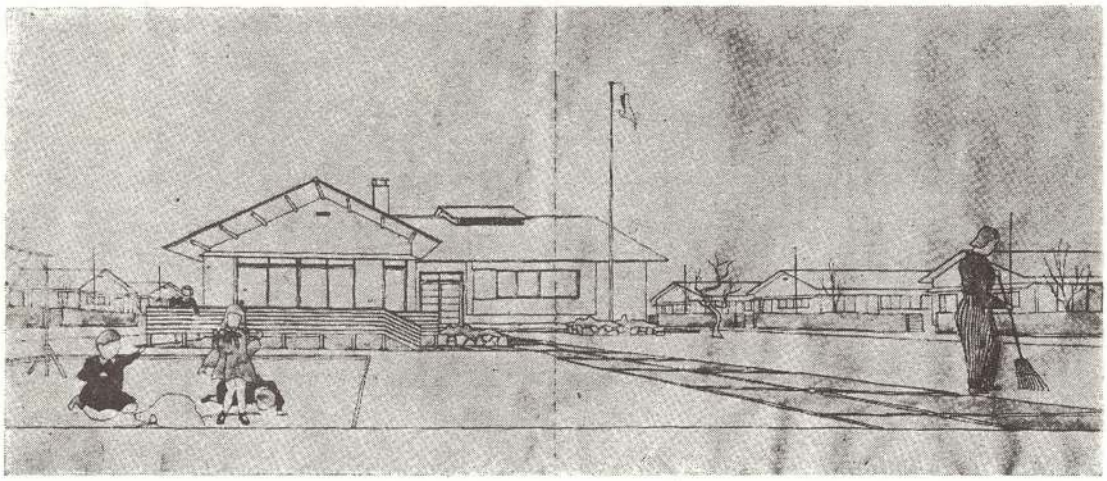
この新しい住ひ方に徹した各單位住居の平面は50～60平方米となるが在來の80～100平方米の舊態個々本位の住居平面と比較する場合その生活内容の充實或は生活環境は如何であらうか

面積の點より作業部（廚房、浴室、脫衣室、洗濯場、女中室等及び之らの爲連絡通路）を含めると平均15平方米を不要面積とする。又平面計畫の不徹底は之の種の住居にも大邸宅の縮圖と見られる配置を以て甘ちる狀態である。

一方本計畫の單位住居を通じて表現される特色としては作業部の最大限省略、簡素化及び之の中心との一元化が見られる。從つて其の作業面積として取上げる



・14・　隣組住宅計畫單位住宅（1戸建）平面圖



• 15 • 隣組共同施設建物透視圖

と2～4平方米を以て可能となる。又板間及疊の意識的利用は新しい生活様態の解決と關聯して重要視される問題を提示する。吾々は戰力增强の重大なる責任の一端を擔ふ住居が就床面積の割付を以て一方的に定められる危險性及び將來への禍根は應急と云ふ文字を以て解決さる事のみであらうか

【隣組の組織】

現在實施されつつある隣組制に準じ隣組長以下の構成に委員會を設けたものである。

隣組委員會構成

組長	1名	副組長	1名
共同施設委員	2名	配給委員	2名
敎化委員	1名	厚生委員	1名
防護委員	1名	連絡委員	1名

以上10名を6ケ月交代とする

委員の任務

1 共同施設委員

建築共同炊事用燃料、食料、資材の管理。

2 配給委員

隣組單位の配給品の受領、仕分、記錄、會計。

3 敎化委員

集會、敎養、貯蓄、隣組文庫等の計畫指導、管理。

4 厚生委員

集團作業、厚生運動、定期檢診、托兒保育等の實施。

5 防護委員

隣組防護計畫、防空、救護訓練の指導。

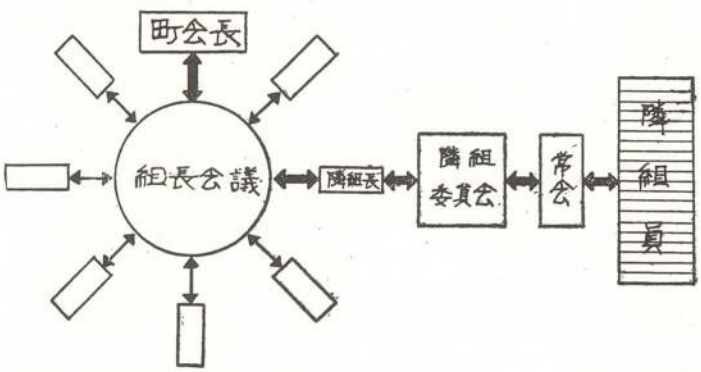
6 連絡委員

各組の連絡、非常通報の傳達等。

其他組長主宰による常會、委員會の決定事項の實踐に付いて各委員の範圍で指導をする。

隣組の庶務會計は組長副組長の主務とする

• 16 •



【共同施設の運營】

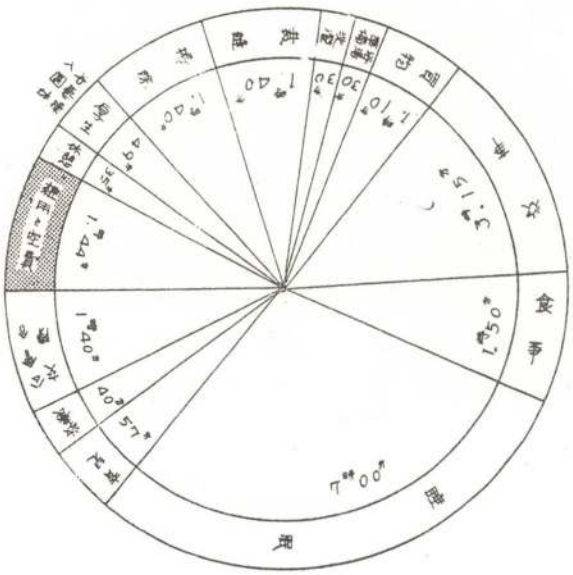
共同施設の運營に付いては本計畫にては全々他の使用人を對稱とせず隣組員の當番制として各自の勞力奉仕時間はその組員の親となり母となつてその責務を遂行する規約である。且つ共同作業によるその環境の醇化こそ各人の心構へと共に大きく期待すべきものとした。

1 給食に付いて（共同炊事）

午前 5.00時～6.30時（朝食準備）

1日の主婦の仕事は……時間と勞力がどのやうに節減されるだらうか

1、在來の住宅では……



午後　3.30～6.00（夕食準備）

午後　8.00～9.00（整理、明日の準備）

當番人員3名、作業週期毎日、約7日に1回の割當となる。

2入浴に付いては

午後　4.00時～5.30時（湯沸準備）

翌日午前10.00～11.00（整理、清掃）

當番人員2名、作業週期毎日、約10日に1回の割當となる。

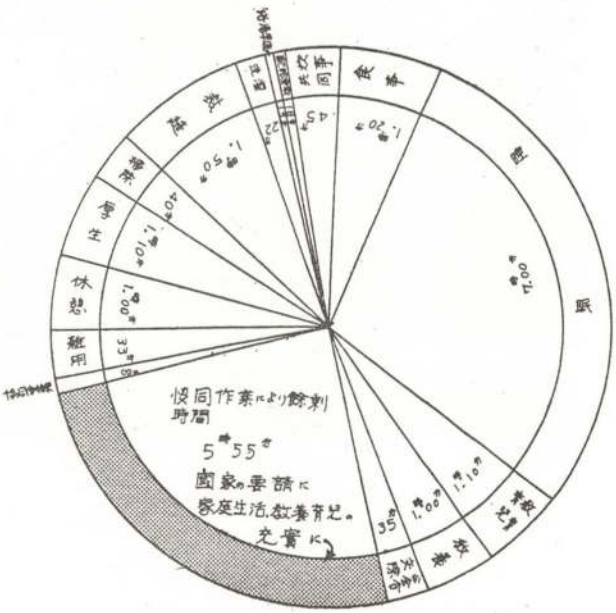
（入浴は男女別の隔日となる）

3配給に付いて

食事　午前6時30、午後6.00の二回配給各戸別容器に人員に應じた量を仕分け配給棚に並べる各戸ではそれを受取り使用後洗濯して食事終了後返却して置く（不要の際は前日に當番又は係委員へ申出て無駄を除く）

一般必要品配給。各配給所より隣組單位にまとめて配給場へ持込まれる。配給委員立會の上で各戸別に仕分られ容器に納める現金引換へにて各戸に渡される共同炊事に使用の分は共施、配給兩委員管理の下に共同倉庫に格納されるものとする。

2、共同施設を活用すれば



【共同作業の時間に付いて】

共同施設を活用して主婦の一日の仕事、時間と勞力は如何に配分されるか。

今 T——共同作業ニ於ケル1人當ノ延作業時間

n——作業人員

N——隣組家庭總數（主婦總數）

（全體作業ニハ作業人員ト等シクナル）

δ——作業週期 { 毎日作業ナラ δ＝1 / 隔日作業ナラ δ＝2

t——1人1日割當作業時間トスレバ

$$t=\frac{T\times n}{N}\times\frac{1}{\delta}=\frac{Tn}{N\delta}$$　ナル式ヲ得ル

共同炊事＝適用スレバ

T＝300分、n＝3、δ＝1、N＝20ヨリ

$t=\frac{300\times 3}{20\times 1}=45$　1人1日當リ45分、作業トナル

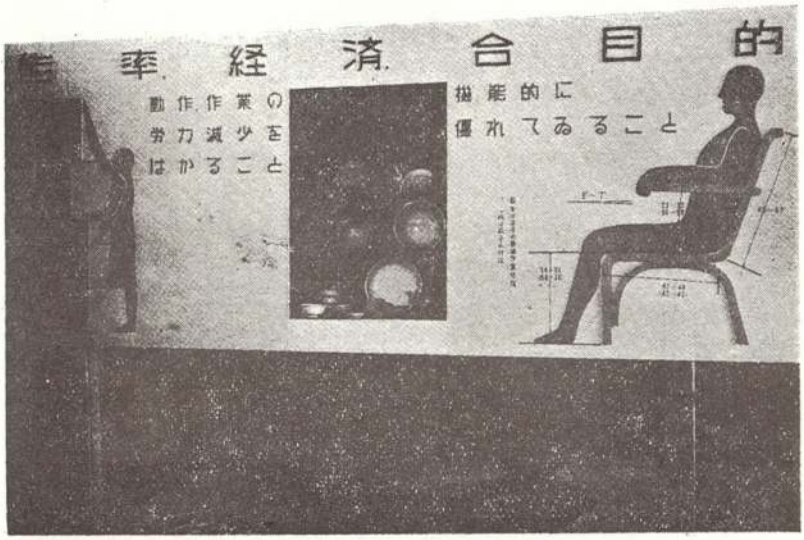
厚生體操＝付イテハ（乳兒を除く）

T＝15分、n＝80、δ＝1、N＝80

$t=\frac{15\times 80}{80\times 1}=15$分　1人1人當リ15分

この場合は共同作業を行つても時間的消費は同樣であるむしろ其他精神的環境に利點を求める

之等により在來の住宅に於ける主婦の作業と共同施設の活用したこの計畫に於ける主婦の作業時間的に對比すれば協同作業による餘剰時間は1日當り5時間55分を得る事になる。



これをえて吾々は國家の要請する所、生産增强へ又は家庭生活の充實に、敎養に、次代の日本を負つて立つ子供の養育に集中すべきである。

かくてこの隣組では正しい健全な施設と、環境と、生活の簡素化、協同化の逞しい實踐によつて明るい國民生活が營まれるのである。この戰を勝ちぬく爲に。

【次戰下の生活用具】

この隣組住區計畫案に關聯して商工省工藝指導所關西支所の後援を得て家具食器、日用品等生活用具に關する新しい方向と規準と同時に、友邦ドイツの結婚家具の要旨寫眞を提示された。

すなはち能率、經濟、合目的を目標として

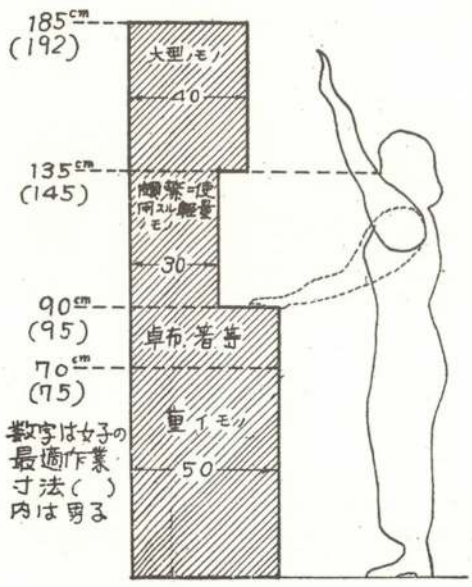
1.規格一定なる事

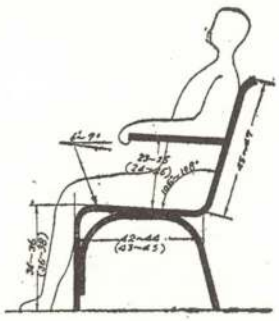
2.大量生產可能なる事

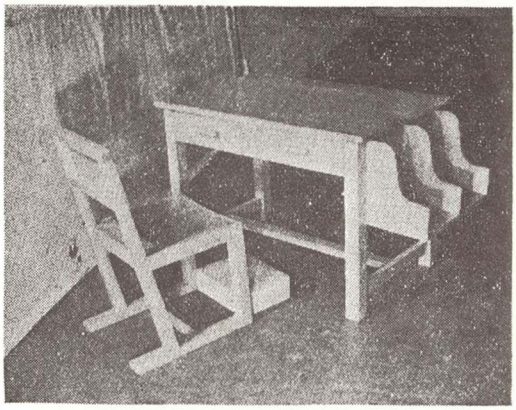
3.無駄な裝飾を除く事

4.安價堅牢なる事

なる條件を以て動作、作業の勞力の減少を計り機能的に優れてゐなければならない。







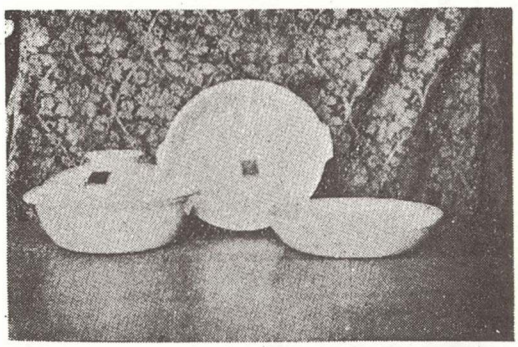
• 21 •



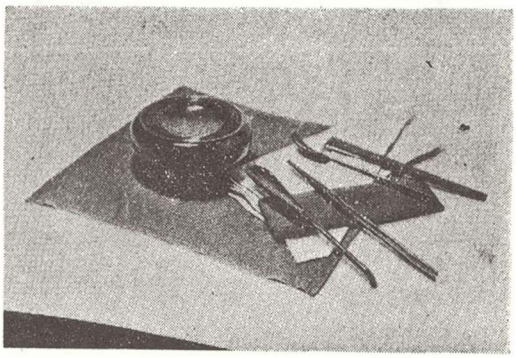
• 22 •

家　　具

家具は家庭生活の内容に重要な役割りを持つ物であるが、戰時下の生活では經濟、住居面積の關係から餘り多くのものを持つ事は許されまい。むしろ收納には挿入等が上手に利用さるべきであらう。椅子、机等の保健的に必要なものも、堅實な單純な快適なものや組合せ折疊み等、要否に應じて加減出來るものであつて欲しい。この場合日本の在來のタンスや茶餉臺等にそのヨサを充分認める事が出來る。特に家具類は人體の體軀や動作との關係上、疲勞休業、能率に大きな影響を持つ事を知らねばならない。



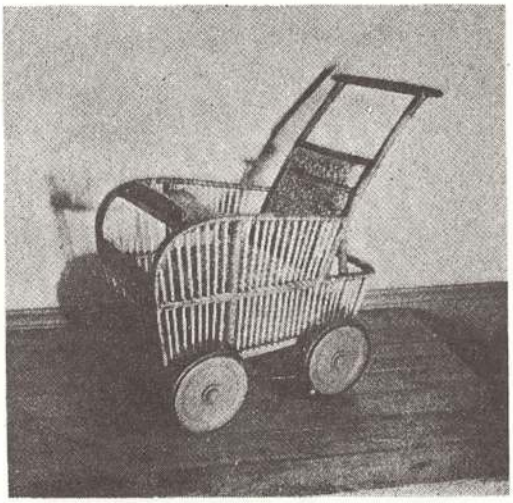
• 23 •



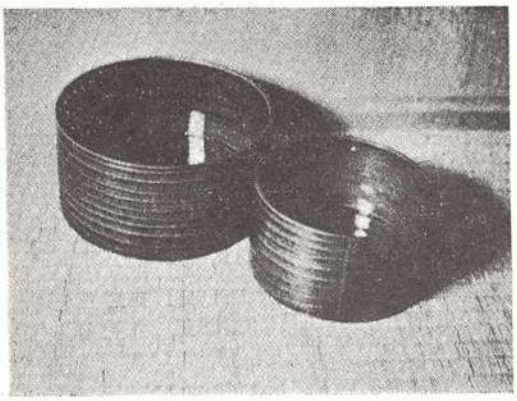
• 24 •

食　　器

現在私達の食器は傳統的な茶椀、汁椀、箸と西洋器が併用され混用されてゐるが、その種類樣想實に多岐に亘り、家庭用品中最も繁雜なものの一つである。資材（特に陶磁器に於ける色藥燃料、漆器に於ける漆液）及生產の合理化、家庭での整理無駄な勞力の排除等の點から、合理的な形態最少限度の種類、數量、過飾の除去による無地への接近事、簡素な規格單純化へと生產方法が進められて行く



• 25 •

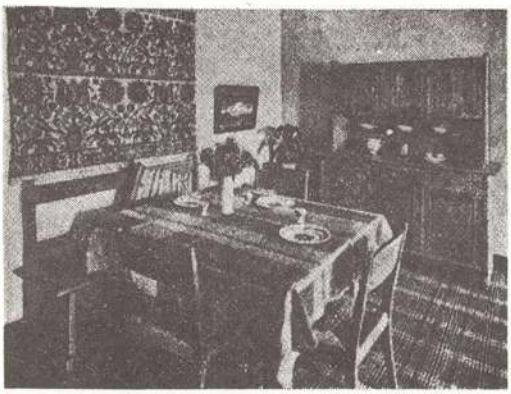


• 26 •

雜　品（日用品）

我々の生活には澤山の用品を必要とするが、常に　1機能(便利)、2材料(適材)、3構造(丈夫)、4意匠(簡素美)、5經濟(安價)　等の點で滿足なものでなければいけない。

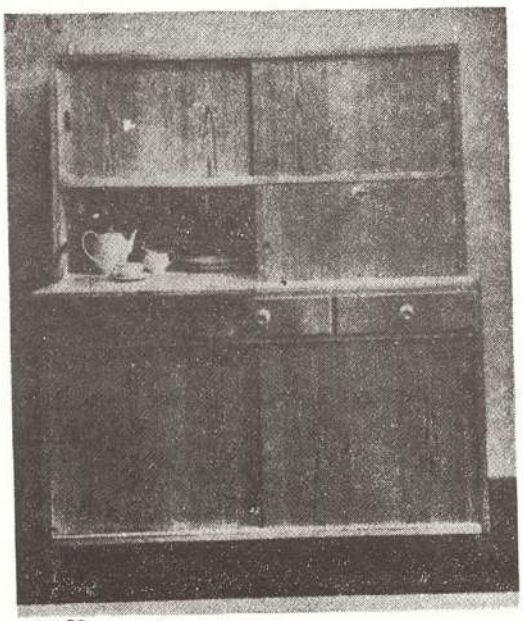
又生活は常に民族や國民の生活意識の浸み出す樣な生活傳統も考慮されなければならない。戰時下では特に昔からの民具や材料技術を生かす事は大切な事である。そして「簡素の中に美しい」單純化規格化へと向つて進まなければいけない。



• 27 •

ドイツの結婚家具

ドイツ國の造型技術は、凡てドイツ民族の文化の上に樹立さる可きである。



• 28 •

ドイツ住宅局によるDAF（ドイツ勞働戰線）保證標及品質標を認定して、適正價格の合目的々な文化價値高き家具を振興せしめ樣とする意圖の下に、「結婚家具」が提示されてゐる。そして結婚貸付金制度により最少限度のものが揃へられ、月賦(1/100)で返還するのである。

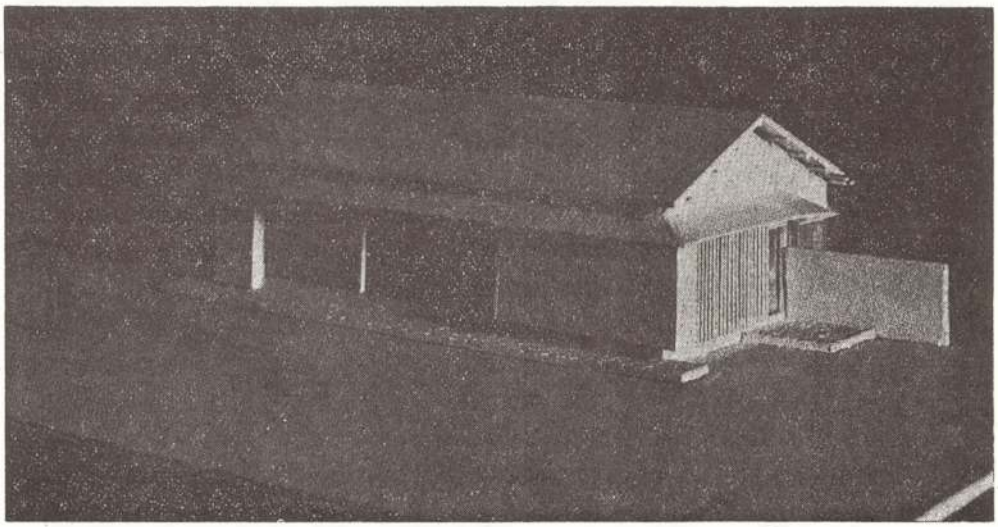
1家族生活を明るく清らかに、2簡素で民族的で慮しさの中に美しく、3能率的で活動的で、4子供の健全な發育のために……の諸點が特にこの家具に强調されてゐる。

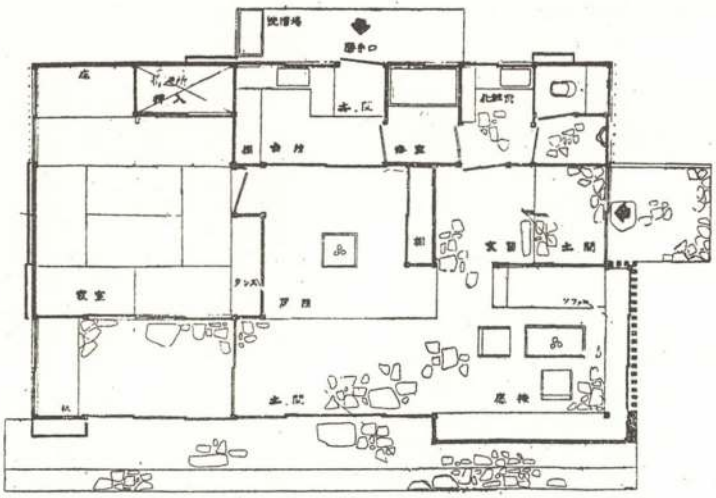
『女性と住生活』展の第二部として展示された『厚生住宅案』は、第一部を歩いた觀者に或ひは一沫の疑問を抱かしたかも知れない。

それは第一部の主題となつた『個々より集團へ』の住宅觀とは背馳する多種多様の個人的住宅案であつたためではあるが『女性と住生活』展に當然包含さるべきものなので、第一部と切離して展示したものである。

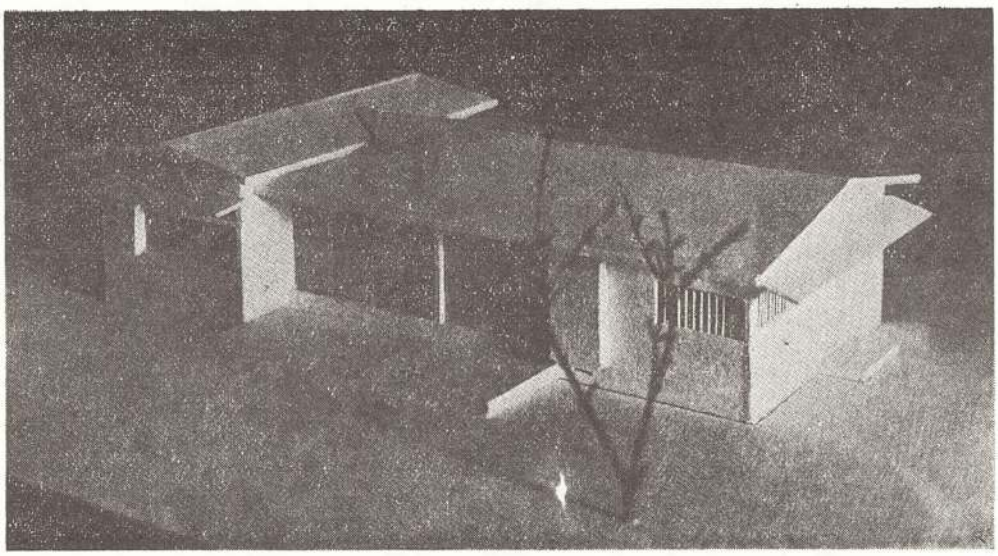
之は說明板にあつた様に、婦人建築研究所の本科生が一年間の研究を——本科は專ら設計製圖技術の修得に研究重點を置き、然も第一部に現はれた高等科修了生の持つ住宅觀への漸進過程として身近かな個人住宅を對稱に置いてゐる——各自の本科修了制作に盛りこんだもので、之に對するセンサク的な批判はしばらく差控へて貰ひたいと思つてゐる。

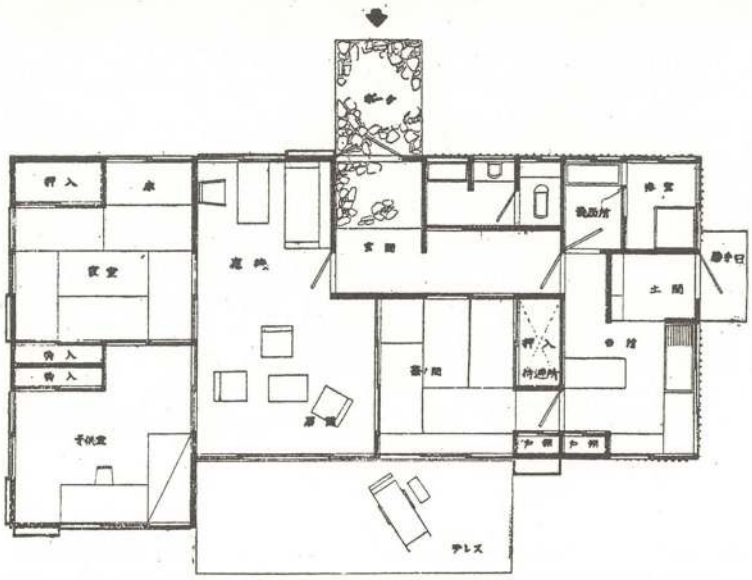
高女を出て一年の研鑽で此處まで來るものならば、女性は建築設計家としての技能ありと認められやうし、又、將來住宅が家庭生活の主擔者である女性の手で設計される日を俟つものであり、又それによつて吾々が抱いて來た住宅建築學の空白感は充塡されるものと考へてゐる。





• 29 •
厚生住宅模型及び設計圖、岩崎雅子作





・30・
厚生住宅模型
及び設計圖
田村英子作

結　　語

以上の如くして吾々の展示を終へる事となる。かく企畫すれば吾々はかく共同施設を活用してかくの如き生活餘力を見出し、以て國家的要請に供出し得るだらう一理想案に關せる展示である。故に直に活用出來る、直ぐ間に合ふと云ふ意途はない。一つに觀覽者の心構へに訴へる小さな示唆を持つた共同制作作品展に過ぎない。しかし吾々は其の意義を思考すれば第一に若き女性の個々特有の技能を統一された主題に團體的制作を續け、其の協同生活自體を學び取る事であり、第二に女性建築家たらんとする自覺のもとに如何なる立場にあつて自己の勞作を通じ一般に理解せしめる啓蒙的要素を持ち得るかの確認にあり、第三に一般に對し戰時下新生活體制への指示にあつた。俗間のシナリオ化された泥繪具の展示と其趣を異にする所以である。

勿論其の對稱、內容に關して種々不備の點免れず批判さるべき多くのもが殘されると思考するも其の計畫を集約して報告とする次第である。

本企畫に際し直接間接に御配慮御批判を得た各位に對し、深く感謝すると共に計畫資料として引用せし次の著者各位に敬意を表するものがある。

石川榮燿氏	吉田秀夫氏	西山卯三氏
加藤長雄氏	奥井複太郎氏	森川規矩氏
山岸　晟氏	伊藤正文氏	大　阪　市
建築學會	日本建築協會	住宅營團
新建築社	建築世界社	住宅改良會

（2603.4.30　小川正記）

協同施設の理論と實際

石川純一郎

——隣組協同施設を中心とする「女性と住生活」展覽會を觀て——

私の同僚、友人の二三もこの展覽會の計畫に參劃してゐた關係上、私はその開會前からこの展覽會には相當の關心を持つてゐたし、又その取扱はんとする問題——「住生活の協同化」の問題に就いては以前から多大の興味を持つてゐたので、この展覽會は是非一度參觀したいと考へてゐたのであるが、さて蓋を明けられて見ると何かと用事にかまけて遂々その機會を得ずにゐたところ、この展覽會の共同主催者たる日本建築協會からこの展覽會に關する感想を求められたので、辛じて會期の最終日——日曜日の午前に寸暇をさいて一覽し得た次第である。

會場は極めて餘裕あるスペースを占めて、良く云へばユトリがあつてよく、惡く云へば品不足で何處かに空虛さが殘つた。それは兎に角會場は內容的に二部に分れてゐて、第一部はこの展覽會の中心を爲すもので「隣組協同施設」に關する一試案の展示であり、第二部は建築工藝技術研究所卒業生の卒業設計たる「厚生住宅」圖案及模型の展示である。

「住生活協同化」の問題は現下の重要にして緊急なる問題であつて、これを捕へてその解明と示唆とを與へんとする試みは全く時宜を得たものでその意義は僅少でないと信ずる。又「厚生住宅」の問題にしても現下の流行的問題であると共に人類永遠の問題であつて、よしその展示圖案が僅々一ケ年の研究期間に修得せる建築技能の結果たる研究所女生徒の制作にしか過ぎぬとは云へ、これ亦何等かの影響を與へ得たかと考へる。

兎に角全般的に見て、私は今回の企てに讃意を表するものであり、種々の困難を克服してこれを實現せしめた關係者の努力に對し多大の敬意を表するものである。

會場に入つて先づ最初の展示はこの展覽會の目標を示し、趣旨を說明する一展示板であつて、それからは「現下の住生活の困難を解決するためには女性の創意と工夫とによつて、手近の直ちに着手し得られる部分から實行に移して、住生活の協同化、簡素化により、速やかに國家の要請たる決戰住態勢を將來せしめねばならぬ」といふ意味が汲み取れる。

續いて第一部に入るのであるが、その最初の部分は次に展示さるべき「隣組協同施設」試案に對する意味附けの部分であつて、一般的に云へば「住生活協同化」の基礎理論を解明せんと試みられた部分と解せられるものである。この部に現はれた標語は「住生活の個々性から集團性へ」「住生活の協同化と簡素化」とである。その他に「國土計畫より見た住居」の圖解、「經濟關係より見た住居」の圖解、「共同炊事」の圖解等が含まれる。

これに續いて「隣組協同施設」に關する一試案の模型を中心とする圖畫、圖面、圖解の展示があつて、その內容は20戶單位の隣組に對する協同施設、建築物建坪100平方米、その內に集會場、炊事場、浴場、洗濯場、燃料食料倉庫、防空資材格納庫を含み、その他に國旗揭揚廣場、共同菜園、飼育場、防空監視臺等を添へ、これだけで一街廓を占めるものである。この實務は使用人を一切使用せず隣組員交替でこれに當るものとなつて居り「共同炊事」は朝夕2回、固定食200食標準、浴室は男女隔日、洗濯場は浴場の殘湯を利用すると說明される。

これに續いて「協同施設」を持つた場合の各個住宅の參考平面圖數案があり、次に「能率、經濟

合目的」といふ表題を附して新型式の家具食器の寫眞及び工藝指導所製作の新食器の展示があつて第二部に入る。

第二部「厚生住宅」は研究所女生徒の卒業制作であり、又この展覽會の主要なる目的とはいささか離れてゐる嫌もあり此處では觸れないことゝする。又第一部の最後の部に展示された「家具、食器」の問題はこの展覽會の標語たる「住生活の協同化、簡素化」と無關係なものではあり得ないが家具、食器の細部にまで亘つて感想を述べる餘裕も無さそうなので自然割愛されることにならう。又第一部の前部に展示された「國土計畫から見た住居」及び「經濟關係から見た住居」はその主催者の云はんとする意味が稍不明であり、この展覽會の目的から考へてもその展示の必要が薄弱だと考へられるし、なほ私のこれから云はんとすることのためには必要がないので除外する。

するとこれから私の云はんとすと點は、この展覽會の核心たる「協同施設」の問題、及びその基礎理論たる「住生活の集團化」「住生活の協同化簡素化」の問題とに關することになる。

この展覽會の持つ根本思想は云ふまでもなく、「住生活の個々性より集團性へ」といふ標語によつて示されてゐる。

これを內容的に解するならば全體主義思想を示し、型式的に解するならば統制主義思想を示してゐるものと見てよいであらう。

この標語を大見出しとした展示板には二個の寫眞を並べて、之を甲寫眞から乙寫眞への矢印を以て連結してゐるものであつて、その甲寫眞は幅員1間か1間半位の極めて、狹い小路を挾んで相對し、雜然と建ち並んだ謂はば「裏長屋風景」であり、乙寫眞は整然たる街廓に2戶建住宅の規則的に並列した謂はば「住宅營團の經營地景觀」なのである。この2個の寫眞を以て「個々性」と「集團性」とを表現し對比せしめやうとしてゐるものである。

この展示板は約1メートル角位の極めて小型のもの一枚に過ぎないのであるが、その重要性は極めて大で、この展覽會の思想上の根本的基礎をなすものと考へられる。この展覽會主催者が展覽會趣旨に續いて第一にこの標語を示されたのは當然であつた。

全體主義、統制主義の思想から出發して初めて「生活協同化」の理解があり、「生活協同化」の理解から出發して初めて「共同施設」の意義を把握することが出來る。

この展覽會が「隣組協同施設」の一試案を示して、觀覽者をして「隣組協同施設」の意味、內容を知らしめ、その企劃、實現を訴へんとするならば、是非ともその順序として「生活協同化」の意義を充分理解せしめ、その必要を充分感得せしめなければならず、又「生活協同化」の意義と必要とを悟らしめんがためには全體主義、統制主義の思想の完全な把握を得しめなければならなかつた。

從つてこの展示板は展覽會全部の根本をなすもので極めて重大に取扱はれて然るべく、又充分に親切な解說がなさるべきであつたと思ふ。

斯樣な點から見て、この展示板は餘りに簡單に失した。あの二枚の寫眞のみから「隣組協同施設」の基礎をなす精神が全體主義的精神であることを感得せしむるのは無理であり、單に型式的意味のみに解され易い。「集團」といふ言葉自體にしても單なる物の集合と解される危險なしとしない。

この點は「住生活の協同化、簡素化」の展示板に於ても云ひ得る。例へば「簡素化」の說明寫眞として「床脇に違棚を持つ典型的な床の間廻り」の寫眞と、「單純、簡素、瀟洒に取扱はれた繊部床風の新型式の床の間」の寫眞とを對比せしめてあるのであるが、これ等も甚だ型式的であり表皮的である。勿論その中から「簡素」の精神を汲み取り得ないとは云はないが、餘りに例示が偏倚してゐて一般觀覽者には眞の「簡素化」の精神の把握は困難ではあるまいか。これ等も更に適切な寫眞の撰擇がなされなければならなかつた。

一體「住生活の簡素化」は現下生活の必然的要請であり、又一般的要望でもある。これを全體性の問題と關連して考へて見れば、簡素性は全體性確立のための一つの要素であり、又全體性確立の自然的歸結でもあらう。しかし全體性から協同性が導かれ、協同性から共同施設そのものが生れる

といふ一聯の道行――これをこの展覽會は主張しやうとしてゐる樣に私には思はれるのであるが――その點からは「簡素化」の觀念は傍系的部局的意味のもののやうに考へられる。例へば生活の合理性のやうなものも、全體性確立、協同施設成立の要素とも考へられ、又その歸結とも考へられる。しかしこれ等の傍系的部局的要素を導入して來ることは理論を一貫せしむる上に、その複雜さを增し、混亂させ易いのではあるまいか。

勿論「生活簡素化」の問題はそれ自體重要な問題であるから「協同化」の問題とは別に徹底して取扱はれてよかつたと思ふ。單に「床の間」に倚託して型式的にのみ說かんとするのは疑問だと思ふ。勿論簡素化された型式には簡素なる精神を宿すものではあらうが、實際の展示では單に型式的にのみ解され易く、又「床の間」といふ樣なものを取り上げたことが既に問題であらう。

大體「協同施設」なるものを單に型式だけから見ることは危險であり無理である。この展覽會に示されたやうな完備せる「協同施設」の型式が備へられたとしても、この「協同施設」を共同して所有し、運營せんとする隣組の人々の間に精神的思想的全體性が打ち立てられなければ「協同施設」は十全の機能を發揮しない。勿論隣組の人々の間に何等かの精神的、思想的連結が全然なければ「協同施設」は成立し得ないかも知れないが、又單に個々の生活上の利便の一致、或は極めて窮窟なる現生活上の或る種の必要から「協同施設」が誕生したとしても、かゝる個人的利益、必要のみによつてその存在基礎を與へられた「協同施設」は眞の全體性の上に打ち立てられたものでないだけに、各個の利益と必要との消失を機機に分解せざるを得ない危險狀態にあるともいへる。

「協同施設」の一部をなす共同炊事施設のみについて考へても、今日共同炊事らしく運營されつつある共同炊事の大部分は工場、會社、學校、農村等のものであつて、しかも農村のものは大體農繁期のみの短期のものであり、學校給食もその一般的發達は遲々たるものであり、工場、會社其他の大規模なものでもその經營に困難を感じつゝあるものも少くないと聞き及んでゐる。まして隣組といふ樣な小規模なものはその設立さへ種々の困難に悶まれて、特別な人々の間に行はれつゝある僅かなものを除いては一般的には全く行はれてゐないと云つていゝ。專門家の間にさへ隣組共同炊事の如きものは特殊な短期間でなければ成立たないといふ意見さへある。

何故に共同炊事、或は一般的に「協同施設」が簡單に成立ち得ないか、又幾多の困難を冒して成立してもその經營に行きづまりを生ずるか。

これには幾多の條件があらう。然しその中の最も重要な點は『協同施設』を共有せんとする人々の間に眞の全體性、協同性が確立されないからであり、個人的利益は互に一致する場合に相結んで「協同施設」を成立せしめる機機を得るのであるが、又同時に個人的利益はその微妙なる不一致によつてこれを崩壞せしめる機機を持つ故である。

結局「共同施設」の成立は全體的基礎に於て初めて完全な成立が見られると考へられる。

私はこゝに全體的基礎といふ言葉を用ひ、上來全體主義といふ言葉を用ひて來た。しかしこの言葉は全體のための個人の犧牲と誤解され易いと思ふ。しかし私の云はんとするところは全個一如的境地に於ける全を意味する。然らざれば全體に壓迫される個人の不滿は到底完全なる全體と個人との融和を望み得るものでない。

兎に角かゝる意味の全體的基礎の上にのみ眞の「生活協同化」は顯現すべく、かゝる基礎の上にのみ眞の「協同施設」は存在し得る。

私は「協同施設」を解說する上に、かゝる基礎論は缺くことの出來ない重要性を持つものと考へる。あの展示板の「住生活の個々性から集團性へ」「住生活の協同化簡素化」といふ標語はかゝる意味を持つものと解し、又當然解さねばならぬものと思ふ。それにつけてもあの「裏長屋風景」と「營團住宅地風景」との2枚の寫眞の對比「複雜な舊套的な床の間」と「簡潔な新型式の床の間」との寫眞の對比のみに放置した粗末さを慊たらなく思ふものである。

次に展示された「隣組協同施設」に關する一試案はある意味に於ては實現的であり、ある意味に於ては理想的であつた。この一試案の解說の示す

ところによれば64平方米前後の一般住宅の作業部分（臺所、浴室、脫衣室、洗濯場等）は約15平方米あるといふ。これを協同施設を利用することとすれば作業部分は2平方米に減少するといふ。而してその節約し得る面積中各戸5平方米宛を隣組20戸より集めて100平方米の協同施設に對する建築物を建設するといふ。されば單に建築のみの點から考へれば實現の可能性は認められ、住宅營團其他の團體が集團的に住宅を建設する場合に極めて僅少な資材と勞力の增加によつてこの一試案の如き共同施設を持つ隣組住宅群を建設し得る。かゝる點は現實的と見られるであらう。

然し隣組10棟20戸單位に各々この試案の如き協同施設を持つとするならば協同施設のみに過大の敷地を充當せねばならなくなる。10棟を一街廓に收容するとすれば、道路等を除外せる實際利用全敷地面積の50パーセントを協同施設のために要することになり、5棟を一街廓に收容するとすれば同じく33パーセントを要することになり、現實的には多大の疑問を生ずる。かゝる點は非現實的と見得るであらう。

又協同施設自體を見てもその中に含まれるものは①炊事場、②配給場、③浴場、④洗濯場、⑤集會場、⑥防空資材庫、⑦防空監視臺、⑧食料燃料倉庫、⑨國旗揭揚廣場、⑩菜園、飼育場であるが③⑥⑦⑩の如きは全く現實的であつて、今日共同浴場に行く習慣は特別のものでもないし、隣組共用の防空資材は共同の格納庫に容れられるのも一般的であり、對空監視臺が隣組共用に設けられてゐる例も珍らしくないし、休閑地を利用して隣組共同菜園の實施されてゐるのも到るところに見受けられるものである。又②④⑤⑧⑨の如きも多少の困難はあつても、事情さへ許せば實現の可能性はあると思はれる。たゞどうしても①の共同炊事の問題は現實の問題に近づけて來るために多大の困難と障碍のあることは前にも云つた如くである。さればと云つて共同炊事は今日實現性が乏しいからと云つて棄てらるべきではない。共同炊事を行ふことによつて物資、勞力、時間の節約、又積極的に榮養上の利益は議論の餘地がない。されば「住生活協同化」の一面として共同炊事は我々の理想とされてよいやうに思はれる。

兎に角試案に示された集團的隣組住宅及びその協同施設はその部分に於てはある種の理想と現實とを混有するものであるが、これを全體的に見るならば全く一個の理想考案なのである。

この展覽會を見る人々は大多數借家住ひの人々であつて、一般普通の住宅に住んでゐる人々である。この人々がよしあの試案によつて動かされたとしてもあの理想的型式を實現し得べくもない。よし又新らしく住宅を新築し得る人々であつたとしても個人の力ではこれ亦不可能である。是非とも相當强大なる團體の力によらなければならない。あの試案の型式は觀覽者の一人一人に對しては、實現の可能性から見て「高嶺の花」なのである。と云つても斯樣な理想の姿を示すのが無意味だといふのではない。私はあの程度より更に更に高い理想の姿に於て「住生活協同化」を表現して貰つた方がよかつたとさへ思ふ。

それにも拘らず私は同時に觀覽者の一人一人にとつて、實際性を持つた極めて現實的な表現が是非なければならなかつたと考へる。理想を示したのみでは空に過ぎ易い。各人の實際に即した現實可能性を持つたものを同時に示して初めて觀覽者に强く影響し得ると信ずる。

殊にこの展覽會の趣旨に於て「手近な直ちに着手し得るところから進まう」といふ實際性が强調されてゐるに於てをやである。

この點を具體的に云ふならば現在普通の住宅に住ふ吾々一般人が今日直ちに實行し得る「住生活協同化」の方途を示すことであつて、これを共同炊事に例をとるならば、今日の一般狀態に於て「手近な直ちに着手し得る」共同炊事方策を示すことであつた。

勿論主催者は展覽會趣旨に於て實際性を强調するだけであつてこの點にも注意したらしく思はれるのは、全般的共同炊事への過程に於て「米飯のみの共同炊事」「副食物のみの共同炊事」を示してゐたり、又特別の共同炊事場を別個に建設するまでの過程に於て既存のもの、即ち隣組中の最も廣い家の臺所、隣組中の空家、空倉庫、或は附近の寺院等の利用を示したりしてゐる。然しその展示は極めて簡單、お粗末であつて、私の希望する意味からは全く不滿足、不充分なものである。か

ゝる點こそ最も重點を置くべきところであつて、充分實際的な說明を必要とする。

例へば近來東京方面等に行はれつゝある榮養食獻立材料配給事業の如きものは「生活共同化」の實際的方策として推賞し得るもので、これ等は共同炊事より遙かに容易に實現し得る實際性を有するものとして展示されてよかつたかと思ふ。この事業の强味は日本人の潔癖或は趣味の現狀を考慮した點にある。

この事業を意味附ける代表的意見は次の如きものである。即ち「共同炊事に於て、一家の食事の調理を悉く他人に委せ、運搬され來るものをムザムザ食べるといふ生活はそれは恰も豚や牛の生活のやうなものであつて、人間の食生活は云ふまでもなく榮養的に經濟的である點は充分考慮しなければならないが、更にも一つはせめてその家族の嗜好に向く樣にといふ愛に出發した調味の加はつたものであるべきだ」といふのである。

その實施方法は榮養食獻立に基きその副食物材料を共同で購入し團體員の家族數や年齡別によつて材料のまゝ適正に分配する方法である。

その實際の例を見ると①配給所所屬の榮養士が豫め一週間分の獻立表を作製し、配給を受ける受給者と材料を納入する商人とに配布する、②前日更に物資の出廻り狀況、價格等を考慮して商人と打合せをなし明日の必要量を註文する、③當日商人が約束の時間までに持參した材料につき榮養士は材料の質の良否、價格の適不適を吟味し、之を受領し原價計算をして豫算と對比して見る、④營養士は實際に獻立の實物を調理して見本棚に陳列し受給者に見せ調理の仕方を說明し充分獻立を理解させる、⑤受給者は所定の傳票に大人幾人、小人（七歲以下）幾人、及び朝何食、晝何食、夕何食と云ふ樣に記入して事務所に出して置く（今日の材料を受取る時明日の分を差出す）⑥受給する家庭では臺所の擔當者が現金と空籠と傳票綴とを持つて14時から15時頃までの間に配給所に出掛け當日受取分の材料代を支拂ひ、前項の明日分の註文傳票を差出し、旣に今日受取分の材料の入つてゐる籠を受取り、持參した空籠を渡し、そして見本の獻立につき榮養士から調理法の說明を充分聽いて歸るのである。

實例ではその規模は60世帶150人（瀨野川）位から459世帶2295人（大森雪ケ谷）位のものまであり瀨野川のものは配給所に元自働車小屋なりしものを改造した3坪のもの、配給所の構成人員は營養士一人、助手二人であり、大森のものは配給所も30坪新築配給所構成人員も營養士一人、營養指導員一人、助手七人である。何れも家庭生活組合の經營であつて、組合加入者のみの利用するものである。

この點この展覽會の試案の如く隣組全員、町會全員が當然含まれるものとは多少意味は異るものではある。勿論隣組全員、町會全員を當然に含むのが理想であり、かくして眞の全體性の確立があり得るわけであるが、現狀に則しては共同炊事組合も任意加入のものが一般であると同樣、この事業に於ても組合加入の自由が殘されてゐるだけに全體的住「生活協同化」への漸進的意味に於ては誠に實際性を持つものだと思ふ。

試案に見る樣な理想の姿を示すと同時に、かゝる「協同化」の實際的な姿をも示さなければ觀覽者に强き印象を與へ得まいと思つて殘念である。

又共同獻立材料配給の上例より進んで共同炊事を主張するにしても、今日實際に行はれてゐるものを實例に就いて或はその統計に就いて詳細に解說する親切があつてよかつたと思ふ。共同炊事場のプランと寫眞とを漫然と示したのみでは吾々に何等の印象をも殘さないのである。

最後に隣組住宅群が「協同施設」を持つことによつて、隣組住宅の個々は作業面積の節約を得る點を示すために、作業部面積2平方米前後の住宅平面圖の數例が示されてゐるので、これについて一言を加へる。

この作業部とは勿論小臺所であつて、それも居間の一隅或は玄關土間の一隅の押入程度のところに食器棚、流し、調理臺等を設置し、使用せざる時はカーテン又は扉を以て隱して置く樣になつてゐる。これ等の案自體の巧拙はこゝに云はないが調理關係の諸機能も極端に縮小すればアメリカのアパートメント・ホテルに於けるパントリー・セット類似のものとなつて、勿論若干の面積を占めるものには相違ないが、それは獨立に作業部とい

ふよりも寧ろ居間の中に作業部を融合せしめたものであつて、パントリー・セツトは居間中の一設備一什器となると考へられる。

展覽會展示の一例、居間の一隅にある押入様の入込の小臺所に於ても、事實食器棚、流し、調理臺等の單なる裝置場所であつて、人がその面積内に入り込んで仕事をするわけでもなく、實際の狀態に於ては居間の一隅に於て仕事をしてゐる形をとることとならう。

實際今日の小住宅の日常生活室、居間は即ち茶の間であつて、そこには水屋棚があり、長火鉢があり、流しの縮小された建水があり、給水設備たる水差がある。即ち今日でも吾々の生活室たる茶の間には日本的パントリー・セツトが備へつけられて、少しも目障りでなく吾々の生活に融合してゐるのである。洋室の場合にもかゝる生活と融合した狀態に置き得るかと思ふ。必ずしも押入様の入込みに格納しカーテンを以つて隱蔽しなくとももつと自然な考案がほしかつた。

なほ斯様な觀覽者の日常生活と離れた特殊な考案は出來得ればモデル・ルームを作つてその實感を與へなければならぬと思ふ。單なる五十分の一位のプランのみを示すのは不親切で、せめて透視圖でも添へる必要がある。

「協同施設」を持つた場合の各個の住宅、これは自ら今日の普通のものとは異らざるを得ない。かゝる吾々に目新らしい性質のものは充分の說明がなければ理解しにくいものなのである。

この展覽會ではこの問題は可なり簡單に取扱はれてゐて殆んど說明らしい說明もない。然し「協同施設」に關心を持つものは自ら「協同施設」を持つた後の個々の住宅にも强い關心を持つのは當然なのであつて、この「協同施設」を持つ各個住宅の問題は充分重要に取扱つて欲しかつたと思ふ。

要するにこの展覽會が私の推察する如く全個一如的思想から出發して「生活の協同化」へ、更に「協同施設」への道を示さんとするにあつたとするならば、その理論に於て、云ふべきことの云ひ足りなさからその透徹を缺き、云はずもがなのことを云つてその混亂を招いたうらみは多分にあつたと思ふ。

殊にこの展覽會がその趣旨に於て「手近から着手する」といふ實際性を强調しながらこの方面への注意が微弱、散漫であつたのは觀覽者に對し單に高嶺の花を眺めしめただけに終つたのではないかと遺憾に思ふのである。

以上云ひたいことは云つたが、この展覽會開催の勞屋を開知つてゐる私にとつては依然計畫者に對する同情と敬意とを失はない。

兎に角今日「住生活協同化」の問題を取擧げたことは、取擧げたことそれだけでも決して無意義でなかつたと思ふ。

最後にあの急な短期間に非常な努力を盡された計畫者の方々の勞を多とする。

（筆者は竹中工務店設計主任）

"市街地建築物法令" 送料訂正

四月號本誌上に於て豫告申上候　6月發行豫定の昭和18年度市街地建築物法令の送料6錢は8錢の間違ひに付何卒不惡御諒承願上候

昭和18年5月

社團法人　日本建築協會

「女性と住生活」展に就て

小田島兵吉

女の人達が、特に家庭の主婦達が、自分の住居に就いて、多かれ少かれ、ある關心を持つてゐることは確であるにしても、それは恰も男が化粧品や着物の柄に就いて關心を懷いてゐると同じ程度の、非常に漠然としたものではないかと考へられる。臺所の使ひ勝手が悪いとか、押入が少いとか日當りが悪いとか何とか、或る程度の意見は持つてゐても、積極的にさてどうしたらいゝかと云ふことになると、さつぱり見當がつかない。鷹揚と云ふか無知と云ふか、どうも齒がゆい感じがするが、そう云ふ人達を啓發するために、この「女性と住生活」展覽會が開催されたのだらうと想像して、實は會場に行つて見たのである。

特に會場が、大勢の人達の集まる百貨店の催場を撰んだと云ふのも、女の人達が多く集まるからだらうと考へて見たのである。

多分「女性と住生活」といふ名前から考へても女の人達の最も日常生活に關係のある、臺所の配置や設備だとか、押入れの使ひ方だとか、浴室の具合だとか經濟的な風呂の沸かし方だとか、或は洗濯場や物干など、薪炭の置場、又は子供達の勉强室など、どうしたらいゝかと云ふ樣なことの解說やら說明など、いろいろ模型でも置いて、素人に解り易く展覽してゐることだらうと考へて、行つたわけである。

ところが、見た所、そういふ樣な點は、全然とは云はぬが、殆ど無く、この展覽會の目的はそういふところに無い樣である。展示してあるものは隣組を中心とした住宅群の共同施設に關したものと（かりに第一部とする）ある住宅經營地に於ける住宅の平面圖及模型（これを第二部とする）との二つである。いづれも女子研究生の製作にかゝるものと聞いた。

これがどう云ふわけで「女性と住生活」展とひふ名前になつたのかわからない。女子研究生の作品だからと云ふのかも知れないが、むしろ「時局と住生活」展とした方が、もつと內容とぴつたりしたのではないかと思はれる位だ。

云ふまでもなく、非常に時世は切迫してゐる。あらゆる事態は決して生やさしいことでは治りがつかなくなつてゐる。住宅だけが例外であるべき筈がない。

住宅も建築の方は事變以來、制限に制限を受けて、すでに行き着く所まで行つた樣である。即ち生活だけが更に檢討される番になつて來たといふ譯である。

家庭の主婦達は、いろいろ物資の配給制度が變つてから、急に餘裕といふものを失つて、朝から晩まで追はれる樣に立ち働いて、しかも、まとまつた仕事一つ出來ぬことを嘆いてゐる。女の人達ばかりではない。男子は男子で隣保のこと、會社のことなどに一日を休みなく働くことが多くなつた。たゞ一つ、戰爭に勝つための必死な手段として止むを得ないと云へば云へるかも知れないが、そこを何とか、も少し餘裕をつくつて、御國のために餘力を捧げる樣にしやうと云ふのが、この展覽會の目的の樣である。

誠に時宜に適したことゝ云はねばならない。私はゆつくりと見て歩いた。

こゝに一かたまりの住宅群がある。その眞中に共同施設の建築物がある。共同炊事による材料の節約、時間の經濟、共同入浴による燃料の節減、働く主婦たちのための託兒の設備、共同蔬菜園など悉しい說明があり、從つて一家庭にそれだけの場所が不必要になり、所謂最小の勞果を以つて、最大の效果をあげることが出來るといふ仕組を、

素人にもなるほどとよくわかる様にしてある。

まことに結構である。こういふ施設は戰時下でなく、平常時であつても是非必要と思はれる。私は關係者の努力に感謝しながら一巡した。

一巡して、もとへ戻つて見ると、見たことがボンヤリして何だか忘れものをした様な氣持である

考へて見る。

一體この展觀會は如何なる種類の人々を目標として開催されたのだらうか。

第一、私は會場へ入つてびつくりした。あの廣い會場に觀る人の數は十七、八人。まるで、閉店後の夜の冬の街を歩いてゐる様な氣がした。一階下の賣場では、大勢ひしめき合つて買物をしてゐるのに、この會場は何といふ靜けさであらうか。女性と住生活といふ名前にひかれて來たか若い女の人が十二、三人、あとは背廣の男子だつた。

子供を負つた婦人が會場に入つて來たが、チラと目をくれたきり、そゝくさと階段の方へ消えてしまつた。

恐らくは多くの人々に見て貰ひたい爲に、こういふ百貨店を利用したと思はれるのに、事實は反對の様である。（實は私は開期中の一日だけ、而も晝食時の一時間だけを見てゐたのだから、或は間違つた結果を述べ立てゝゐるかも知れない。）

事實私共の知つてゐる範圍で、多くの家庭の主婦達は、女中もなし、朝から晩まで子供の世話、炊事の世話、いろいろ配給ものゝ世話、その他等で眠る時間もない位に忙しくしてゐるが、いざお互に共同炊事や共同風呂でも實施しやうといふにも、現在の狀態ではとても出來さうもないのである。共同炊事や共同農耕位は、場合によつては、やれさうであるが、その他のことは、なかなか困難なやうである。

現在私の住んでゐる町内では、全町内各戸からいくらかづゝ出費し合つて一つの會館を建築し常會や講演などの集會用とし、物資の配給、月何回かの映畫會、防空資材の倉庫等に利用してゐるが、こういふものが有ることによつて、家庭の主婦達の負擔は少しも輕減されてゐない。一時託兒所見たいなことでもやらうかといふ意見もあつたが、いろいろの故障からそれも立ち消えになつてしまつた。

やり方が悪いからでもあらうが、こういふ共同施設が有りながら、それを充分に利用しない、又は利用し得る狀態に達してゐないと云ふことは、現在のお互の家の配置なり職業などによる住生活の相違が、さうすることに適してゐないかとも云へるだろう。だから——と云つては獨斷的になるが——一般の人々はこういふ展覽會に進んで興味を持つことが出來ないのである。

逆に、それだからこそ、聲を大にして、こういふ展覽會でも開いて、その方面の興識を吹きこむ必要があるとも云へるだらう。

結局、これは大きな工場の職員又は工員社宅などの様に、共合施設をするのに都合よく、職業も勤務時間も、又大體の收入や家族數などの同じ様な場合に、最もその効果を發揮するだらう。從つて、この展覽會を最もよく見て慾しいのは、その方面の當事者といふことになる。

ところで、何々重工業、何々製鋼所などゝ云ふその方面の當事者達は、既に大體それを心得て居り、實行に移してゐるから、最早その必要もあまりない。さうすれば又、もとへ歸るが、誰を一體目標として開催されたか、もう一ぺん考へて見なくてはならない。

やはり何と云つても、一般の人々を對稱としなくてはならない。

さうすれば矢張り見る人が多いほどいゝ。それには、俗つぽくても、矢張り素人が面白をかしく樂しみながら、その方面の智識を得て行く仕組の方がいゝのではないか。建築の展覽會といふと、圖面と模型をならべるより仕方がないかも知れないけれども、それでは素人は食ひついて來ないと思はれる。

と云つて、それなら具體的に云つて見ろと云はれたら私も忽ち困つてしまふが。

次は圖面にあらはれた間取についてであるが、中央の共同施設の方はよく研究されてゐる様だからいゝと思ふが、一戸一戸の方はいろいろあつて若い女性が考へと云ふことだけで、それに敬意を表するものであるが、忌憚なく云へば、自分が住んで見て少しも差支ないかどうかを、も少し考へ

て見る必要がありはしないかと思はれる。どこがいゝとか悪いとかは云はないけれども、何かこうアパートを引きちぎつて置いたといふ氣持がする。その他は別に云ふこともない。

次に第二部として、女子研究生達が、住宅經營地に建つ各住宅の間取を研究發表してゐるが、これはこの展覽會のお添物と云つた感じであるし、會場の位置から云つても、場所こそ廣いが照明が不完全で薄暗く、どれが居間やら茶の間やら、縮尺の小さいせいもあるが、平面もさだかに見にくい所に置かれてあるので、氣の毒の様である。

若い女の人達が、僅かの日數でこの様な圖面を畫くことが出來る様になつたといふことは、指導に當る人々の努力もさることながら、さういふ風になつた時世の力といふものをつくづく感ずる。

みな眞面目に少しも衒はずに畫いてゐるのは、頼もしい限りであるが、自分の設計したものを實施した經驗に乏しい爲の少しの缺點は止むを得ないだらう。

多くの中に、只一つ佛壇の位置を記入したものがあつた。しかし神棚の位置を記入したものは、一つもなかつた。

便所の位置が殆どすべてと云つていゝ位、玄關の傍に設けてあつた。水洗式で淨化槽又は直接下水に放流する場合は、それでもよからうが現在の様な時世では困るのではないかと思つたりする。便所はなるべく人の目につかぬ所が好もしい。

しかし大體住宅といふものは施主といふものがあるし、設計家だけの好みで出來るものでないから、要らない取越苦勞は止めて置くが、これ等の住宅は第一部の共同施設を持つ住宅群と何の關係もない様であるが、展覽會の性質上、ある程度の關係を持たして置いた方が、見る方から云つて、面白いと云つては誤弊があるが、意義深くはなかつたかと思ふ。

結局、ほめたのか、くさしたのか判らなくなつてしまつたが、國民の保健上重大な關係のある、住宅の改善を促進する、こういふ展覽會は、もつと頻繁に開かれていゝと思ふ。（昭18—3—31）

（筆者　大林組設計部技師）

回收で適當な代替品が見付からずお困りの方・破損して材料がなくて取替にお困りの方・新規取付けの方・キット皆様の御滿足を得る

日本商工會議所選定
金屬回收用

三角雨樋
木製刳抜

木材を資材とするために豊富です。アングル狀刳抜製にて強靱です。特殊防腐、防水裝置の爲、耐久力大、切口は三角形で合せ目なく釘を用ひず取付は至極簡易にて日本趣味に調和します

型錄進呈・見本參上

大阪總發賣元
日光建材社
大阪市浪速區逢阪下之町20
電話 戎 ⑯ 8 7 5 番

キャマライト
石油缶
小型雜缶

代用品協會員
木山標記商事合名會社
大阪市阿倍野區阿倍野筋四丁目四八
電話 天王寺 ⑰ 0651番・9313番

「女性と住生活」展を觀て

中野順次郎

女性に關する表題であつた故か最終日の午後は殆んど婦人と子供が見學してゐた。男子は僅かに二割程度でなかつたらうか。その中に交つて一通りみせて貰つたが、これは非常に苦心して展覽されたといふことを想像した。普通催されてゐる時局面の展覽會が殆んど興味本位に通つてゐると、何時のまにか何等かの展覽意圖を注入されるといつた程度の宣傳向のものが多いが、この展覽會は違つてゐた。

一寸眺めて通つた位ひではおそらく何もわからなかつた人が多くはなかつたかと思ふ。展覽技術は親切で、簡結でよく研究されてゐるにも不拘、みる人の熱心さと研究心とが伴はないと折角の展覽意圖が徹底し兼ねたかと心配された。

併しなかには展覽圖表の前に立つて筆記してゐる婦人とか、二三人で何か盛んに意見をたゝかはしてゐた人達もあつて甚だ快く思はれた。斯様なことは他の展覽會では餘り例のないことである。

目的を明示し、卒先して熱心なる研究案を提示したところにこの展覽會の意義があつた如く、方法として眺める展覽會でなく、教へて研究させる態度に重點を置いたことは極めて適切な方法であつたと思ふ。從つてこの催しは、熱心な見學者に對しては興味ある資料と研究の手引を與へたことにもなり、現下の社會問題としても至極適切であつた。

さて展覽會の意圖する方向と内容について思つたことを添加へてみたい。

●生活内容の説明について

我々の生活が生産生活と消費生活の循環にあるとしたことは解り易い分け方であつたが、消費生活の内容に食事、教養、慰安、睡眠を含めるとすると、これは表題の住生活のことになると思ふ。即ち住生活を生産に對して消費の性質とみて出發する考へ方であるが、これでは住生活の内容が少し狹過ぎるやうな氣がする。戰時下に於ける住生活の重點を消費の合理化に置くことは當然とするが、同時に厚生、育兒を强調することにして、單に消費生活と題したくない。寧ろ生産に對する住生活其儘で押し通す方がよいのではないか。尤も計畫案にはこの意味が意圖されてあつたやうに思ふ。

●共同施設について

隣組住區或は町會住區毎に設ける共同施設が

①住生活に於ける消費經濟的合理化
②主婦の生活能率增進
③住宅機能の簡易化
④建築面積の縮少
⑤家庭設備品の共用能率化

等計畫案の主目的が明瞭に示されてゐたのは結構である。慾をいへば住區毎に設備すべき共用資材とか器具、道具等を調査研究したら一層參考になつたと思ふ。

荷車、乳母車、自轉車、リヤーカー、鍬、スコツプ、張板、梯子、ポンプ、擔架、運動具木工修理具、佐管用具、雜修理道具、季節品歲收面積等

生活の合理化を計るためには、なるべく共用道具共同施設を多くする程効果があるばかりでなくこれは一日も早く實現する必要があると思ふ。

●託兒と幼稚園

主婦が生活に從事するとなればどうしても完備した託兒施設が必要になるが、それには食事、衞生、保育と少しも家庭の母親よりも遙かに實踐力のある保母が必要となる。家庭から育兒の要素を抽出することになるので單に物資の消費合理化と同性質には考へられない問題ではあるまいか。婦人の仕事が手内職になるとしても、子供は母親の

近に置くことの出來る住生活形式が望ましいと思つた。

●共同炊事

營養價値と衞生を確保したもので一日も早くこの方法が實現したらどんなに便利かと考へる。主婦の手料理で云々といふこともあるが朝から晩まで臺所と市場で暮してゐる有樣をみては手料理の味に甘へることも許されぬ氣持がする。

或る程度の加減が出來るやうになれば共同炊事をもつて住生活の基本とすることが出來るのではあるまいか。

食膳に、我が家で作つたトマト一箇が盛られてゐても之を圍ふ家族は嬉しく我が家の食事が出來ると思ふ。

兎に角この展覽會の如く種々と我々の住生活のやり方を研究して新しい方法を創造實踐すべき時機である。

（著者は大阪市立都島工業學校建築科長）

「女性と住生活」展を觀て

竹内さく

先づ最初に會場を一通り拜見して感じました事は、此展覽會自體が、今迄に見た何の展覽會よりも、非常に優れて簡素化して居る。統一されて居る。謂ひかへれば垢拔けして居る。と云ふ事でした。說明文の一言一句にさへ、無駄が無く、而も見る者に良く解る樣に、出來て居りました。此の展覽會を見た直後の、頭の中がスーツとした樣な氣持の良さ。之は全く實感を正直に申しただけでお上手でも、何でもありません。

隣組住區計畫案は大變興味深く拜見しました。此の計畫案が出來上る迄に、住生活ばかりで無く廣く生活一般の研究が積まれた事が、うかゞはれて、嬉しうございました。同計畫案中、單位住宅試案では、やはり「1」と「4」が結構に存じました。寢るのに都合よく、又住みよい、と思ひます。尙此の部分のところで二つばかり氣のついた事を申上げませう。その一つは、今迄の生活と、隣組住區生活に依る主婦の時間の比較表ですが、今迄の生活の方は、先づあれでよいとして、隣組住區生活の方は、團體生活をする爲に、家族單位の生活には必要としなかつた樣な時間——例へば指導者の生活計畫及指導に費す時間等——が必要になつて來るのではないかと思はれます。斯る表は、出來る事なら三ケ月でも半年でも、これに似た生活を實踐した上で作つて頂く事が出來たら、如何に權威ある物が出來る事だらうと思つた事でした。もう一つ氣付いた點は、消費生活の內容を「食事」「敎養」「慰安」「睡眠」としてありましたが、斯う限つて仕舞ふのは少し早過ぎないかと思ひました。例へば住に關する消費も衣に關する消費もある譯で、此の樣な時、せめて「等」とか「その他」とか加へられて居たいと思ひました。

本科卒業生御製作の 100 平方米程度の住宅も、一つ一つていねいに見せて貰ひました。一般的に申せば、皆よく出來て居ると思ひました。その中でも三組の十七號を殊に面白いと思ひました。間取も恰好も好きでした。あの家の便所の位置は玄關の近くで、便利な所にあり乍ら、而も露はでなくて近頃暫く行當らなかつた〝奥ゆかしさ〟に、久し振りに出會つた心地して、嬉しうございました。又此家の子供部屋、北側にある中廊下も大變具合よく見受けました。短かいけれど、良く中廊下の目的を達し、西北隅の窓によつて、中廊下の陷り勝な採光換氣の不充分さも、全々無く、此の家は本當に氣持よく住める家と思ひました。

（筆者は神戸女學院專門學校敎授）

先斗町組合營養共同炊事見學の記

「建築と社會」編輯幹事會

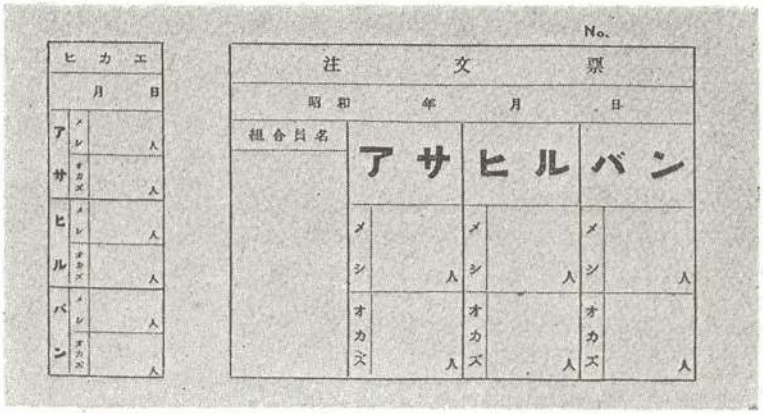
最近、社會問題の一つとして、共同炊事乃至團體炊事のことがあげられてゐる。これは尤も農村に於いては所謂農繁期に於いて勞力時間の節約から托兒所などと共に暫定的に行はれてゐたが、都市に於いては、最近の諸物資の配給制度の確立、加ふるに勞力・時間の節約を含めての非常時局下の所産である。主食物たる米は勿論の事、魚・肉・鹽干物あるひは野菜などとあらゆる副食物に到るまで配給制度になり、一定の地區には日々同じものが配給される。以前ならば各自自由に好きなものを買ひ求めて、獨自の獻立により調理してゐたものが、それが許されなくなり、日々與へられたる食料により食生活を營まねばならなくなつた。そこへもつて來て、最近の各方面の人手不足は物凄いものがあり、あらゆる方面に人手が要求されてゐるし現在の樣に食料品の買出しに勞力と時間を費やしその上各家庭で同じものを同じ樣に調理するのに時間をつぶしてゐるのも不合理だから、一さうのこと、隣組ならば隣組、或ひはもつと規模を大きくして町會と云ふ樣な團體で共同炊事をやつてはどうか、さうすれば無駄な勞力や時間の浪費がはぶけるし、共同にすることによつて燃料も節約出來るし尙且剩つた人手や時間を時局下適切な方面に振向けたならばまことに有意義ではなからうか、と云ふ解釋から各方面にかゝる施設がなされ運營されてゐる。まことに尤もなることにして、建築家たるものは、その設備に最全の努力をふるふべき義務があり、その研究調査の必要を感じたので、某日編輯幹事會に於いては特異な例であるかも知れぬが標記の施設を見學をなした。その記錄の概要を次に紹介しよう。

×

先斗町營養食共同炊事部は先斗町貸座敷組合に屬するもので、同組合員ならびにその家族(藝妓)雇傭人に對し營養食を配給し、以つて健康の增進を圖ると共に、各戶の繁雜無駄を省き生活を改善するを目的として昭和14年11月設置されたものである。最近は名稱の不適當から立誠營養食配給組合と改められてゐる。最初はかゝる特殊な組合だけにその設立も他よりは早くなし得たが、又、特殊なだけにいろんな注文や得手勝手な希望が續出したり、近くにゐる食料を扱ふ業者からの反對も出て實施困難に見えたが、當局者の統御よろしきを得て、幾多の難關をのりこへすくすくと伸展し食料或ひは他の物資入手困難になるにつれて、今ではかへつてこの組合に加入してゐることを喜びとし、誇りとしてゐる位である。

前述の如く、昭和14年8月に設立企畫をたて早々に、いろんな準備に着手し、なかでも共同炊事場の設備が大問題であつたが、新築は許さるべくもなく、幸、組合近くに格好の空家があつたのでそれを入手、改造をなし時局下として最全の設備がなされた。その年の11月には京都府から設立許可が與へられ、翌15年1月から實際の仕事が開始されたのである。

組合內の戶數は約200戶、人員にして現在900名許りが（男子20%、女子80%たるのも場所柄止むを得ない）給食を受けてゐる。給食は場所柄だけに朝・晝・夕の3食、隨意に撰擇出來る樣になつてゐて、たとへば5人家族であれば1日15食となるから、朝3食、晝8食、夕4食と云ふ風に隨意增減することが認められてゐるので、通常朝は500食晝と夕は900～1,000食となるとのことである。これなどもかゝる特殊な場所だけに、朝は起床も概しておそく食事をぬく者もあり、又、夕方は商賣で忙しくなると云ふ處から、結局おちついて食べられる晝食に對して御馳走がなされると云ふ譯である。又、便利なことには、お菜が到來物などが



No.

注文票

昭和　年　月　日

組合員名

アサヒルバン

メシ　人　人　人

オカズ　人　人　人

エカヒ

月　日

アサヒルバン

メシ　人

オカズ　人

メシ　人

オカズ　人

メシ　人

オカズ　人

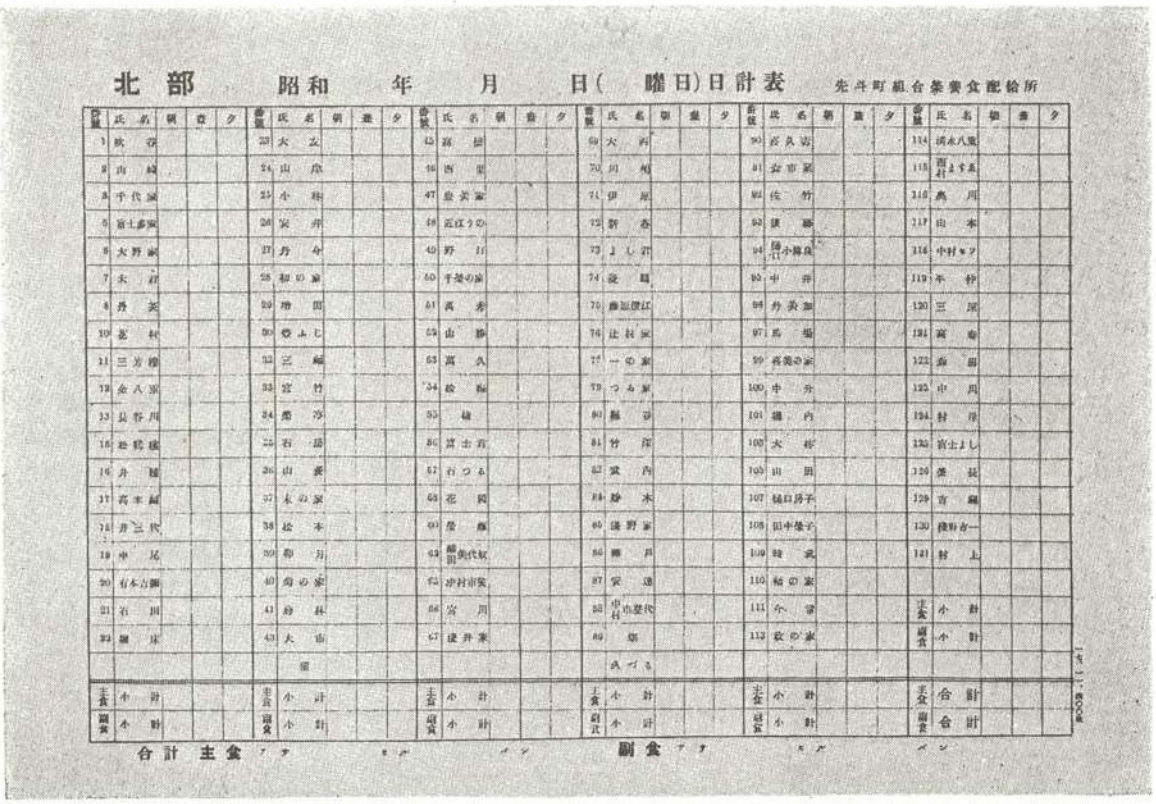
第 1 圖

あつて、不要な時には御飯だけを請求出來る仕組になつてゐる。それから國民學校や中等學校に通ふ生徒たちに對しては、炊事場の建物内に食堂が設けられ、朝食は通學の途中、晝食はそこへ生徒が集つて來て樂しく賑やかに食事をしてゐる。尤も遠方の學校に通ふ者に對してお辨當が作られるのは云ふ迄もないことである。

第 2 圖

食費は朝は10錢、晝は20錢夕は15錢、1日合計45錢になつてゐて、一般の營養食配給所が50錢から60錢位であるのに比べて低廉であるが、それは營利を旨とせず、又、有力なる組合を背景にしてゐるだけに首肯出來るのである。

尤も、1日3食をみるに、材料及びその加工賃（燃料調味料など）をあはせて40錢前後で賄はれてゐて、殘りは事務費、諸雜費或は積立金とされてゐる。尙炊事場の改造、厨房諸設備ならびに諸道具・食器類の購入など設立費として、かれこれ4萬圓を要したが、此は組合から借入れてをり、これだけは年々返濟して行かねばならぬし、又、諸道具の買ひ換へや、殊に最近の樣にガス節約が叫ばれると別に薪をもやすかまどを築いたりせねばならぬことも起つて來るので、これらに對する準備がなされてゐる。

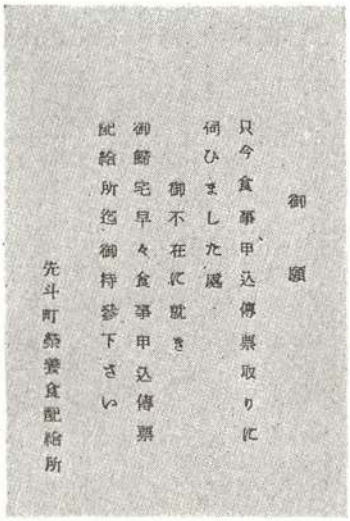


北部　昭和　年　月　日（　曜日）日計表　先斗町組合營養食配給所

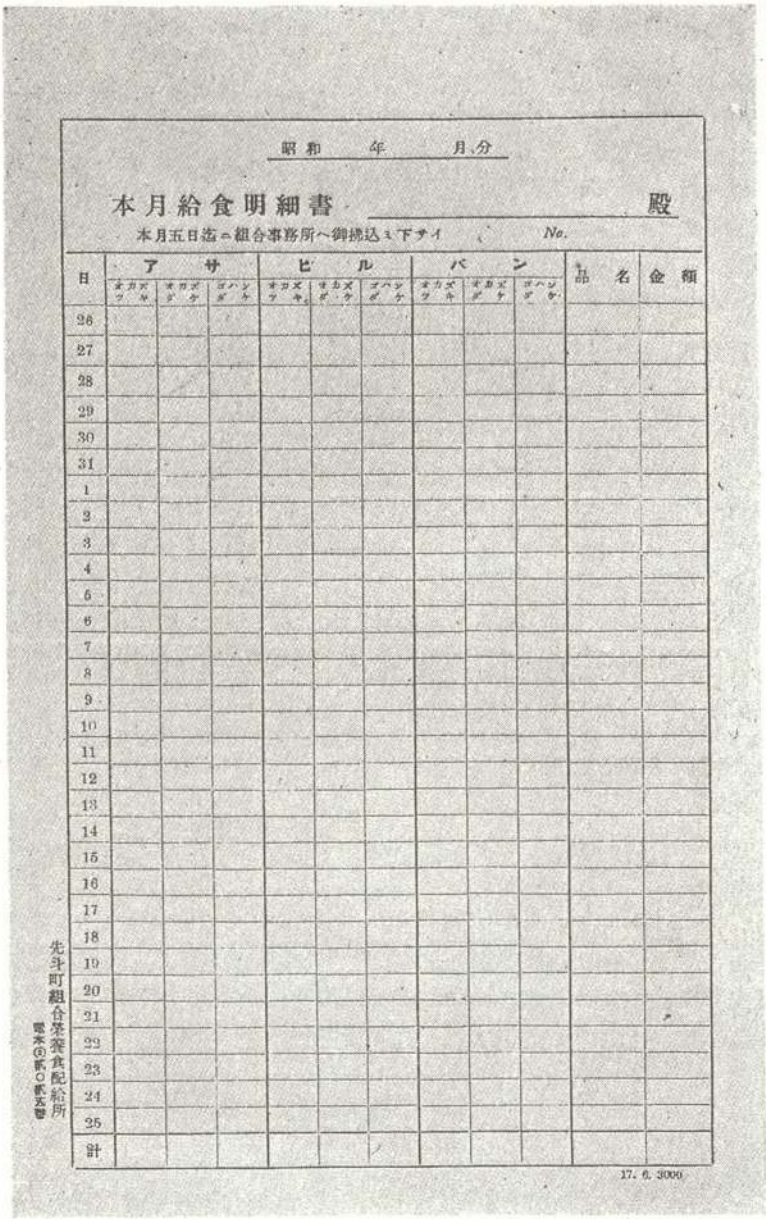
合計　主食　副食

食料の買入は、中央市場から大口配給を受けて居るが、自由買ひの時分に比べ現在の如く配給組織がとゝのつてから、鮮魚・青物・鹽干物などは樂に得られる様になつたが、肉類・乾物などは多少不自由になつたとのことである。先斗町なにがしと名前を冠してゐた頃は、あそこはぜいたくもし金持ちだと云ふので高級品や高價なものを押しつけられてゐたので、現在の如く國民學校名の立誠何々と改稱したさうである。

第 3 圖



第 4 圖



獻立表は以前は10日間の豫定をたてそれを當局に届出、且その報告もなしてゐたが、昨今の如くその日の入荷によつて何が配給されるかわからない狀態では、豫定がたてられるべくもなく、事後の報告だけがなされてゐる。

炊事場で働いてゐる人達は現在15名、そのうち事務が3人、12人が調理、配膳にあたつてゐる。又、このうち1人は諸材料の買出し專門にあたつてをり、又、食物配達には4名が從事してゐる。

調理には普通朝6時半からかゝり、8時から9時頃までに配達を終へ、晝は大體12時に配達を完了、夕方はお座敷の時間の關係から3時半から4時過迄に配達することになつてゐる。尤も定まりの時間より早く欲しいと云ふ向に對しては、直接炊事場にとりに行けば貰へることになつてゐる。

×

さて日々の給食は、その前日に第1圖の如き注文票を各家庭に於て、朝○食、晝○食夕○食、或は御飯だけ○食と云ふ風に記入しておくと、此を事務所から集めに廻る。第1圖の右肩の方に5とあるのはこの家族は5人家族である事を示す。これは給食數が超過しては困るので、一見して解る様に、家族人數が示されてゐる。此を日計表(第2圖)に記入することに依つてその日の給食數が決定される。此表を炊事の方に廻して諸準備をすることになる。處でこの注文票を集めに廻つた時に不在の家庭などがあるが、その場合、第3圖の様な「御願票」を投入しておいて、後刻、速かに通知をして貰ふことになつてゐる。

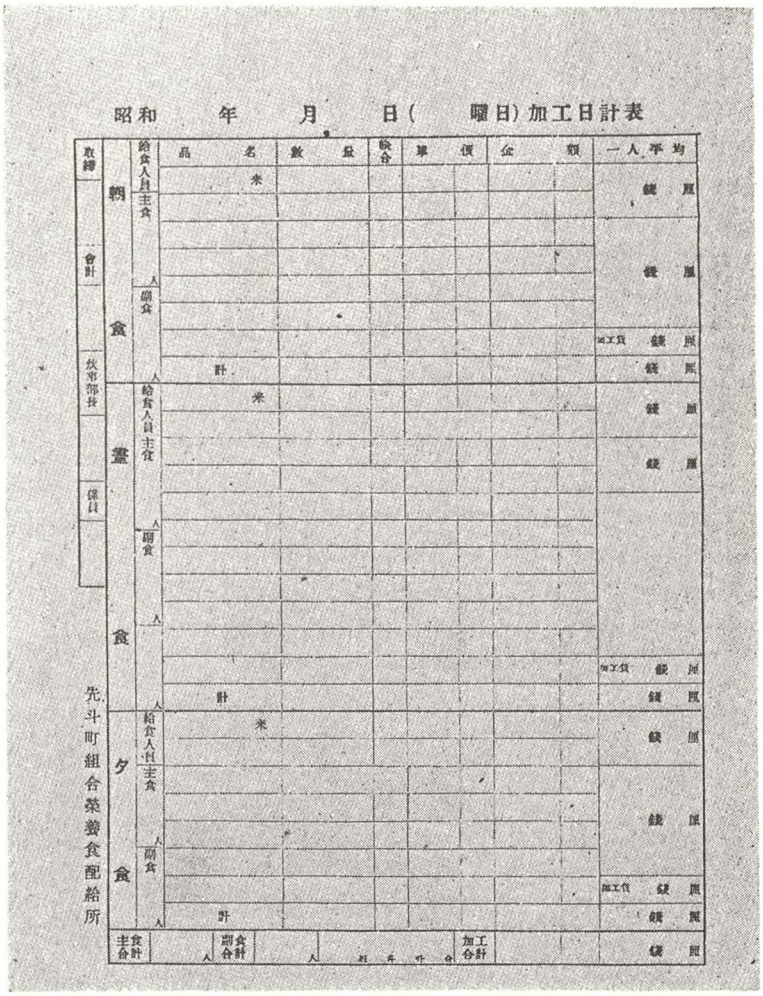
食費納入は毎月25日を以て締切り、第4圖給食明細書に詳細を記入、第5圖納入通知書を配布、所定の日に事務所に出張する銀行員によつて集計される。

第6圖、加工日計表は、事務所に於いて、各食の原價計算をなす表である。米を初めその他の副食物の材料費から燃料其他の加工賃をも算定し1人1食あたりの純費用から組合員全對の1日の食費までが明瞭に知悉し得られるのである。これを以て、營養食配給運營の基礎が成立するのである。此處に於いては前述の如く、1日3食40錢前後で賄はれてゐる模様であつた。

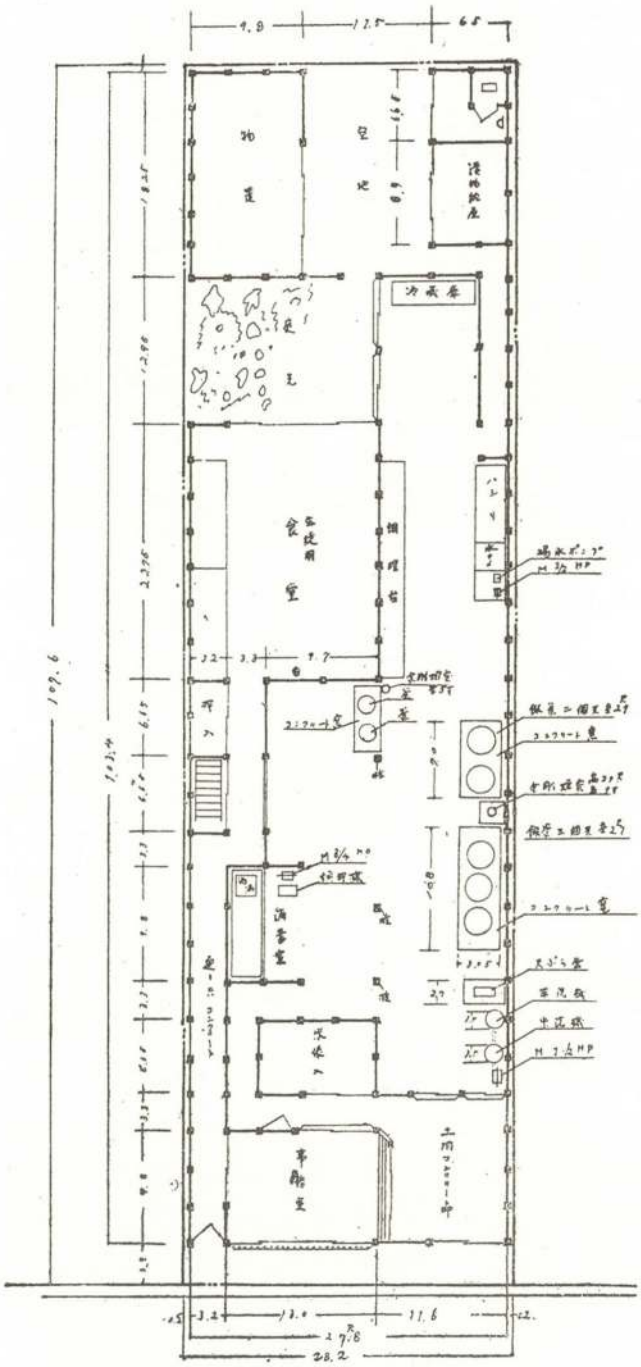
×



第5圖



第6圖



第 7 圖

先斗町組合營養共同炊事場平面圖 (縮尺1:2m)

それでは、次に厨房を見學することにしよう。第7圖の様な平面圖である。新築ならば思ひ通りの設備・道具の配置も出來ようが、此は古家を求めて改造したので止むを得ないことである。京都特有の間口の狭い奥行の深い敷地で、しかも兩側建てつまつてゐるので誠にもつてやりにくい譯である。間口は約4間半、奥行は約16間ある。その道路ぞひに、主入口と生徒用食堂、或ひは後方食料物置に通ずる入口の二つがある。

入口土間は給食の出し入れのため廣い目にとられ、その左手に6帖大の事務室がある。尙、この部分の2階が低くと云つても屋根裏（民家で云ふツシ）に相當する處であるが、こゝを食料貯藏所として利用し、梯子を卸して昇降してゐる。土間の正面にカウンターがあり、そこから給食の出し入れをする。

厨房には蠅の侵入を防ぐ意味から、通路をコの字型にとり、しかも蠅の暗部を嫌ふ習性を利用し壁面を眞黒に塗布してゐる。その上、通路の始と終りには繩ノレンを吊つて身體に附着した蠅を取除く様にされてゐる。

貯米庫はコの字の凹所を利用して作られ且、事務室からよく目の利く處にて搬入しそれを反對側の厨房の中から所要量だけを取出すことになつてゐる。尙、この貯米庫は5石入になつてゐる。

厨房に入れば各種の器具がずらりとならんで壯觀を呈してゐる。最初にあるのは洗米機で2斗の米をモーター仕掛で短時間に樂に洗へる。次は小芋洗機、此又モーター仕掛なり。次は揚げ物用の釜。次の3基の釜は炊飯用のもので2斗釜がかけられる。次の2基はお菜或は汁物用のもので何れもガスを使用してゐる。このうち炊飯は2斗釜で約30～40分を要するとのことである。配給は1人1日2合3勺であるから、1食約8勺となり、1,000食であれば8斗を要することになり、2斗釜が4箇要することになる。

最近、ガスの節約がやかましく云はれてゐるので、薪用の――これとて樂には入手出來ぬが――釜が豫備用として造られてゐる。

奥まつたところに調理臺、流しがあり、それにつゞいて冷藏庫もある。又、圖面にはないが、魚や肉を燒くためのガスの天火の利くレンヂが庭の窓に面しておかれてゐる。

それから元へ戻つて入口近くに食器或は野菜類などを消毒する消毒室がある。尤も、給食用の食器類お櫃(木製、人數によつて大きさがちがふ)にお菜及び汁入れ(アルマイト製)は、各自清洗して戻すことになつてゐるが、なかには無精者の家庭では殘飯のついたまゝ戻す處もたまにはあるらしいが、これなど、物笑ひの種になるのは云までもない。かゝる食器類は消毒室につづいた廊下との界の壁面に棚が作られてゐて、そこへ收納される。

以上で厨房の說明を大體終るが、人手を省く意味から大根などを細く刻むモーター仕掛の截斷機まで用意されてゐた。尙、漬物・乾物などを收納する物置は奥庭に建てられてゐる。

×

通學兒童のために、食堂が特別に設けられ、そこで三度々々あたゝかい食事を得てゐるのも、かゝる組織なればこそ出來ることであつて他に比べて羨しき限りである。

中庭に面した明るい部屋であつて、折柄晝食をする兒童達が

我、今幸に此美うして
うまき朝(晝)食を饗く
謹みて君父の大恩を
感謝し奉る　いたゞきます
(食事)
食終りて心豊かに力身に
みちたり　いでや此心身を
捧げて　大君の御爲に
勤まん　ごちさうさま

と「食事訓」を聲高らかに唱和してゐるのも、ほゝえましい風景であつた。

その日、我々も晝食の饗應にあづかつたのであるが、御飯の分量も普通の食堂の倍位もあり、御馳走も豊富且なかなかの美味であつた。

我々の日々とる食事に比べて營養味も充分、分量も豊富なることは羨しき限りであり、此に依つても、かゝる共同炊事によつてもたらされる利點の絶大なることが充分に認識し得られ、營養食たることは勿論、勞力、時間の節約の意味からも、かゝる施設を汎く普及、この恩惠に出來るだけ多く浴せしめたき念の切なるものがあつた。參考のため獻立表を見てみると

材料名	數量	蛋白質	熱量
	瓦	瓦	カロリー
米飯	100	7.2	350
混合甘藷	40	0.4	48
鯨肉	90	20.3	104
馬鈴薯	70	1.4	55
煮干粉	3	1.7	8
白菜	70	0.5	10
油	5		48
干うどん	60	6.4	198
合計		37.9	821

(18.3.20 晝食)

×

以上甚だ粗略であつたが、此を以つて報告を終ることにするが、快く見學の便宜を與へられ御多用の中を特に時間を割いて懇切に御說明下さつた。組合取締寺井徹郎氏・炊事部の山田榮一氏及びこの見學につき種々あつせん御配慮賜つた京都小崎修氏にも敬意を表して筆を擱く次第である。

(小林　清記す)

逆瀬川爆彈投下に於ける
各種供試體の被害狀況調査報告書

——昭和16年10月——

（昭和18年5月21日・中部軍司令部檢閲濟）

演習本部調査班

野田清三・桐本楠雅・福知秀夫・增井敏克
渡邊金藏・生田鐵也・青木周一・島　亨

報　告　書　目　次

Ⅰ　演習供試各施設の位置並に爆彈落下狀況圖
Ⅱ　防　彈　壁
　1. 構　造
　2. 被害狀況
　3. 結　論
Ⅲ　竹製起爆裝置
Ⅳ　簡易防空壕
　1. 構　造
　2. 被害狀況
　3. 結　論

Ⅰ　演習供試體各施設の位置並に爆彈落下狀況圖　（次頁揷圖參照）

Ⅱ　防　彈　壁

1. 防彈壁構造

イ）No. 1 防彈壁（第1.2.3.4圖參照）（寫眞1.2.3參照）

杉3寸角長さ13尺を高さ7尺に一列に積重ね杉3寸角柱三對を兩側よりあてゝ「ボールト」にて締付け角柱には更に控へ柱として杉3寸丸太を兩側に配せしむ。

柱及控へ柱の根入約3尺5寸、締付は控へ柱上部のものを含み四ケ所とし相對する柱の根元には繋ぎを設く。

ロ）No. 2 防彈壁（第5.6.7.8圖參照）

長さ、高さ何れも7尺厚正1寸板を用ひ之を杉3寸角柱に對して兩側より締付け控へ柱其他はNo. 1 に準ず。

ハ）No. 3 防彈壁（第9.10.11.12圖參照）

長さ、30尺巾1尺5寸、高さ6尺5寸、厚正1寸板にて圍み、杉3寸角柱を約1間まに建て横布丸太を以て上下2段に外部より押へ相對する柱に頭繋ぎを取り、控へ柱は杉3寸丸太を以て兩端一對中央部に二對宛を取設く柱及控へ柱の根入は約2尺とす。

板壁の內部には礫を充塡す（寫眞5.6.7參照）

ニ）No. 4 防彈壁（第13.14.15.16圖參照）

長さ30尺巾2尺、高さ7尺、杉1寸板にて圍み杉3寸角柱を約2尺間に建て、控へ柱は杉丸太を以て柱4本毎に設け、其の他はNo. 3 に準ず板壁の內部には砂礫を充塡す

（寫眞8.9.10參照）

2. 防彈壁被害狀況

イ）No. 1 防彈壁

—南　面—

第1圖に示す如く壁面中央部に左右の斜下方より5ケ所の彈痕を認む何れも深さ2mm內至1cmにて貫通するに至らず中央柱には飛散せる石片の痕と思はるゝもの（長さ4cm）あり。

—北　面—

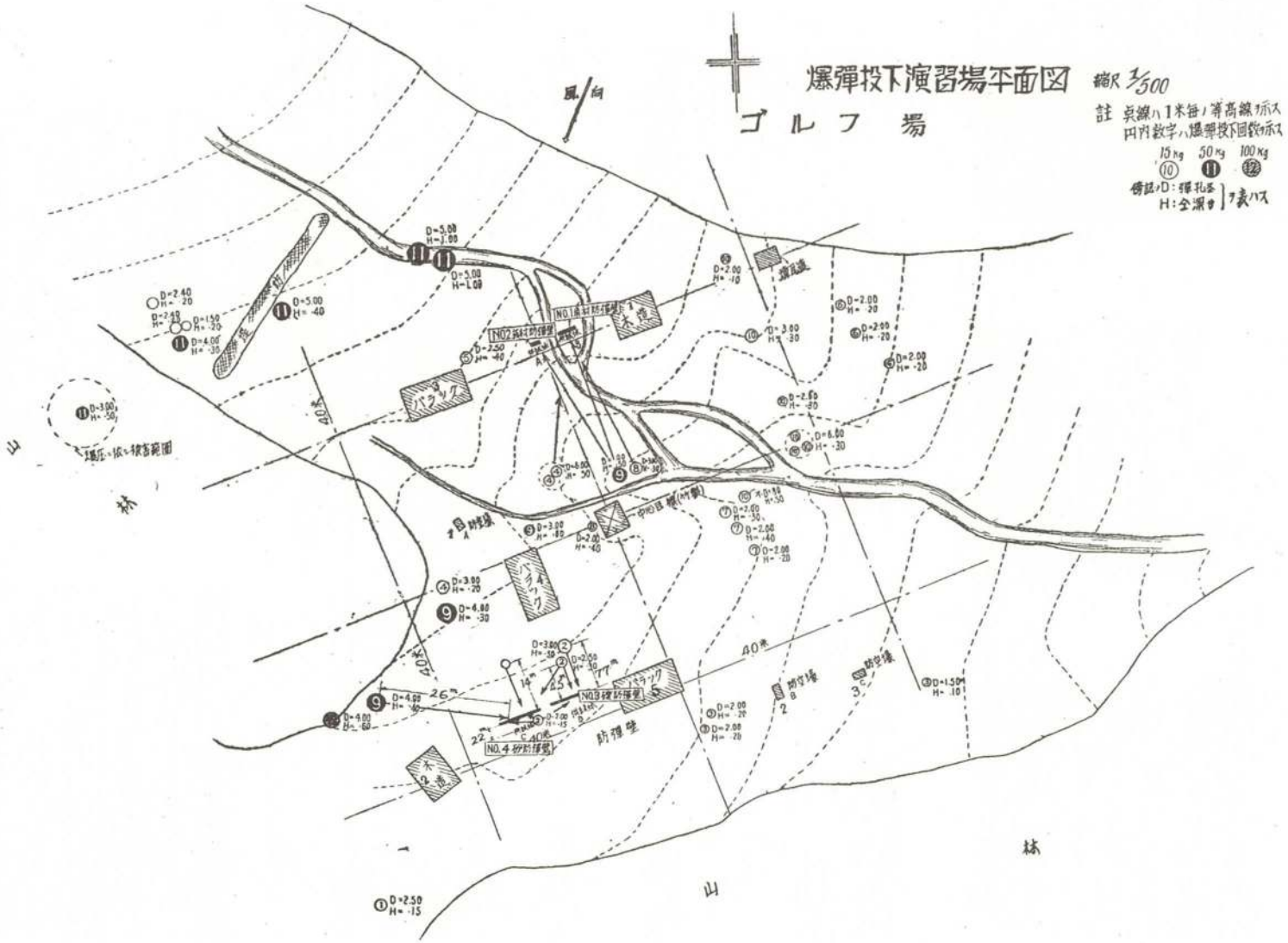
中央柱傍右側上部に小石被片に依る擦傷とも見らるゝ傷痕數ケあり（工事中の傷なるか不明なり）

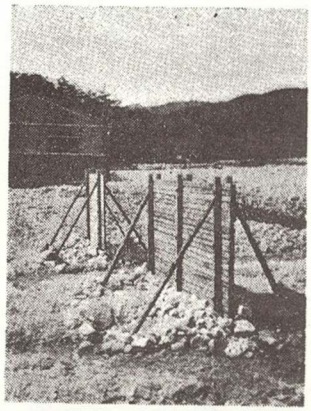
ロ）No. 2 防彈壁

—南　面—

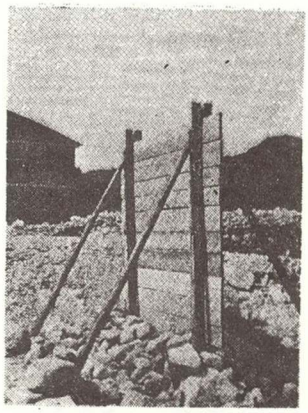
彈片の壁板を貫通せるもの3ケ所、角柱を貫通し壁板中に彈痕を止むるもの1ケ所、壁板に彈痕を殘せるもの2ケ所、計6ケ所の被害を認む中央部に貫通せるもの1ケ及稍その上部に角柱を貫通し壁板中に彈痕を殘せるものを除きて何れも被害は壁板上方部にのみ認めらる。

全體としての傾斜扭れ其の他の被害は認めず。

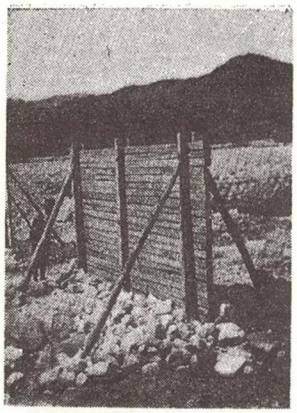

爆弾投下演習場平面図
縮尺 1/500
ゴルフ場
風向
註 点線ハ1本毎ノ等高線ヲ示ス
円内数字ハ爆弾投下回数ヲ示ス
15kg 50kg 100kg
⑩ ⑪ ⑫
傍記ノD：掘孔径
H：全深サ
ヲ表ハス
NO.1 射撃場
NO.2 射撃場
NO.3 射撃場
NO.4 射撃場
バラック
防空壕
防弾壁
爆弾ノ投ト被害範囲
林
山
40米
26米
22米



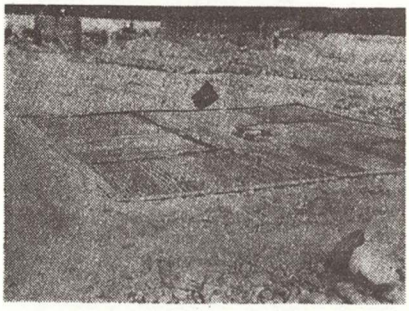
①No. 1右側及び No. 2防彈壁の南面を東方より見る



② No. 2防彈壁　南面

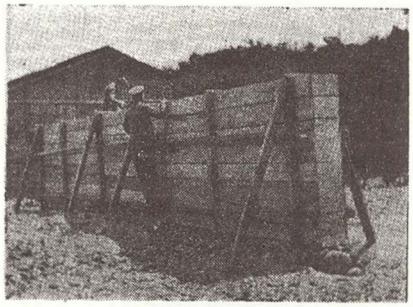


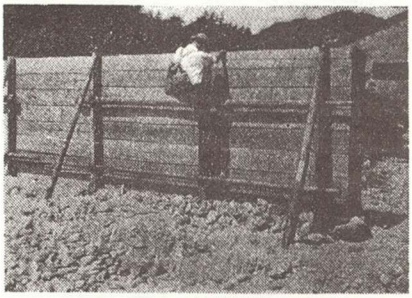
③ No. 1防彈壁　南面



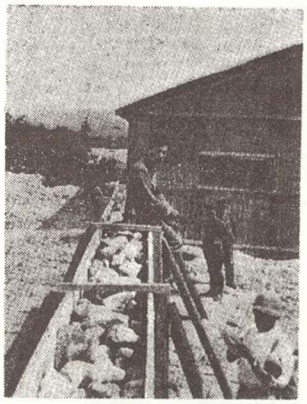
←
④演習場中心目標（竹製）No. 1防彈壁を左上方に望む

⑤ No. 3防彈壁　北面
→

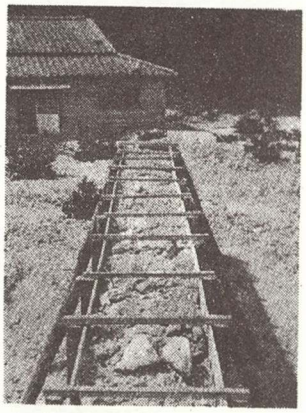




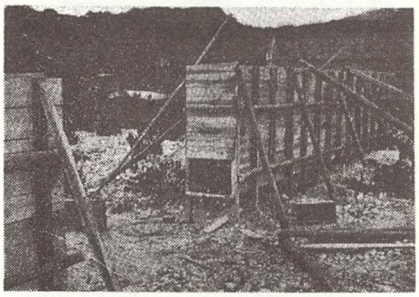
⑥ No. 3防彈壁　南面



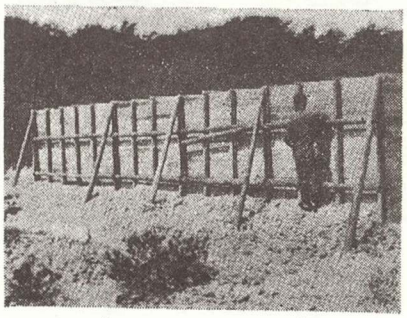
⑦No.3防彈壁內部（西端より見る）



⑨No.4防彈壁內部（東端より見る）



⑩ No. 4防彈壁（工事中の北面）



⑧ No. 4
防彈壁　南面

（第5圖參照）彈痕は何れも大凡徑5分程度にて東南寄りの方向よりのものと思はる。

—北　面—

表南側より貫通せるケ所は一部木纖維の表面稍細長く剝取られたるものあれど大した事もなしこの面に彈片を受けしもの認めらしず（第6圖參照）

ハ）No. 3 防彈壁

—南　面—

No. 4 防彈壁右端に落下せる15kg爆彈の爲に左より2番目の張間の中央部の板面に（距離約7.20m）に搔き破られたる長さ 45cm 位の彈痕ありその他特に記むべき被害なし。（第9圖參照）

—北　面—

中央部より距離4.50m及7.50mに落下せる15kg彈の影響にて北面一體に彈痕を殘し最大にて長約3寸、その數約 120 ケ1寸板を貫通せる比較的大なるもの10數ケ所、その他砂礫の飛散に依る疎傷無數に認む。

又左より第二張間の上段横布丸太は彈片に依り半ば切斷さる（寫眞11參照）（第10圖參照）

ニ）No. 4 防彈壁

—南　面—

東端部に近き三柱間は極く近接せる爆彈の影響を眞正面に受けて被害蓄しく壁板は爆風或は爆片砂礫の飛散に依り破碎或は剝脫し又小彈痕を多數に留む。

第二番目（右より）の控へ柱は中央に彈片を受けて折損す。

板の破損孔狹少なるため內部の土砂の洩出少くこの爆彈に依る裏面への被害を認めず。

中央部は彈片の飛散を右下より左上方に向けて受け、板、柱横布に貫通孔或は表面の疎傷あり。

西端部は殆んど表面の疎傷のみ。（寫眞14.15參照）（第13圖參照）

—北　面—

西端部は西、稍北寄りの方向よりの彈片を右下より左上方に受けて貫通孔（寫眞17參照）或は剝落（寫眞16參照）柱の布丸太表面の搔傷を認む東端部は疎傷を受く（第14圖參照）

3. 結　　論

爆彈の種類爆發の狀態、及び爆發中心の距離の大小等に依り被害狀況も異れど No. 1 の板材防彈壁は容易に彈片之を貫通し No. 2 の角材防彈壁は供試體には幸にして貫通せるものなく No. 1 より抵抗大なるを示すと雖も No. 4 に於て3寸角柱を彈片の貫通せるより見て必ずしも安全ならずと思はる。

No. 3.4 の礫或は砂礫塡充防彈壁は暴露面のみの被害に止りたるも使用爆彈が多少輕度のものなりし點よりみれば本實驗の結果を以てはにわかに斷じ難しとも思はる。

Ⅲ 竹製起爆裝置（第15圖參照）（寫眞4.13參照）

建築物屋上の輕量防彈設備の一案として竹製簾を厚く數重ね竹相互間の摩擦を利用して爆彈の侵徹度を減少し早期に起爆せしめんとする考案の下に試みたるものにて構造詳細は第15圖に示したれど本實驗に於ては僅かの彈片傷の他命中彈なく何等特記すべき結果なし。

Ⅲ 簡易防空壕

半地下式2ケ所、地下式1ケ所の防空壕を設くその內部及外部に夫々種々の動物を配置して爆風その他の生物に及ぼす影響を試驗す。

1. 防空壕の構造

イ）No. 1 及 No. 3 防空壕（第16.17圖參照）

何れも同形の內務省案10人收容の掩蓋式半地下室とす、室內天井及壁面は巾5寸、8分松材を張り2.30m間隔4ケ所にて徑3寸杉丸太の柱及び杉3寸押角梁材にて內側より支持したるものとす。

地上部は厚さ30—60cmの土砂にて覆ひたり。

ロ）No. 2 防空壕（第18・第19圖參照）

關西防空工業所案12人收容ノ地下式防空壕ニテ內法徑1.80m長サ2.40m ノ圓筒形トス、構造詳細ハ圖ノ如シ（規格製品）

2. 防空壕の被害狀況

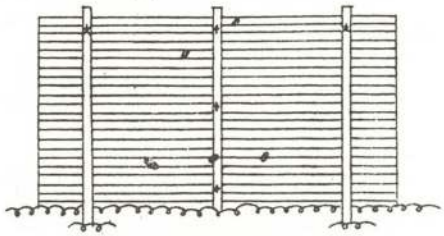
イ）No. 1 防空壕

上流側入口の正面より受けたり爆風壓と相當大なる彈片を認め扉は左上部に彈痕を示し大破飛散す。

入口左側の柱は下より3分の1の點にて折損し

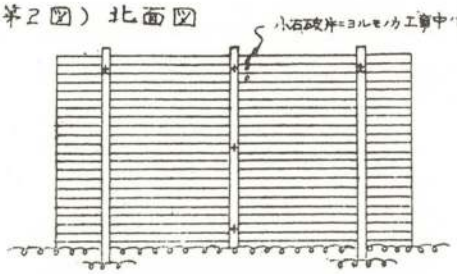
No. 1 防彈壁構造及被害状況

(第1図) 南面図

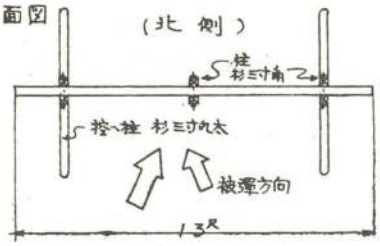


(黒点ハ彈痕ヲ示ス)

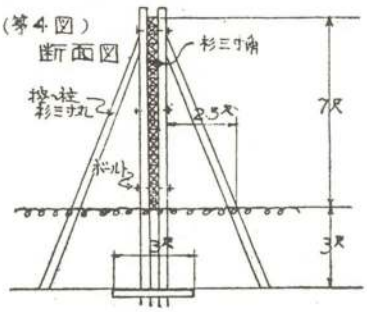
(第2図) 北面図



(第3図)
平面図

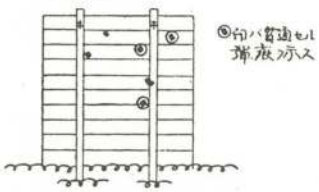


(第4図)
断面図

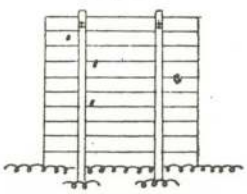


No 2 防彈壁構造及被害状況

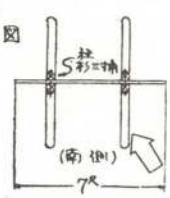
(第5図) 南面図



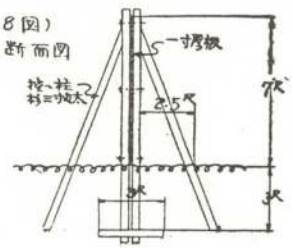
(第6図) 北面図



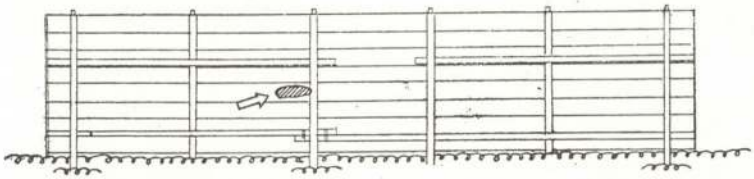
(第7図)
平面図



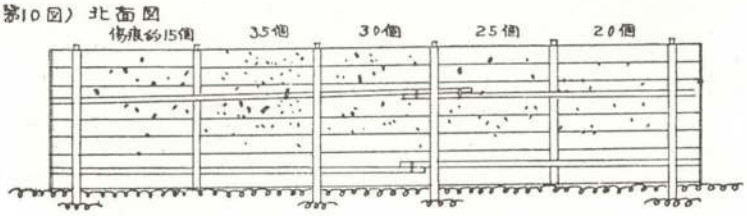
(第8図)
断面図



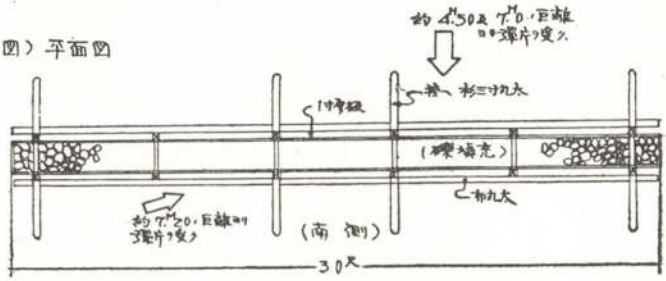
(第9図) 南面図



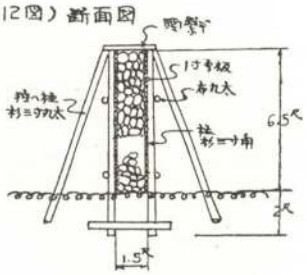
(第10図) 北面図



(第11図) 平面図

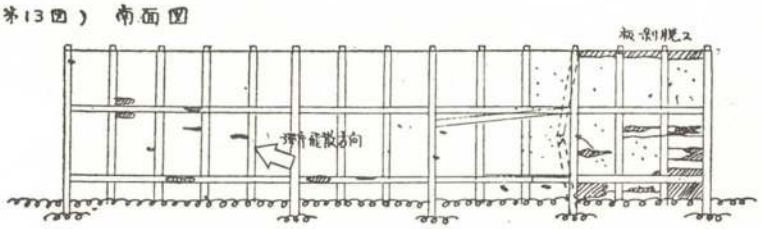


(第12図) 断面図

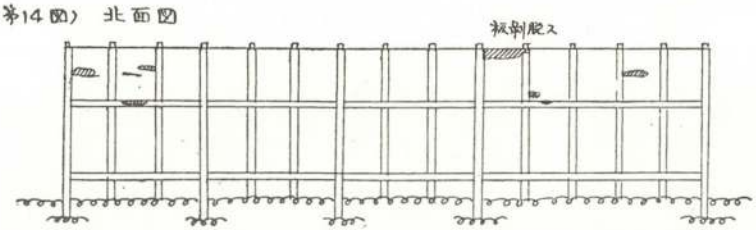


NO.3 防弾壁構造
及被害状況

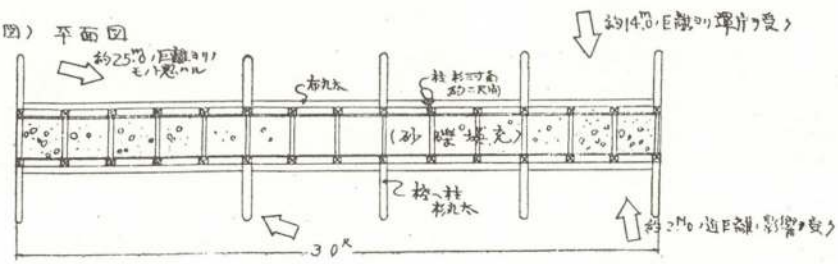
(第13図) 南面図



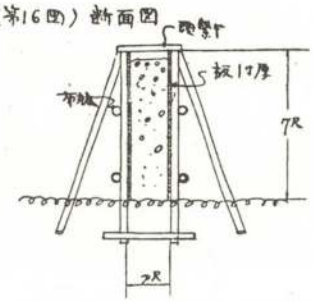
(第14図) 北面図



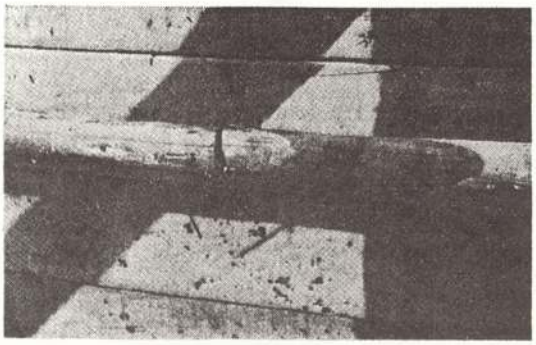
(第15図) 平面図



(第16図) 断面図

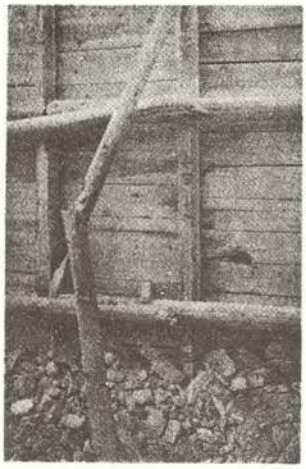


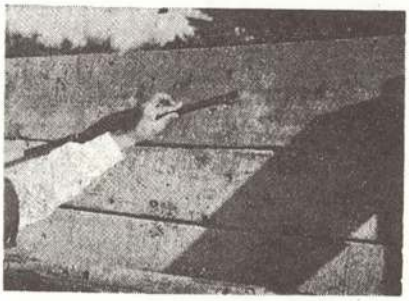
NO.4 防弾壁構造
及被害状況



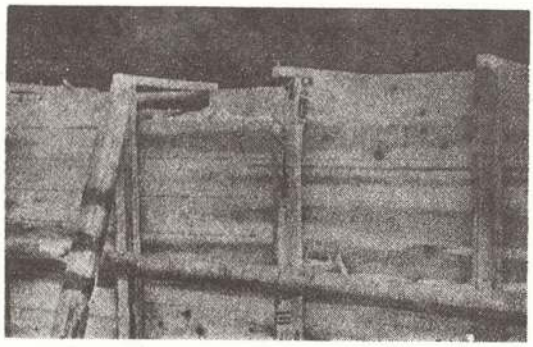
⑪ No. 3 防彈壁　北面
左より第2張間の上段布丸太の被害

⑮ No. 4 防彈壁
控へ柱の折損
⑭の一部を擴
大せしもの→





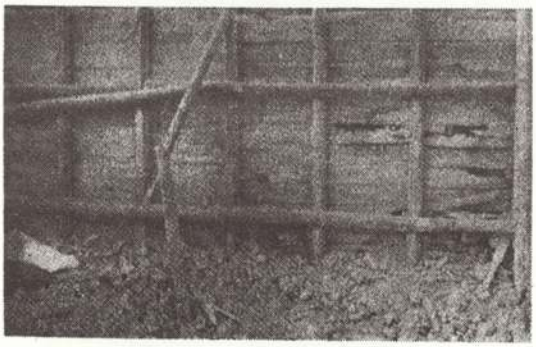
⑫ 不　　明



⑯ No. 4 防彈壁　北面
（左より5番目の張間上部の板剝脫を見る）



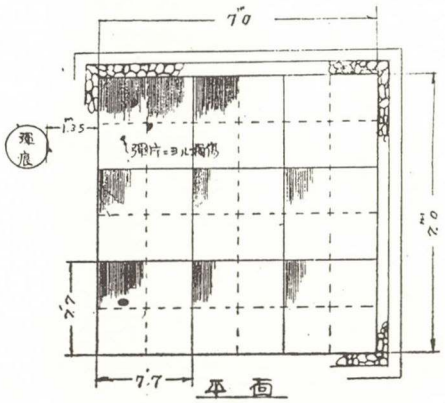
⑬ 中心目表の被害

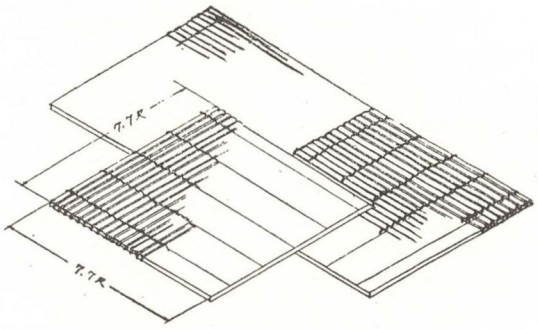


⑭ No. 4 防彈壁　南面　東端下部の被害
（板は大破すれど內容物（相當大なる石塊をも含む土砂）は飛散せず裏面に影響を及さず）



⑰ No. 4 防彈壁
（左より2番目張間上部の彈痕）







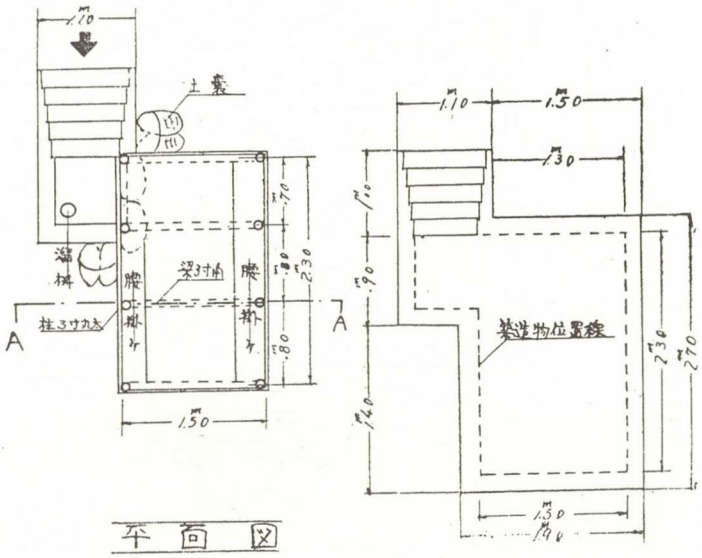
本設備ハ竹ヲ幅約1寸内外ニ割リ籠ノ如クニ編ンダモノヲ
50段約3尺厚ニ積重ネタモノデアル 一枚ノ大サ 7.7×7.7尺 9枚
ヲモッテ1段 7.0×7.0mノ大サトシ
1段毎ニ真綠ニナス如ク重ネ 継目ノ芋ニナルノヲ防イダ
廻リハ爆風ニ依リ吹飛バサレナイ様石ヲ積ンデカコンダ
最モ近クニ落チタ弾(25kg)デ周辺ヨリ1.35m, コノ弾片ニ依リ
3ヶ所 深サ3段迄竹ガ切レテ居タ外損傷ハナカッタ

第16圖 No.1 No.3 簡易防空壕 {巾1.5m 高6.1m 長2.3m / 收容人員10人}

積上げたる石礫の一部崩壊す。
尙壕内の右側奥に繋ぎたる兎は右前肢の骨折と衄血のため不安苦痛を訴へ、鳩は幾分亢奮の狀態を示せり。
扉外の金網籠の猫も不安亢奮のみにて異常を認めず。

ロ) No. 2 防空壕

北側入口の蓋の横に彈片のつきさゝり約1米斜に飛べるを認める他異常なし。
内部の小豚は網を切取りたるのみにて普通狀態なり。
壕の南2米の木蔭に繋げる兎にも異常を認めず。



ハ) No. 3 防空壕

彈痕をも爆風壓を受けたる模様も認めず。
内部に置きたる犬は可成亢奮の狀態を示せり。

2. 結　　論

No. 1 及 No. 2 の同型の防空壕2個を築造せるは内1個は場合によれば直撃彈の被害を受くることあるを豫想し直撃による被害と破片による被害とを比較せんが爲なりしも實際には兩者共輕微なる破片による被害のみより被らざりし爲此の試みは充分達せられず。但し空襲必至の形勢にある今日、出來得る限り無用の人命損傷を避くるため簡易防空壕急設の緊要なる事は軍當局の言によりても明にて、殊に自後使用爆彈の性能も次第に強化

されつゝあることに鑑めば大いに注意を要す。

尙實驗後無統制な觀覽者が實驗調査員より先に現場に達し稍原形を動かせることは實驗上遺憾の點なりき。

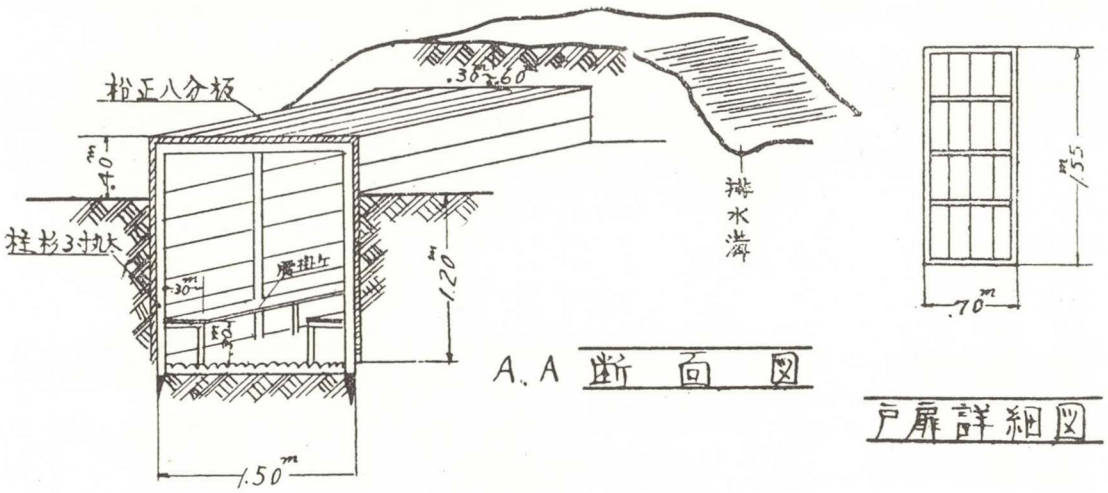
壕內外の動物の狀態に關して林大阪動物園長の診斷の結果によれば

「供試後に於ける動物の狀態は一般に爆撃に起因せる影響と認むべき異常を示さず、强いて求れば猫、犬、兎等に於て幾分不安亢奮せるやの感あるのみにて、赤血球沈下速度は實驗前後を比較して大差なく、白赤球數は犬、豚に於ては非常の增加を示し、豚に於ては約1萬2千個の增加を見る、No. 1 防空壕の兎は第3日目猫は第13日目に斃死したるを以て之を剖驗するに何れも高度の毛閉（25cc）と便秘及肺後葉の出血斑を證明したり。

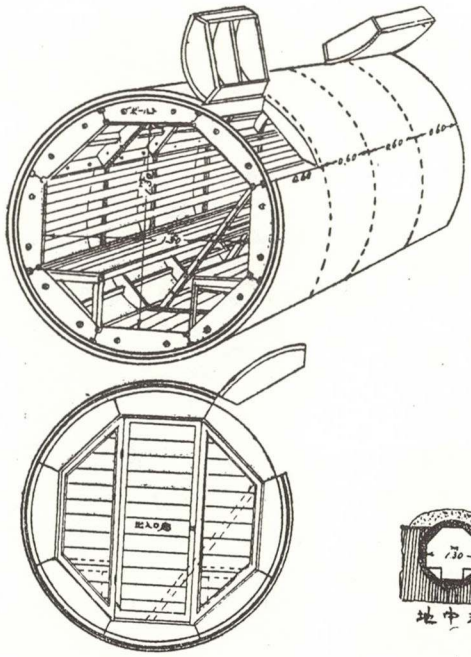
以上三つの變狀が果して爆風壓に因て誘起せらるゝものなりやに就ては尙今後の研究に俟つものとす」

以　上

第17圖　No.1　No.2　簡易防空壕



No. 2 防空壕



（第18圖）

（第19圖）

合力線のトラス解法への應用(2)

寺門四志猪

§2.フインク・トラスの圖式解法

靜止荷重に對するトラス全部材力の圖式解法として所謂クレモナ圖法が最も便利なことは周知の所であり、而も又所謂フインク・トラスにあつてはこの方法のみにて押し進めること不可能な點も構造力學を學ぶ程の者は誰しも知悉してゐる事柄である。

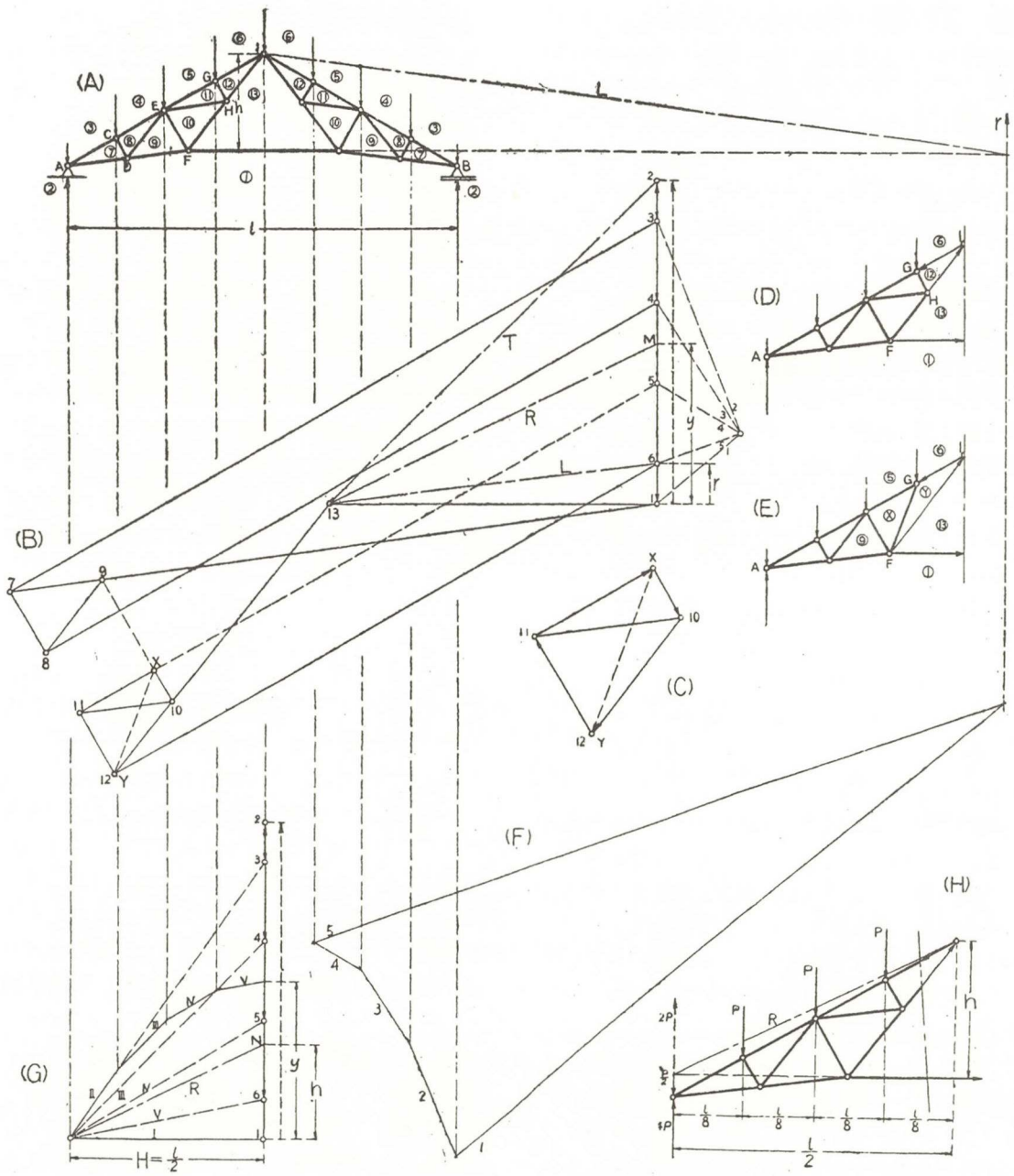
そこで斯かるトラスを解くに當つては途中に他の方法は挿入しなければならぬ譯であるが、その方法としては通例次の如きものが採用されてゐる即ち

1.部材置換法
2.クルマン圖法
3.切斷圖法
4.リツター解法

この內第1の部材置換法は殆んどあらゆる構造力學書に採錄されてゐるので、その詳細を茲に述べる必要はないと思ふが、他法と比較のため大要を示し且つその特質に就いて一言觸れて置くことにしよう。即ち第16圖（A）の如き屋根荷重を受けるフインク・トラスを例にとれば、節點A～C～D迄は同圖（B）の如くクレモナ應力圖を描き得るが、その次に至つて困難に遭遇するので、茲に於て（E）の如くに部材置換を行ふのであるけれども、斯くて得られた新構面AFIは明かに滑節3角形の集合である故に夫れ自身安定であり、從つてトラス全體の釣合には部材の置き換えは何らの影響を及ぼさないことになる。而も節點Hに荷重無きは構面AFHG〔（D）圖參照〕及び新構面AFGに作用する外力相等しく、且つ3部材力も夫々平行してゐるので、その結果構面AFGの釣合より求められる部材力6—Yは原トラスの6—12に、Y—13は12—13に又13—1は13—1に等しいことになる。依つて新トラスに就いてクレモナ圖法を行へば、應力圖は節點E～G～Fの序に描かれ部材力9—X、X—5、X—Y、6—Y、Y—13、13—1が求まるであらう。而してこの中初めの2つは夫々眞部材力9—10及び5—11が部材置換の影響を受けたものであり、X—Yは假想材の應力であるから、之らの點を修正する必要があるがそれには（C）圖の如くX—Yの影響を考へられればよいので、斯くして部材EF、FHEG、EH、GHの眞應力9—10、10—13、5—11、11—10、11—12等を容易に決定し得ることになる。或は部材置換によつて眞部材力6—12、12—13、13—1が知られたならば直ちに原トラスに戻り、節點G～H～Fの順序又はF～E～Gの順序に應力圖を描いて行つても宜い。

以上が部材置換法の原理と方法とであるが、之より判る如くこの解法は前例に就いて言へば原構面AFHGと新構面AFGとに作用する力の狀態が全く同一でなければ行ひ難いのであつて、若し節點Hに荷重が在るとすれば上述の如き部材の置き換えは無意味となるであらう。然らば斯かる荷重を受ける場合は如何にすれば宜いか。部材置換法を紹介する多くの著者はその對策を示して呉れないが、別な著者がこの場合にも用ひ得る解法を教へて呉れてゐる。即ち節點A～C～Dと進んだ後何等かの方法によつて部材力13—1を求め、然る後節點F～E～G～Hの順序に應力圖を描いて行くのであつて、この13—1を決定する何等かの方法と云へば前記第2乃至第4の方法がそれなのである。以下之等に就き簡單な解說を行ふことにしよう。

先づクルマン圖法であるが、之は第16圖Aに示す如き斷面を想定し、之より右の構面即ちD圖に於けるAFHGと同一狀態の構面の釣合を考へる。然る時は（B）（F）に示す示力圖及び連力



（第　16　圖）

圖によつて之に作用する外力の合力rを決定し、又部材力6—12及び12—13の合力を考えれば之らと部材力13—1は1點に交はるべきであるから、之より（A）圖に於けるL線を引くことを得、依つて（B）圖に於て點6を通り之に平行にL線を引き又點1より13—1に平行線を引けば點13が決定せられ、茲に13—1の大さ並びに向きが求まるのである。但し本圖に於ては圖面の都合上（A）と（B）のL線は對稱的に引かれてゐる、即ち（B）に於けるものは構面AFHGを考えた場合であるから注意せられたい。

次の切斷圖法と云ふのは云はば第4のリツター

解法の圖式法であつて、原理は兩者全く同一である。即ちクルマン法と同樣の斷面にてトラスを切り離し構面の釣合を考えるに際して、前法の如く3力の釣合に歸着せしめず多數の力の儘で1點に對するモーメントの代數和が零なるべき釣合條件を利用するのである。本例に於ては構面AFHGを考え、之に作用する外力の節點Iに對するモーメントを部材力13—1とI點との距離にて割る場合を圖示してある。即ち（G）圖の如く作用すればI點の廻りのモーメントは（＋）H・yによつて得られるので部材力13—1は(＋)H×y÷hを計算すれば宜い譯であるが、之を圖式的に行ふには圖の如きR線を引き、示力圖上點Iより距離yなる點を過ぎつて之に平行なる直線（B圖に於けるR線）を引いて、之が點1を通る水平線と交はる點（13）を求めれば線分13—1は部材力13—1を表はすことになる。何となれば（G）に於ける△1MOと（B）に於ける△1－M－13とは相似なるが故に

$$\overline{13-1} : \overline{01} = \overline{1M} : \overline{1N}$$

即ち $\overline{13-1} : H = y : h$

從つて $\overline{13-1} = Hy/h$

となるからである。

終りのリツター解法は云ふ迄も無く上述の切斷法或は構面の釣合による解法の解析的方法であつて（H）圖に示す如く前法と同一の斷面を想定した後I點の廻りのモーメントを計算する。今部材力13－1を右向き即ち引張力と假定しUにて表はせば本例に於ては

$$\Sigma M = +(4P - 0.5P) \times 0.5l - 3P \times 2 \times 0.125l - U \times h = O$$

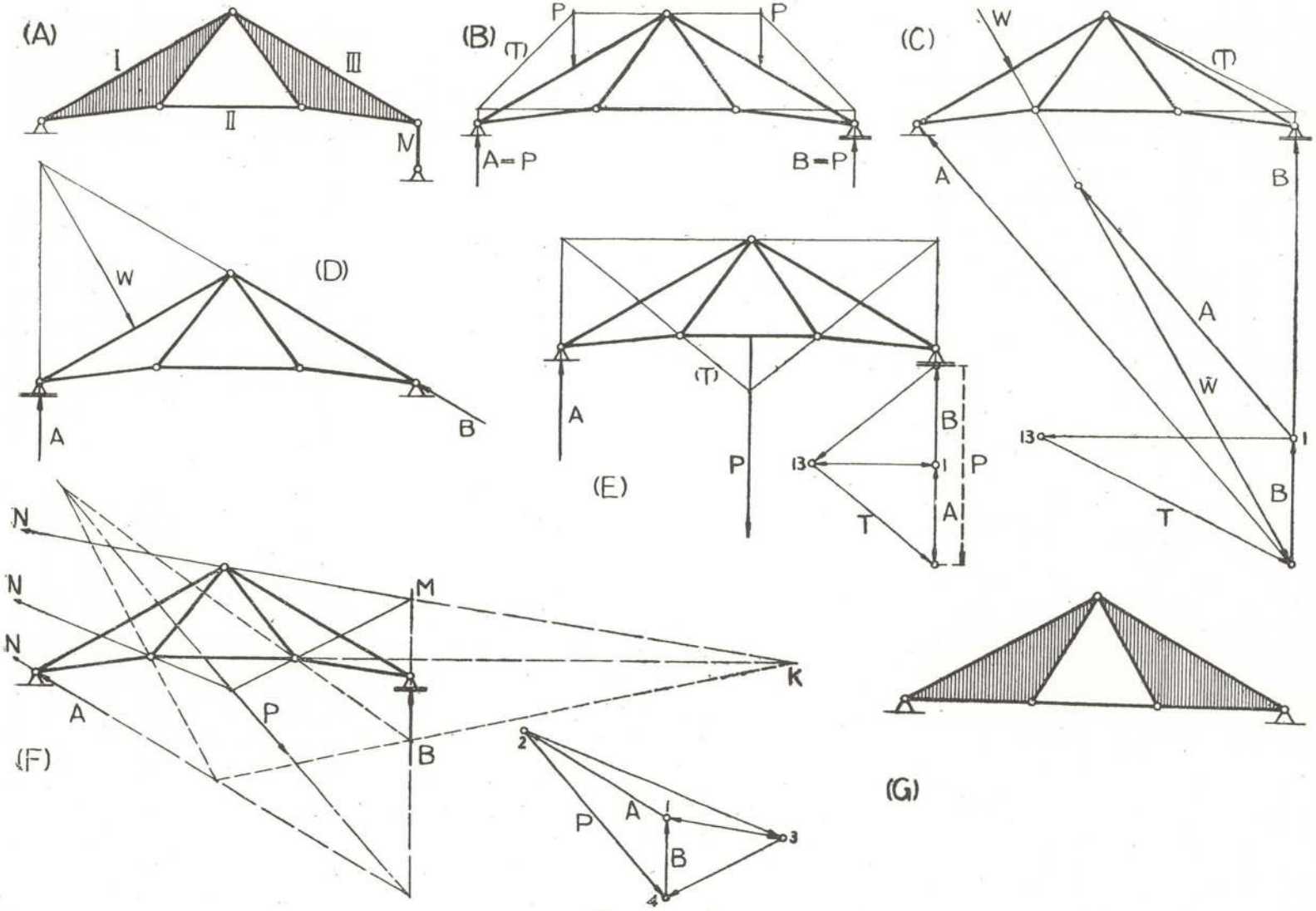
即ち $(4P - 0.5P) \times 0.5l - 1.5P \times 0.5l - U \times h = O$

即ち $2P \times 0.5l - U \times h = O$

故に $U \times h = 2P \times 0.5l$

なる關係式が得られる。從つて之よりUの値を計算すれば宜いのであるが、この式の右邊をよく見ると之はA點に鉛直上向に作用する2Pなる力のI點の廻りのモーメントに外ならないから、この力をI點を通る方向（R線）と部材力13－1の方向とに分解すれば前者のモーメントは明らかに零となるので、結局後者の分力はUと同大異符號のものとなる筈である。依つてこの關係を利用すればリツター解法によるとも計算を行ふことなく圖解的に部材力13－1を決定し得る譯であるから、本法をクレモナ圖法中に挿入しても純圖式解法を妨げる如きことは起らないのである。而して（B）圖に於てこの場合はy＝1M＝2Pとなり、先に引いたR線は（H）に於けるR線と平行しなければならぬ事云ふ點も無いであらう。

さて以上の4方法を檢討してみるに、部材置換法は稍々廻りくどい嫌ひと場合により用ひ得ない缺點があるので、成る可く豫め部材力13－1を決定して行く方法の方が望ましいのであるけれども上述の3方法ではその何れも部材置換法と相似た缺點を有してゐてそれ程便利なものとは云ひ難いのである。即ちクルマン圖法に於ては合力rを決定するのに連力圖を要し而もその始線と終線とが鋭く交はる爲めに作用位置が比較的遠距離になると共に作圖の精度を失する缺點を伴ひ、又この諸難點を切り抜けたとしてもL線が緩勾配となるが故に應力圖に於て13點を決定する際再び圖の精度を共することになるであらう。次の切斷圖法でも亦特殊な示力圖及び連力圖を要するので可なり厄介であつて、この方法により決定せられるM點及びR線は寧ろ終りのリツター解法による方が多少の計算を伴ふとしてもより簡單に從つて又少い誤差を以て決定せられる位である。然し最後の方法を用ひてもR線は圖から明らかな如くL線よりは急勾配であるとは云へ13點を正確に決定し得るために十分な傾斜をしてゐるとは云ひ難い。勿論圖式解法は略算法であるからそれ程迄に圖の精確さを期する要はないであらうけれども、クレモナ圖法に於ては最後に應力圖が殆んど閉ぢて呉れなければ全體に亘つてその誤差を配分しなければならぬ譯で、この手數を避け且つ誤差を可及的小ならしめんがためには製圖技巧の練達を以てすることが重要因子たることは論を俟たないが、然し技術的見地からすれば圖の精度を比較的よく保ち得る作圖法の使用と云ふことも亦缺く可からざる因子であると思はれる。この意味に於て筆者は（B）圖に示すT線使用による方法が望ましいと考えるのであるが、この線こそ前節に述べた合力線に外ならないのであつて、これよりその方法を稍々詳しく紹介しようと思ふ。


(A)
I
II
III
M
(B)
P
P
(T)
A=P
B=P
(C)
W
(T)
A
B
A
W
B
T
(D)
W
A
B
(E)
(T)
A
P
B
P
A
T
N
N
N
M
K
A
P
B
(F)
2
P
A
1
3
B
4
(G)

(第 17 圖)

第17圖（A）は3角形剛體平盤或は剛性構面2及び直線材2より成る滑節骨組であるが、直線材は特殊な構面と考えてよいので、この骨組を通常の直線材のみより成るトラス（線材トラス）に對して「構面トラス」と稱することにする。構面トラスの名稱は從來少數の著書に見え、その安定性の問題なども論ぜられてゐるけれども、茲に云ふ構面トラスは夫等と多少構成方法を異にし從つて又從來餘り考えられなかつた形式のものをも含んでゐるものである。その構成理論や方法の詳細に就ては他日稿を改めて紹介する機もあらうと思ふので今回は省略することにし、その特徴のみを簡單に述べると、第1にこの構面トラスは地盤をも一つの構面（固定構面）とすることであり、從つて原則として支點は常に回轉支承となる譯である。然し移動支承とすることも地盤に連結してゐる2滑節構面（例へば圖に於けるⅣ構面）を單なる支鉾にしてしまへば可能であり、又一旦それを支鉾とすれば更に之を轉子支承その他の移動支承と置き換えても何ら不都合を生じないことは明らかであらう。勿論圖の如きトラスの場合は最初から構面Ⅳなどを考えず（B）の如く轉子支承にして置いても容易に全體を構成し又その安定性を證することも出來るが、原則的には地盤をも構成要素とするために支點は回轉支承にして置く必要があるので、それは靜定構面トラスの成立條件式として

$$2g-3n+3=0 \cdots\cdots\cdots (1)$$

を機構學的に誘導するに際し、gを全滑節數nを地盤を含めた構面數としなければならぬからである。次に第2の特徴として構面トラスの各構面は剛性であれば所謂充腹平盤でも滑節枠組（在來の概念に於けるトラス）でも剛節枠組（ラーメン）でも何でもよく、同時にその形狀も全く任意であつて、2滑節構面必ずして細長い材たる要なく又3滑節構面必ずしも3角形たるを要しないのである。然し充腹平盤より成る構面トラスと云ふものは現在の所未だ理論的存在に過ぎず、斯かるものが實用的價値を有するや否やは今後の研究に俟たねばならないと考えられるので、今日構面トラスが存在意義を有するのはその構面を枠組特に理論的滑節枠組とする時在來の所謂トラス形式の殆んど總べてを構成し得るばかりでなく、實施可能な新形式のトラスを色々作り出すことが出來る點であらう。

さて上述の諸概念から第17圖（A）の骨組をみる時之は明らかに（1）式を滿足するが故に靜定構面トラスであり、次に之のⅠ及びⅢの構面を所謂ハウ・トラスとして且つⅣの構面を轉子支承に置き換えれば第16圖（A）のトラス（構面型線材トラス——筆者假稱）を生ずることが知られる。然し茲に斷つて置かねばならぬのは、（1）式は安定なる爲めの必要條件ではあつても十分條件でないが故に、唯この式を滿足するのみでは該トラスが安定なることを斷定し得ず、眞にその安定不安定を判別するには他の手段を必要とする點である。例へば第17圖Aのトラスは（1）式を滿足し且つ構面ⅠⅡⅢが滑節3角形を作つた後この合成構面とⅣ及び地盤が更に滑節3角形を形成する故に、安定且つ靜定であると判定を下さねばならない。所で斯樣に滑節3角形の集積と考えて行くのならば前記の如き條件式を用ふる迄もなく、在來のトラスの定義を多少擴張するのみで通常の安定條件に依つてやれると思はれるかも知れないが（1）式は構面滑節4邊形を含む場合にも成立するし、又靜定トラス構成用諸公式は之を基として導かれるのでこの式を成立條件として置くのが便利な譯である。斯くて第16圖（A）の如き狀態のフインク・トラスは第17圖（B）に示される構面トラスと一應見做すことが出來よう。而して後者に於ける荷重Pは枠組構面Ⅰ及びⅢに作用する實際の荷重の合力であるが、元來構面トラスにあつては先づ構面を剛體と見做すので荷重の作用點はその位置を撰ばず、又內力としては滑節點に於ける相互作用力を考えるために、荷重は成るべく構面毎に纏めてしまふのが取扱上便利である。然る後滑節點に於ける內力を合力線法によつて見出し現實に於て剛體ならざる構面を形成する部材或は部體の應力を次の別段の問題として決定して行けば宜いことになる。茲に別段と云ふのは、構面トラスとして滑節點に於ける相互作用力が求まればそれで終りであつて、構面內の部材力は構面トラスの內力ではなく、彈性平盤の或は枠組の又は單なる引張材壓縮材の應力だからである。然し實

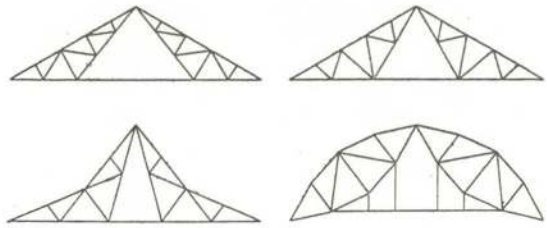
際問題として第16圖（A）のトラスを第17圖（B）の如く考えることは部材力決定上の便宜が豫見せられるからであつて、興味本位に構面トラスと考えてその應力を知るためでないこと勿論である。即ち後者の構面IIは1本の直線材のみより成る故に、IIの兩節點に於ける內力の節點を結ぶ方向の合力と、この構面即ち前者の部材13－1の應力とは同一なる筈で、之による時フインク・トラスの中央下弦材應力を比較的容易に決定することが出來、茲にも亦構面トラスの存在意義があることになる。斯くてここに至り構面IIの兩節點に作用する內力を如何にして決定するかの問題を殘すのみとなつたが、解析的方法は今の場合用は無く唯圖解的方法を考えれば宜いのであるけれども、それには前述の如く合力線を用ふるのが最も適當であると考えられる。それは合力線法が3鉸アーチ等にあつて支點反力や中間鉸に於ける內力を決定する上に便利なことは前節に述べた通りであるがこの構面トラスは3鉸アーチとして取扱ふことが出來るからである。即ち先づ構面I II IIIを含せて一構面と見做せば單純梁となつて（單純梁は構面トランスの最も簡單な形であるが）反力A及びBは容易に決定されること說明する迄もないが、斯く反力が決定すれば次は地盤を取除いて反力を荷重と考え構面IIを固定する、然る時は茲に構面IIの兩節點を支點として對稱荷重を受け而も支點反力の方向既知なる對稱形3鉸アーチが出來ることになる。このアーチの支點反力としてはIIの兩節點に於ける內力を取るべきで、從つて原構面IIに荷重無き時はその節點を結ぶ方向が反力方向となることは容易に理解される所である。而して斯の如き3鉸アーチを考え得るならば、反力の方向既知なる故に荷重の合力は零なるに拘はらず前節に述べた所から（第10圖參照）容易に圖の如くその合力線を引くことが出來るのであらう。この合力線中T線は左支點反力と荷重Aの合力作用線であること云ふ迄もなく、之よりA＝PをT線の方向と水平方向とに分解すればその水平分力は支點反力即ち構面IIの節點力惹いては第16圖（A）のトラス部材13－1の應力に外ならない譯である。勿論この作圖は別に行ふ必要なく、同圖（B）に於て最初に描かれる示力圖12は外力Aの示力圖であるから、その最上點2より圖の如くT線を（T）に平行に引けば他のR線L線に比して可なり急勾配に水平線と交はつて13點が決定されるし、又荷重Pの作用位置も原トラスの節點Eなること明白であるから（T）線も別圖を用ふることなく同圖（A）上に於て簡明にその方向を知り得るので、この方法は從來の慣用法に比して技術的に優秀であると云つても過言ではあるまい。尤もこの法は構面トラスの知識を多少必要とするとは云ふものの、フインク・トラスを解くに要する程度のものは部材置換法の考え方に比較して決してむつかしいとは思へないのである。

以上で屋根荷重を受けるフインク・トラスに於てクレモナ圖法を遂行するための各種圖解法を比較檢討した上構面トラスによる合力線法が最も有利なる點を明かにし得たのであるが、次に同じトラスが風壓荷重を受ける場合を考えるに、從來矢張り部材置換法が最も多く用ひられてゐるけれども、この場合も一度構面トラスを考えて中央下弦材應力を決定する行き方が簡明である樣に思はれる。即ち第16圖のトラスが回轉端側から風壓を受ける場合は第17圖（C）の如く、又移動端側から風壓を受ける時は同（D）の如く考えれば宜いので、然る時前者に於ては構面IIIの釣合から合力線（T）を容易に引くことが出來、之より下圖の如く部材力13－1を決定し得るであらう。而してこの場合明らかに合力線法はクルマン圖法と一致してゐる。又後者に於ては勾配30°なる時反力Bの方向が構面IIIの右邊に一致するため（T）線はBの作用線に重なり、從つて13－1が零となること圖の通りである。この場合13－1が零になるのを豫め知つて置くことはクレモナ應力圖を順次描いて行く上に非常に有利となるもので、之は特に合力線法を用ひない時にも容易に知り得る所であるに拘はらず從來斯かるトラスに對して多く部材置換法が用ひられてゐるのは如何なるわけであらうか。

尙ほ同じトラスが中央下弦材に荷重を受ける場合は同圖（E）（F）に示す如く反力A、Bを見出した後（B）と同樣に構面IIを固定して3鉸アーチと考え合力線を描けば、IIの兩節點に於ける內力は（E）の場合にT（F）の場合に2－3及

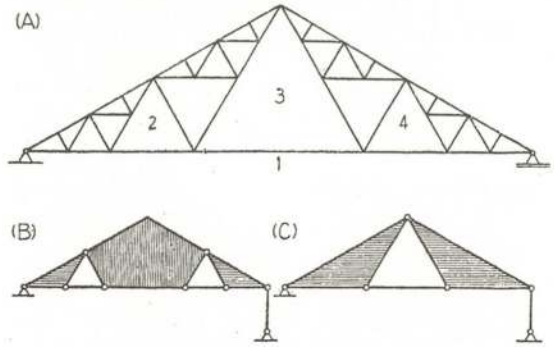
び4－3となり、之らが知られれば構面Ⅰ及びⅢの枠組に對するクレモナ應力圖は之を容易に描き得ることになる。而して部材13－1の應力（軸方向力及び曲げモーメント）は終りに荷重と兩節點內力とから單純梁同樣に決定すれば宜い。この（F）の場合こそ合力線法の有効なる典型的なものと云ふことが出來るであらう。

次にフインク・トラスの支承點が兩方共回轉端なる時は第17圖（G）の如き1次不靜定構面トラスと見做すことが出來るが、この構面トラスの兩反力を何らかの方法によつて見出し得るならば、その後は（A）の如き靜定なる場合と少しも異る所なく解法を行ふことが出來る。



（第 18 圖）

さて上述の考え方によつて純圖解的に全部材力を決定し得られるフインク・トラスは第18圖に示す種類のものであつて、第19圖（A）の如き形式のトラスにあつてはクレモナ圖法を用ひる時二度困難に遭遇するので、合力線法を利用する場合も同圖（B）及び（C）の構面トラスを考えなければならない。後者は前述のものと全く同一で、之によつてこの場合の部材力1－3を決定し得ること先に說明した通りである。そこで次に前者の構面トラスによつて部材力1－2及び1－4を求める方法に就て述べることにする。



（第 19 圖）

先づ第19圖（B）の構面トラスに就て一言すると、之は明らかに前揭の（1）式を滿足し且つ地盤と共に構面滑節3角形の集積であるが故に靜定であつて、之から同圖（A）の線材トラスが生れることは一目瞭然である。尤もこの構面トラスは在來の名稱によればワーレン型であり、圖にハツチングを施した3構面をすべて4邊形にしたものがその標準型であつて、（A）のトラスの構成は矢張り（C）のフインク型構面トラスからなされるのが自然である。然し部材力1－2を豫め求めるに際しては一且（B）のトラスと見做して左端構面の釣合を考える必要があるわけである。而してこのトラスが屋根荷重及び風壓荷重を受けた場合の合力線の描き方其他は第20圖に示す通り極めて容易であるから、以下その要點のみを擧げるにとどめ諒解して貰ふことにしよう。

（A）は對稱な屋根荷重を受ける場合で、この時も荷重は構面毎に合成して置くと都合が宜い。然る時左端構面には平行外力A＝2P及びPが作用してゐるので、之に對する合力線を引くに當つては示力圖を用ひるよりも合力r_1の大さがPとなる性質を利用して外力の合力作用位置を求めて行く方が遙かに簡單であるから、圖にはその方針で合力線を引いた後（T）線によつて反力Aから部材力1－2を決定する方法を示してある。勿論この場合部材力1－4は1－2と同一であるから、半分だけに就て考えれば十分である。

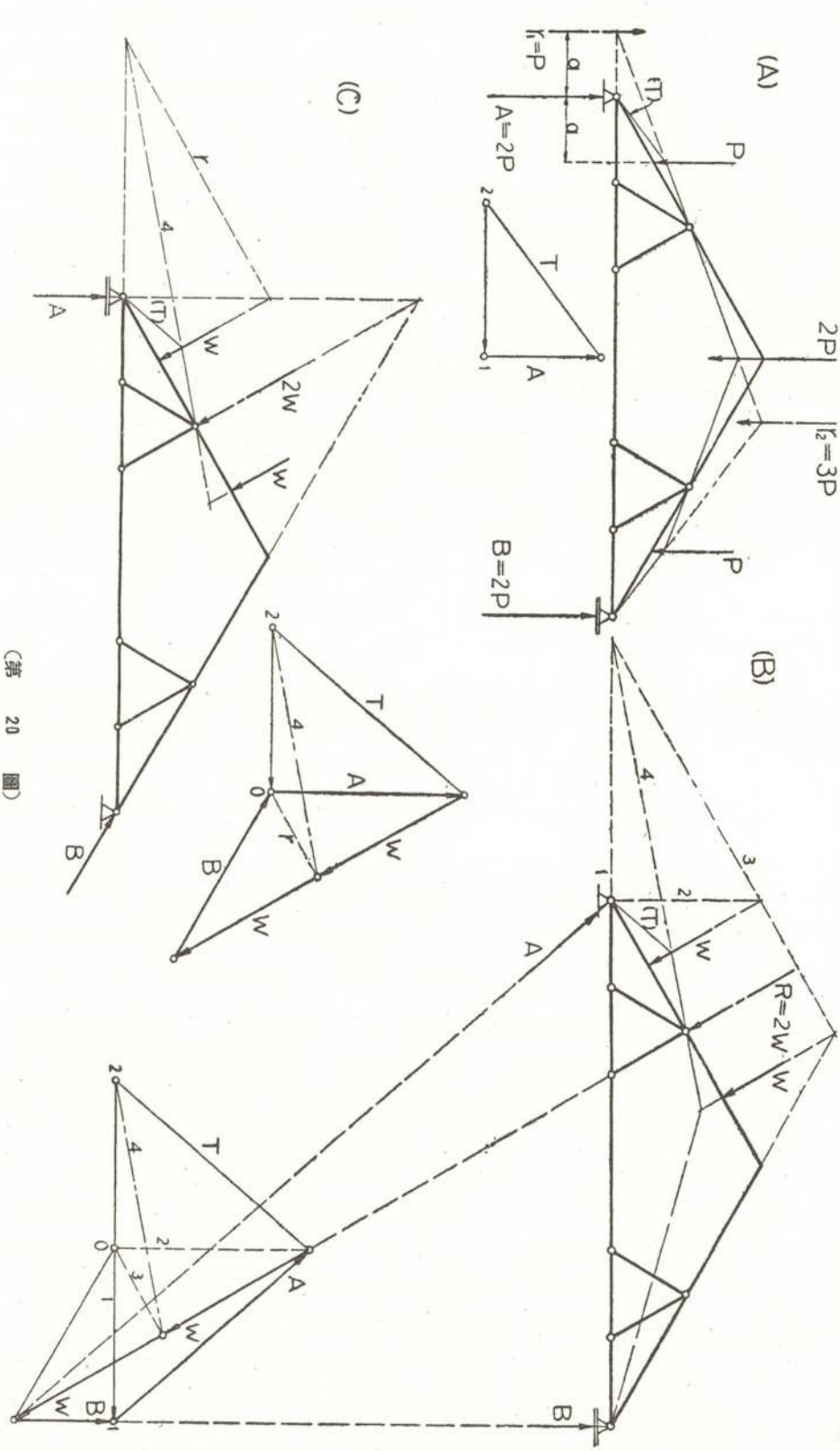
（B）は回轉端側から風壓を受けて居り、この場合は圖の如く右端構面に作用する外力は（A）程簡單でないので、示力圖に於て適當に極を選定して外力Aとの合力作用位置を求め、之より合力線を引いて（T）線を決定しなければならないのである。又右端構面を考えると之に作用する3力はすべて支點を通るので、之より部材力1－4は圖の如く0－1として求めることが、出來るが、この應力は必ずしも豫め決定して置かねばならぬものではない。尙ほこの場合にはトラス全體を通じての合力線を引くこと不可能で、部材力1－2を求める目的からは勿論その必要はないけれども若し引くとすれば中央構面より右方或は左方を一構面と見做してフインク型トラスにしなければならず、圖には前者の場合の合力線を示して置いた

から注意せられ度い。

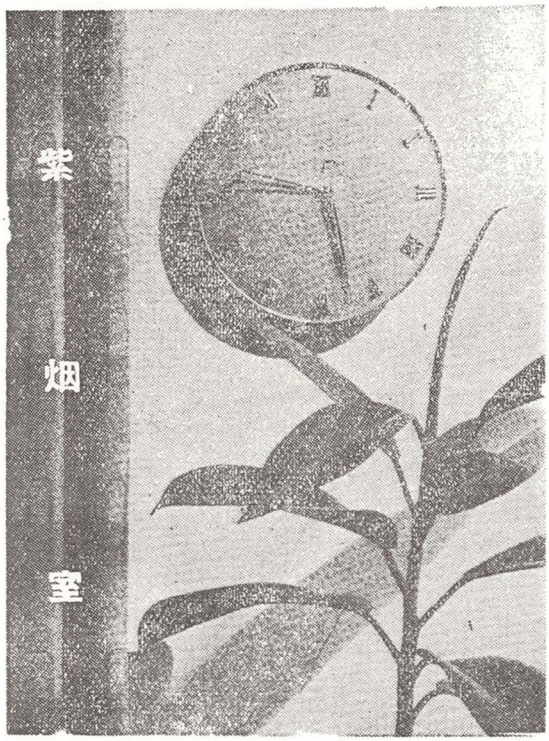
(C)は風壓が移動端側から作用してゐるので左端構面の受ける外力の狀態は簡單であつて、その合力rは容易に作用線が描かれる。從つて之と部材力1−2の作用線とから合力線4を引けばTの方向は直ぐに定まつて、部材力1−2は2−0として求まるのである。又右端構面を考えると勾配30°の時は圖の如く反力Bが右邊に沿ふために部材力1−4は零となる筈であり、それからこの場合も亦第19圖(B)の如きトラスとしての全體に亘る合力線は引くことが出來ないであらう。

終りに蛇足ながら第19圖(A)のトラスが不靜定に支持せられてゐる時は前例と同じく反力さへ何らかの方法によつて求まれば、後は靜定支持の場合と全く同様に合力線法を行つて、クレモナ圖法を遂行し得ることを附け加へて置く。

(筆者は　立命館大學專門部教授)



(第　20　圖)



すてんしよ

辰巳孝雄

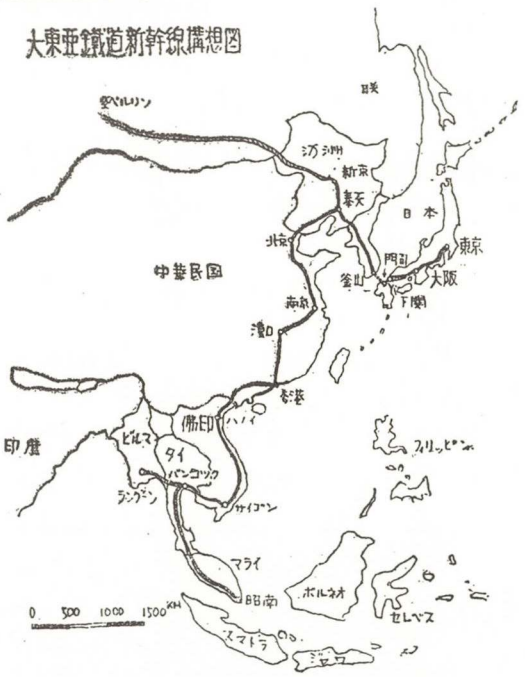
大東亞鐵道と彈丸列車

東京・横濱間に我國最初の鐵道が敷かれたのは明治5年9月、次いで7年5月には大阪・神戸間が開通してから早70年になる。

支那事變5年有半にして昭和16年12月8日突如として勃發した大東亞戰爭は、勇敢なる我皇軍の破竹の進擊について着々その戰果をおさめつゝある事は誠によろこばしい次第である。既に勝利は我にありといへども、尙長期戰を豫期しなければならない事は云ふ迄もなく、大東亞建設への目的達成のため今や國家を擧げて戰つてゐるが、近き將來に於て我大日本帝國を中心として大東亞綜合の共榮圈の確立、又こゝに期して待つべきものがある。

而して今戰爭の眞只中にあつて、政府は萬難を廢して東京・下關間を新幹線とする一大動脈の建設を企圖し、目下着々その調査に乘出して來たのであるが、今後當然大東亞共榮圈を一丸とする一大交通計畫の運營に依つて內地・南方を連繫する彈丸列車の實現も遠い話ではなく、既にこれが第一步として、關門海底隧道の一大偉業を完成し、我國科學技術の凱歌を世界に燦と披瀝したのである。

——躍進は交通から。この基礎確立の爲には東京・下關間の彈丸列車の構想はもとより、關釜海底隧道を經て朝鮮に入り、滿洲支那大陸を經由、佛印・泰からマライに通ずる**大東亞鐵道**の新幹線や、更にシベリヤをぬけて東京・ベルリン間をも結ぶ亞歐鐵道の大動脈をも豫想することは、正に將來に對する現在人に與へられた一大使命とならねばならない。

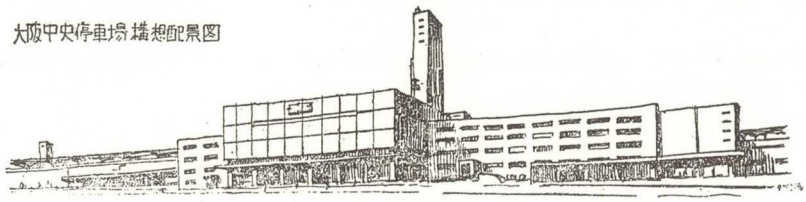


"すてんしよ" から中央停車場へ

鐵道——凡そ「國家の動脈」として70年の歷史ある我國鐵が產業の開發と文化の發展、國防の確立と更に重要物資の輸送に完行して來た事は云ふ迄もないが、明治7年初の大阪驛が梅田の地に設けられたのは曾根崎村の田圃の眞ン中にあつたのである。赤い煉瓦の建物から**陸蒸氣**（ヲカジヨウキ）が發着してゐた頃は、**梅田ステンシヨ**（ステ

ーションの意）も乘降人員僅かであつたとはいへ大したものであつたと云はれてゐる。その後石造に改築され、更に大正二年の大阪驛綜合大改良議案を經て、現在に至つてゐるのである。この様に大阪驛の前身が梅田ステンショである爲か、貨物專用の梅田驛が別に大きく現設されてゐる今日でも尙旅客專用である現大阪驛を**うめだ驛**と呼ばれてゐるのも、當時から使ひなれた愛惜でもあらう。しかるに大阪驛が關西の正門として又都市の大玄關として重要な役割にあるにかゝはらず、未だ工事未了のまゝ放置してあつた事は吾人として誠に口惜しい話であるが、當時の梅田ステンショも重要な大任を帶びて現在の如き驛舍を生み、更に別個に大動脈として吾々が想像する新幹線大東亞鐵道建設に伴つて、この地に**大阪中央停車場**の出現する事も近い將來であらう

大阪中央停車場構想配景図



新幹線大阪中央停車場の構想

直接この計畫に關係もない勿論實際的な資料も有しない私が、單に客觀的に新聞等に依り既知蒐集したものを基礎としてこの〝新幹線大阪中央停車場〟の計畫を試案した事がある。勿論空想的な大規模なものであり獨想的なものであるとしても**大東亞鐵道**が實現するとすれば、この動脈中に我大阪に中央停車場の設置が第一位に擧げられる事は明瞭な事であり、勿論**彈丸列車**の運營が起用される事も確實な問題である。かゝる諸問題の前提から少くとも時速150～200粁の速度を必要とし、その計畫要素も必然と一變して來る事である。

× × ×

中央停車場の設置場所とて現大阪驛より分離、上下交通網を一丸とする**一大綜合驛**を展開する事が最も好條件であると思はれる點から、新聞其他の傳へる如く現東海道本線東淀川驛附近が最も有望な地點であらうと思ふ。

又擴大な用地を利用し都市計畫の整理に依つて驛前路面電車と市設道路の外はすべて綠地を配備して小公園化し、構內乘入自動車の駐車場の設置と歩道と車道の立體計畫に依る交通の圓滑も務めて肝要であらう。

驛の型式は勿論**旅客專用通過式**であり**高架化**とする事は最も合理的である。現在東海道線と立體交叉し東西に延びる線と考へれば、當然驛舍は南面して構成されるべく、又この附近一帶を綜合計畫的に、現在地下鐵線の「梅田」終點を遠く豊中市への延長の途上にある好條件から、これを地上・地下にに相連繫することも極めて有利である。更に京阪・阪急の各電鐵會社の併合に伴ふ**京阪神電鐵**の合流と現在の東淀川驛を包含することに依つて、一大停車場を展開して完全連絡する綜合案も最も有望であらう。驛前交通整理の點から考へても、地下道に依つて附近ビル及地下鐵との連絡を密にし交通繁激を解放する一方、防空的にも効果ある施設とすることも肝要である。又市電軌道の附近乘入も別に現市電堺筋線長柄橋終點を延長して柴島から南方町を經て驛前に出る事に依つて合流容易であり、更に十三方面を經由して梅田附近に回送する事も綜合交通に重要な役割である。

東西高架路線には乘降場上家四本を設け、更に增設し得られる爲には北側に多少の用地の準備をも考慮し、普通列車上下2本、急行列車上下1本更に特別列車上下1本とを求め、中間に專用貨物急行線の餘裕を加へ主として重要物資の輸送迅速なる計畫とすることも必要である。勿論この停車場には貨物は取扱はず別に專用驛を設置することに依つて旅客本位とする機能が發揮し得るのである。彈丸列車運用に伴ふ基準から乘降場は、列車長最大15輛編成とし1輛約25Mとすれば375Mを必要とするを以て、多少餘裕を見て400Mとする必要と巾員15Mとする事も將來計畫として是非肝要であらう。

この高架路線の前面に構築する驛舍は特に大東亞を一丸とする面目から、雄大な構想のもとに**豪華な殿堂**を建設することは勿論であり、從來の型式を極度に改良した平面計畫と動線計畫から着手する必要があらう。

即ち出札から待合へ、待合から改札——乘降場への位置と距離を擴大にして短長であることがその主要素である。又乘車・降車を完全連絡可能的にしてしかもこれを區分し地上へ地下へ流出する樣工夫することも必要であらう。行先の遠距遠から見て出札室・改札口の區分は必要ないとしても一目遼全である構成と流線に依つて輸送完璧が得られ一日何十萬といふ乘降人員も簡單に操作することが出來得るのである。待合室の完備も喫茶・娯樂等を包含した落付のある施設とし、豪華な驛舍の主階には驛務室の外時局にふさはしい**大東亞館**の各室に依つて滿たす事も一案である。

× × ×

大東亞鐵道の實現こそ大東亞共榮圈建設への躍進的生命線であり、共榮圈確立の先進的事業である。我々技術者はこの偉大なる任務完遂のためには、この**大すてんしよ**から——出發する大陸への彈丸列車の如く進擊しやうではないか。

（筆者は　大阪鐵道局・建築士）

續七坪半の建築家

青山正義

本誌3月號の私の雜文「七坪半の建築家」に對して、或る人が「君は七坪半の建築家を辯護しない、と言ひながら、責任を持たねばならぬなどと言ひ譯しつゝやはり一種の辯護をしてゐる。それに君の名文調は、僕達には誤魔化され易くていけない……」と皮肉られた。——忠告に從つて以下は名文調でないつもりである。

「七坪半の建築家」は勤めの晝休みに、お茶を飲みにいくのも面倒なまゝ、計算用紙の裏に何んとなく書き留めて置いたものを、ふと思ひ出して投稿したものである。もとより、此の如し評んで、考へて、忠告してくれる人は「七坪半の建築家」にとつても、望外の幸福であらう。勿論私は住宅問題の何んたるかを理解せず、又理解しようともしてゐない、住宅に付いては語る資格のない人間である。嚴密な意味に於ては、建築家であるかどうかさへ怪しいものだ。たゞ私は時々、住居と云ふものが、人間の形成に與へるであらう影響について、考へさせられる思ひ出がある。

私の少年時代に住んでゐた近くの町に、現在かなり有名になつた炭鑛町があつた。私は叔田の家に行くには、いつでも、その炭鑛の工夫達が、集つて一部落をなしてゐる住宅地を通らねばならなかつた。少年の私には、そこを通ふのが、どうにも恐くて、やりきれなかつたものだ。幅2間程の道路のすぐ側に、10戸建程の長屋が、覆ひかぶさる樣に、幾棟も、幾棟も道を挾んで建ち並んでゐた。それ等の家は、道路が玄關であり臺所であり庭であり、物干場であり、流し場でさへあつた。夏の夕方など、ほとんど半裸になつた女房達が、焜爐を道路に持ちだし、煮焚きしてゐる。一方窓も、障子も開けはなたれた一間きりの家の內では男が褌一つで寢ころび、洟をたらし、垢まみれな子供達が、跣のまゝ他人の家も自分の家も見境ひなしに、戲れ廻つてゐる。私は恐しいと云ふよりむしろ、すさまじい感じすら與へられたものだつた。當時その町は、やうやく炭鑛町として發展しかけた時で、その住宅は新築の筈であつたが、新築と云ふ新鮮な影は、何處にも見あたらなかつた。そして私は自分の住む家の幸福について、小供心にも感謝したのである。

あの家の內で成長した子供達は今一體どうなつてゐる事だろう。

私は先年、久しぶりに國に歸つた時、ふと思ひだして、その部落を尋ねてみた。勿論現在は、町は市となり、まるで樣子も變り、立派な勞務者住宅も多く建築されてゐるし、恐らく、その部落はとうに取りはらはれてゐる事を豫想してゐた。だが驚ひた事に、20年前の幼ひ記憶に殘るその部落では、時代の煤を積み重ねながら、今尙ほ人間の生活が營まれてゐたのである。私は住宅と云ふものゝ久遠性についゝ改めて深く反省させられた。その家の住居者は、次々と變つていつた事だろう。

或る人達は、もつと幸福な家に住むために、移轉したかも知れない。然し、その家の在る限り、

それ等の家に住まねばならぬ居住者は、絶對に無くならないのである。そう云ふ家こそ、居住者の意志に依つて、永久に撤去される事はないであらうから。

是れ等の問題は、勿論住宅からのみ解決されるものではない。然し勞務者住宅の一つの性格がこゝに在る事も、建築家は決して忘れてはならないであらう。今日の課題は、ヨリ一層復雜で、緊急である。が、建築家が一人の惠まれた注文主（多くは居住者）の許可のもとに、驅使した造型藝術觀や、個人生活への合目的觀の對稱として、勞務者住宅を把握してはならないと思ふ。

再び「建築家のマスターベイションは、畫家や作家の如く個人の不幸のみに終らない」と云ふ古い言葉を新しい意味に於て思ひ返へしたい。

これは決して他人への提唱でなく、私自身への反省である。

（筆者は　住宅營團大阪支所建設部勤務）

ローマの回想

津田　鑿

たしか一昨年の婦人公論三月號に「ローマの回想」と題として帝大教授阿部次郎氏、早春記を讀んで藝術の古都ローマを私は幸ひ再度訪問はしたが、伊國語の素養がないかなしさ乍殘念自らの宿泊するホテルローヤルを伊太利讀みのアルベルゴ・ロイヤルと發音すべきを知るよしもなく、言語の不通に苦しんだ、にがい經驗が未だどうしても今尙忘れることの出來ない彼地での深い印象を新にする機會を與へられたことが、何んとなく懷かしく當時を回想して茲に駄文を草することにした。

ローマの印象始めは1920年、次は1930年、前回は第一次歐洲大戰後二年で、物資は世界的に不足の折柄マルセーユに上陸してローマに向ふ列車の食堂では、コーヒに入れる砂糖は各自一人分として、丁度散藥一回分に殆んど均しい僅かの量を小袋に入れてそれを客に渡す。それで辛抱するよりしかたのない有樣故、他のものはをして知るべきである。

ローマに到着して第一の印象は、市街の不潔と人氣も何んとなく惡るそうで暗い氣持のする實にいやな都と思はれた。おまけに自分の不注意ではあつたが、ホテルのカウンターで部屋の取極めの相談中確かに臺の上に置いて階上の室を見てから降りて來る僅かの間に寫眞機が紛失してゐる。ボオイ君はタクシイのなかに忘れたのではないかそれなれば早速警察に屆けたらと親切に言ふては呉れるが、どう考へてもそんな筈がなく、餘りしやくにさわつたので其儘にした。到着早々切角あこがれの都がなんとなく面白くないので、せめては明日の行動でも樂しみにと寢に就いて見たが、餘りによい夢が結ばれる筈はなかつた。

翌朝寫眞材料店で小型の新らしい器械を買ひ求め、一通りの見學をなしつゝ其の都度撮影したヒルムの現像燒付を材料店に依賴、印稅と仕上代金手數料とを添へ、出來次第早速次の宿なる、ロンドンに送るやう依賴して出發した。

偖ロンドンで約一ケ月滯在中、首を長くして待てども何の音信もない。どうした行違ひか、結局不落手とは實にあきれたもの。あまりよい氣持のものではない。滯在中夜店をひやかしてゐると、誰どれの雲突く計りの大男がいきなり、ベランメイ、調口宜敷自分としては最も大切な頭をいやといふ程つかんで二三度ふり廻されたので、これには全く驚いた。しばらくは氣が遠くなつた位であつた。

名所舊蹟の案內人は無暗に心付をねだる。いやはや實に御話にならぬ。此れは世界的に集まり來る觀光客が斯くせしめた罪も若干はあるらしいと心ひそかに痛感した。然し自分の專門の研究方面には歷史的にも、藝術的にも參考物は豊富一寸他の國にては得難い多くのものが到る所にあるのは羨ましく、差引先づ損はなかつたとあきらめられた次第であつた。

ローマは噴水の都と一とロにいはれる程あつて先づその玄關の第一の印象として恐らく旅人に忘れることの出來ないものは、停車場前の廣場にあ

る豪華な噴水塔であらう。水煙勢よくほとばしり飛沫は夕陽に映じ、その美くしい有様は藝術寫眞として異國情緒豊かである。不幸にして私は二度とも此の美觀を撮影する機會を逸したのは返すがへすも殘念千萬、いつも後悔の種である。

伊太利の料理は材料も我國に似てをり、調理の方法もすべてよく煮込んであるやら、舌ざわりとろりとして佛蘭西とは又別の珍味である。當時物資不足の折柄代價は相當高價であつたが、流石に一流の店はマルセーユからの列車の食堂とは異なり、品數の多いには閉口する程で、今日なれば到底あれ丈のものを口にすることは至難であらう。例の古代競技場跡を見學中案內人N君につかまつた、彼は軍人あがりで若い時分數年間在米したそうな、其れで英語を解すると先生頗る御自慢である。よく行屆いた案內はしたが、料金は相當のものであつた。

當時は未だ日本人でガイド專門の人は居らなかつた。二度目には二三の人があつて大助かりはするが、此れも一得一失。K氏の如きは我々を可なり喰ひ物として生活するので、時々そのすじから油をしぼられた位高い料金をむさぼり、且つ面白からざる行爲があつたらしく、彼にも相當引掛つた連中があらう。今はどうして暮して居るか。

ローマで私の赤毛布是れは可なり入念のものである。宿泊したのが二流のホテルではあつたが浴室の床の隅には普通大低排水口がある筈のもの。それがないので大失敗をした。是れは一昨年一月のラヂオ放送で、ヨーヨー先生とオト君が京都の都ホテルの浴室での失敗と殆んど同一浴槽からあふれる水が廊下に流れ出し、他の室へ室へと順々に遠慮なく流れ込む仕末。あせればあせる程水栓の故障で水が止まらなぬ。事務室に急を報ずると時々こんな騒ぎがあるらしく、ボオイと女中の總出で數十枚の毛布を惜しげもなく手ばやに水面めがけて投げ付けそれにひたして吸取る作戰とは驚いた。やゝ暫くするとどうやら納りはついたが、偖此の騒動にどれ位の心附を拂ふが、合理的なものかと心配した。若し又損害賠償として請求書でも突き付けられては事茲だ面倒と內心大いにびくびくものであつたが、案外おだやかであつたので却つて薄氣味惡るく懐の許す限りの大奮發をせざるを得ないことになり、多少青くなつたがまあ致し方のないことである。尙且つ帳簿に建築士と署名してある。日本人として如何にも不體裁極まる事件で、外出する際是非通行せねばならぬ帳場の前、此の關門で世話になつた人々と顔を合すのは聊か恥かしく全く閉口。そこでなるべく横側の出入口を見付け、そこから出入したのは苦しまぎれの一策であつたのも、又當時を回想すれば微苦笑を禁じ得ないのである。

次回は同行二人。今度は若干勝手を知つたか振りでホテルローヤルに投宿した。10年前とは丸で街の機子も變化して、辟どれや乞食は市中では一寸見當らぬ。道路も清潔になり人氣もよく、凡てに秩序の回復めざましく、此れは例の黒シヤツの出現した御蔭であるそうな。今回は幸ひに紛失物もなく居心地は上々。且つ宿の格式の關係もあらうが、頗る萬事が好調子。面白いのは此のホテルの若いボオイ君の一人に終日何時出遇ふても「お早ようございます。おやすみなさい」と御世辭たつぷり仲々の愛嬌者である。

大使館のO氏から一夕晩餐の御招きにあづかつたので、恐縮しながら往きは同氏と同行した。御宅迄はホテルから殆んど一直線らしく、歸りは目印としてミケランゼロの作つた有名な門をくぐり僅かその先を廻ればよいと敎へられた。

御馳走は純粋の日本食、しかも江戸前の料理の數々。あさりの吸物、あげ、饅頭、なんて頗る洒落たもの計り。ローマでこんな御馳走を頂かうとは豫期せぬためびつくりあごをはずした次第。あとで御尋したら、日本料理專門の方が腕を振るはれたとのこと。なる程と點頭かれた。

十一時近く迄御邪魔して御主人が例の門が見ゆる場所迄見送つてくださつたので、厚く御禮を述べて歸途に就いた。時は三月早春である。夜はふけて若干そこらには露がかかつてゐる。附近を見廻すともうなくてはならぬ筈の例の高さ40尺位もある門が一向見當らぬ。道は一直線且つ巾も相當廣く見通しもきく筈であるのに、どう間違へたものか歩けども進めども行けば行くほど他の方向にさまよつてゐるらしい。電車の監督らしい人、或は道行く人々に誰れ彼の用捨なくホテルローヤル何れにありやと英語で尋ぬれど、馬の耳に念佛、

一向要領を得ない。右に左にさまよひタクシイの運轉手に話掛けて見ても更に通じない。時は刻一刻と過ぎ、夜は深々と更け渡り、寒さは次第に加はり全く閉口。御巡りさんにも相手にされず、這々の態であたりを見廻すと折よく一人の紳士にぶつかつたので、すかさず例の通り泣くが如く訴るが如く尋ねると、漸く了解したらしく破顔一笑ホテルローヤルは四五軒先の右側であると教へられた時は實に嬉しかつた。尙笑ひながらかんばんに書かれてあるホテルローヤルを尋ねる場合、アルベルゴ・ロイヤルの方が土地の人にはよく通ずるとのこと。地獄で佛に出遇ふたような氣持でやれやれと宿に飛込むと、例のボオイ君にこにこしながら待つて居りましたと計り「お早ようございます。おやすみなさい」には一寸あてられた氣味。早速チツプをつかませることになつた。

ローマから先年東京市に贈られたローマ開祖牝狼とロシユラスルレマスの塑像は現在日比谷公園花壇の平坦なる一部に据付けられてあるが、其の位置は古都ローマの面影を偲ぶには何んとなくあすこでは周圍の風物と尠しく不調和の樣である。彼地であの狼は博物館と、又別に丁度愛宕山位の高さの丘の上にある博物館に行く、坂の途中に飾られてあるので日比谷公園に其の適當の位置を物色すれば、即ち同園の東北隅の出入口に近い池を前にした石垣の上が最も好適地でないかといつも自分丈けの考へ、あすこに移せばいくらか同地であの塑像のある附近にほうふつ彼の地の情緒を一層深く味ひ得ると回想したのである。尙例の伊太利特有の傘をひろげた樣な松一二本あしらひたいものである。

人民廣場の前にいつも數臺客待ちの馬車がある大きな蝙蝠傘をひろげ、俗にぶしよう傘といはれる日除け兼雨除けの客のある迄呑氣に傘の下で馭者同志浮世話しに花をさかせ、無中になつて居るのも又懐かしいひとつの風景である。更に又面白いものに、葡萄酒を運搬する極彩色の幌馬車がある。馬のたてがみ其他に色とりどりの飾りゆかしく、早朝村から街に出で歸りの空車の馭者は大低ねむりをしながら黒の山高帽子をあみだにかぶり、馬車にゆられてよい夢心地らしく、又其の馬も日々のことではあらうが、村に歸る道をかんしんに間違へずにことことと道を行く風情は甚だ長閑である。

數多き廢墟の跡を見學せし回顧も懐かしく、アツピヤ舊道坦々として果しもなく遠くつづきクオウバジース寺路傍靜かに建ち、その昔聖徒の殘せし貴き足跡を偲び、ピーター寺院の床に敷込まれたる大理石の修繕にいつも忙がしく立働く石屋、如何に世界から集まり來る御上りさんの多數が、かくもすりへらすかに驚歎する。イタリヤン・スカイ、實に清朗澄み渡る蒼空の色は誠に美しく何處に行くも好天氣の際は直ちに同地を思ひ浮べるは誰れしも同感であらう。

カラカラ帝浴場の庭に敷詰められた色とりどりの大理石、モザイクの一片、三分角位のものを土産の印材にと掘り起し、看守にしかられたのも既に十餘年前の昔となつた。

パンテオンの屋根裏で古物を內職に商ふ老翁からイミテーションとは知りつゝもつかまされた古色蒼然らしき太古用ひたらしい素燒の油差しのいとも麗はしき艶をながめながら擱筆する。

（筆者は　津田鑒建築設計監督事務所長）

會報

常務會（第7回）

時　4月5日午後5時15分—6時50分
所　集會室
出席者　理事　竹腰副會長
監事　池用監事
常務　佐藤主記
中西主記
小林主計
松久保主計
大下編輯
小林編輯

議事

1.四月例會に關する件
2.法規刊行幹事會幹事委囑の件
3.會勢幹事會幹事委囑の件
4.諸會合に關する件
5.市民防衛展覽會に資料貸與の件
6.請負規程再檢討委員選出の件
7.會員詮衡

報告

1.十七年度會計檢査終了報告
2.出征入營除隊報告

常務會（第8回）

時　4月19日午後5時20分—6時20分
所　集會室
出席者　理事　松本副會長
常務　佐藤主記
中西主記
叢中主記
西澤主計
大下編輯
小林編輯

議事

1.事務員辭職願出並に採用の件
2.會員詮衡

報告

1.三月分會計報告
2.出征入營報告

陳列場講演座談會（第2回）

時　4月1日午後2時—4時30分
所　集會室
出席者　講師　井上內務省建築課長
玉置愛知縣建築課長
堀井大阪府建築課長
松井京都府建築課長
山內兵庫縣建築課長
出席者　關城化學外9社
幹事　松久保幹事長外7名

1.井上課長は戰時下空襲は必然的なりとの前提の下に防火改修、僞裝防彈方法、空地等に關し講演あり次で玉置課長より名古屋市附近の建築と建築材料に就いて講演後質疑に入り各府縣課長より夫れ夫れ關係事項につき應答各自懇談の後解散す。

材料委員會（第4回）

時　4月1日午後5時50分—8時
所　集會室
出席者　幹事　後川、道田
委員　畔上、榊、竹內
前野、白石、橋本

協議事項

1.木材寸法規格原案再審議の件

材料委員會（第5回）

時　4月15日午後5時—8時
所　集會室
出席者　委員長　楠瀨
幹事　後川、道田
委員　竹內、竹中

協議事項

1.木材寸法規格案成案決定の件

木材統制に關する小委員會（第3回）

時　3月29日午後5時30分—7時
所　集會室
出席者　小委員　松本委員會
松久保幹事
青山、山本各委員

協議事項

1.各委員よりの提出案につき檢討の上建議文案を作成の上次回小委員會に附議決定すること

木材統制に關する小委員會（第4回）

時　4月27日午後1時—3時
所　集會室
出席者　小委員　松本委員長
青山、烏野、山本各委員

協議事項

1.建議原案委員長より說明の上字句一部修正決定す

編輯幹事會（第5回）

時　5月7日午後6時—7時
所　集會室
出席者　幹事長　小林
常務　錦田
幹事　星、生駒、宮崎、山口

議事

1.7月號編輯方針に關する件

法規刊行幹事會（第2回）

時　4月22日午後5時—6時半
所　集會室
出席者　錦田、橫見、景山、水本

議事

1.原稿整理の件

法規刊行幹事會（第3回）

時　5月7日午後5時—6時
所　集會室
出席者　錦田、橫見、景山、水本

議事

1.「市街地建築物法施行細則」中訂正に關する件
2.「工作物築造統制規則」に關す

る件
3.「臨時日本標準規程」に關する件

住宅委員會（第1回）

時　3月3日午後5時半—7時半
所　集會室
出席者　委員長　矢田
幹事　岡本
委員　河合、小林、中野、西田

議事

1.「女性と住生活」展覽會に關する件
2.都市共同住宅に關する件
3.戰時國民住宅に關する件
4.建築必携との連絡に關する件
5.住宅讀本に關する件
6.戰時組立住宅の研究に關する件

住宅委員會（第2回）

時　3月18日午後5時半—7時半
所　集會室
出席者　委員長　矢田
幹事　岡本
委員　星、西田

議事

1.「都市共同住宅」に關する件
2.「住宅讀本」に關する件

住宅委員會（第3回）

時　4月15日午後6時半—7時半
所　集會室
出席者　委員長　矢田
幹事　岡本
委員　星、西田、中野、河合

議事

1.「都市共同住宅」の件
2.「戰時組立住宅」の件
3.「住宅讀本」の件

會員動靜

入會

會員

木子信一君　京都市上京區北野白梅野28（株式會社丸物營膳係）
野崎平治君　住吉區鷹合町272（八木工務店）
三浦武夫君　港區八幡屋錦町182の1（八木工務店）
水本正夫君　大正區三軒家東3の24（大阪府警察部）
山田昭君　兵庫縣武庫郡本山村岡本64（大林組）

地方會員

南野市朗君　山口縣熊毛郡室積村南町1鳥飼富太殿方
城本岩男君　滿洲國奉天市大和區加茂町16號　株式會社滿洲大林組內（滿洲大林組）

普通賛助員

占部茂君　旭區南島町768神垣殿方
西井實君　府下北河內郡四條村大字北條1407
喜多昌雄君　和歌山市本町3の4（株式會社西本組）
佐野公三君　旭區豊里町1758の124井關慶治殿方
遠矢博久君　和歌山市北田邊町16（株式會社西本組）
松谷弘君　堺市櫛屋町東2の14
山崎正三君　和歌山市西紺谷町2の10（株式會社西本組）

退會

會員

柴田六郎君　得能久正君
花輪正虎君　宮氏幸雄君
岩戸護君　澤田清君
田口銀治郎君　若林源藏君

地方會員

四十宮正雄君　藤重土希雄君

特別賛助員

岩尾千太郎君　竹中健二君
堂窪晏次君　西川誠一君
西村廣三郎君　深谷茂樹君
山下義雄君　山縣康秀君
北野輝夫君　寺坂宗吉君

普通賛助員

飯野敏明君　田中新之助君
中山章君

轉居・轉勤

生駒忠彥君　東住吉區北田邊町329（勤務先）住宅營團大阪支所建設部
河村惇君　山口縣光市光井4519曾根義助殿方
野間亮平君　兵庫縣川邊郡小濱村米谷字塚垣內117
繁田實君　東住吉區北田邊町144
今西茂雄君　阿倍野區西長居町490
村奇修君　神戸市神戸區下山手通7の41
三好傳二君　阿倍野區丸山通1の78
中家實君　阿倍野區阪南町西1の51
原田武雄君　池田市大字西市場池ノ下43石橋住宅營團110號
大杉謙二君　朝鮮羅南生駒町羅南師團經理部工務課
淺井泰君　兵庫縣武庫郡良元村伊子志字逆瀨347
大海將弘君　旭區大宮町6の1（勤務先）北區豊里町攝南高等工業學校
網本繁一君　尼崎市三反田町生田45
西田偉三君　（勤務先）關西配電株式會社
森川義雄君　和歌山市關戸高松269
後藤四郎君　三重縣宇治山田市船江町東洋紡績山田工場社宅

保田信夫君　東京市神田區駿河臺2の1

地方會員

久保田英雄君　新京八島通22の1(滿洲清水組內)

園部泰文君　東京市中野區高根町24

增本榮六君　岡山市久山町8

曾我部幸雄君　長野縣南佐久郡中込町株式會社津上安宅製作所信州工場建設事務所

近藤義雄君　北區黑崎町41

藤田元吉君　廣島縣佐伯郡五日市町字五日市乙1009の2(勤務先)廣島市宇品町11の41住宅營團廣島支所

和田喜藏君　大連市眞弓町5

特別賛助員

光井福松君　東淀川區東塚本町2の35

久野飯太郎君　尼崎市西字在所內935

普通賛助員

横田　肇君　旭區大宮西之町7の41(鹿島弘養殿方)

吉川秀夫君　熊本市健軍町字立野竹中工務店作業所內

改姓名

會　員

大海卯一君　(舊名)將弘、旭區大宮町6の1

死亡

地方會員

織田泰雄君

木村外茂夫君　昭和17年11月29日逝去

友田　薰君　昭和18年4月2日逝去

永野房吉君　昭和16年4月逝去

通常賛助員

黑田　浩君

(謹んで哀悼の意を表す)

編輯後記

最近、本誌の發行がまことに遲延致し、殊に本號などは月が變つてしまふ程の後れようで、何ともお詫びのしようがない。云ひ譯がましくなるが、最近、世の中が何となく慌しく、折角寄稿の承諾を得てゐても〆切期日近くになつて俄かに斷られる向も多々あり、寫眞の製版は製版で2日で出來たものが1週間以上も要する始末、印刷も又その通り、人手不足から文撰、植字、校正、印刷製本と月の半ばもかゝる有樣、一度おくれるとそのだ勢で又おくれてしまひ、つひに本號の如き不始末になつてしまつた。

しかし、これでは會員諸君には申し譯ないと、緊急編輯幹事會を開き、組織を再編成陣容を强化し、全員協力して此にあたることになつた。次號とはいかなくても、七月號あたりから定められた日には、內容を更新且豐富にしてお目にかけるつもりでゐる。

それから、此は會勢幹事會のことであるが、同會の催しは今後本誌上に於いて發表することになり、會員各位への個々の通知は經費節約の意味から略することになつたので、本誌の卷頭、會告欄をお見落しなきように希望する。尤も日時のことも本誌の發行とにらみあはして手落ちのない樣には致す考へである。以上餘白を利用してお詫びまで(こ)

建築と社會

第26輯　第5號

毎月1回1日發行　定價㊎　1册 50錢(郵稅2錢)　12册 6圓(〃 24錢)

昭和18年5月15日印刷　昭和18年5月20日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川　弘

大阪市北區朝日ビル日本建築會內

印刷所　新日本印刷有限會社

大阪市北區南錦町46番地

發行所　社團法人　日本建築協會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長北濱(23)4501番(9)

振替口座大阪 39975番

日本出版文化協會會員番號222043

配給元　日本出版配給株式會社

東京市神田區淡路町二丁目九番地

禁轉載

本號に掲載せるものは一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

●第二六集　第五号　掲載広告一覧（掲載順）

竹原文泉社
日本竹筋工業所
米本栄商店
ライトラバー商会
日本陶織
織本建築設計計算事務所
矢橋大理石商店
南満建材工業所
建築金物商会
平松釣戸車製造所
協和製作所
大阪窯業セメント
大阪伊丹商店
大西商店
萩工業
東洋リノリューム
東亜化工
マルケイ建築材料
椎名営業所